



## **Cisco AsyncOS 8.0.1 CLI リファレンス ガイド**

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 ([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, the Cisco logo, Cisco Nurse Connect, Cisco Pulse, Cisco SensorBase, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flipshare (Design), Flip Ultra, Flip Video, Flip Video (Design), Instant Broadband, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Capital, Cisco Capital (Design), Cisco:Financed (Stylized), Cisco Store, Flip Gift Card, and One Million Acts of Green are service marks; and Access Registrar, Aironet, AllTouch, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, Continuum, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Explorer, Follow Me Browsing, GainMaker, iLNX, IOS, iPhone, IronPort, the IronPort logo, Laser Link, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, PCNow, PIX, PowerKEY, PowerPanels, PowerTV, PowerTV (Design), PowerVu, Prisma, ProConnect, ROSA, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0910R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。



# CONTENTS

## はじめに xi

このマニュアルをお読みにする前に xi

このマニュアルの構成 xii

印刷時の表記法 xiii

シスコ サポート コミュニティ xiii

トレーニングと認定試験 xiv

Knowledge Base xiv

シスコのテクニカル サポート xv

サードパーティ コントリビュータ xvi

マニュアルに関するフィードバック xvi

---

## CHAPTER 1

### AsyncOS CLI クイック リファレンス ガイド 1-1

---

## CHAPTER 2

### CLI の概要 2-1

コマンドライン インターフェイス (CLI) 2-1

コマンドライン インターフェイス (CLI) へのアクセス 2-2

コマンドライン インターフェイスの表記法 2-2

汎用 CLI コマンド 2-7

バッチ コマンド 2-9

バッチ コマンド例 2-10

---

## CHAPTER 3

### コマンド : 参考例 3-1

リストの読み方 3-2

Anti-Spam 3-2

antispamconfig	3-2
antispamstatus	3-5
antispamupdate	3-7
incomingrelayconfig	3-7
sblconfig	3-15
アンチウイルス	3-18
antivirusconfig	3-18
antivirusstatus	3-22
antivirusupdate	3-23
コマンドラインの管理	3-24
commit	3-24
commitdetail	3-25
clearchanges または clear	3-26
help または h または ?	3-27
quit または q または exit	3-28
コンフィギュレーション ファイルの管理	3-29
loadconfig	3-29
mailconfig	3-32
resetconfig	3-33
saveconfig	3-35
showconfig	3-36
クラスタの管理	3-37
clusterconfig	3-38
clustercheck	3-40
データ消失防止	3-41
dlprollback	3-41
dlpstatus	3-42
dlpupdate	3-43
emconfig	3-45
ドメイン キー	3-49

domainkeysconfig	3-49
DNS	3-73
dig	3-74
dnsconfig	3-77
dnsflush	3-86
dnslistconfig	3-87
dnslistflush	3-89
dnslisttest	3-90
dnsstatus	3-91
一般的な管理 / トラブルシューティング	3-92
addressconfig	3-94
adminaccessconfig	3-96
certconfig	3-106
diagnostic	3-115
encryptionconfig	3-120
encryptionstatus	3-128
encryptionupdate	3-128
featurekey	3-129
featurekeyconfig	3-131
ntpconfig	3-132
reboot	3-136
remotepower	3-137
resume	3-139
resumedel	3-140
resumelister	3-141
settime	3-142
setz	3-143
shutdown	3-146
sshconfig	3-147
status	3-150

supportrequest	3-154
suspend	3-156
suspenddel	3-157
suspendlistener	3-158
techsupport	3-159
tlsverify	3-162
trace	3-164
tzupdate	3-170
updateconfig	3-171
updatenow	3-176
version	3-177
upgrade	3-178
LDAP	3-179
ldapconfig	3-180
ldapflush	3-193
ldaptest	3-194
sievechar	3-196
メール配信の設定 / モニタリング	3-198
addresslistconfig	3-199
aliasconfig	3-202
archivemessage	3-209
altsrghost	3-210
bounceconfig	3-214
bouncerecipients	3-225
bvconfig	3-228
deleterecipients	3-232
deliveryconfig	3-236
delivernow	3-238
destconfig	3-239
例 : グローバル設定	3-256

hostrate	3-257
hoststatus	3-258
oldmessage	3-263
rate	3-264
redirectrecipients	3-266
resetcounters	3-267
removemessage	3-268
showmessage	3-269
showrecipients	3-270
status	3-273
tophosts	3-276
topin	3-278
unsubscribe	3-280
workqueue	3-283
ネットワーク設定 / ネットワーク ツール	3-285
etherconfig	3-286
interfaceconfig	3-298
nslookup	3-307
netstat	3-308
ping	3-310
routeconfig	3-312
setgateway	3-318
sethostname	3-319
smtproutes	3-321
SMTP ルートのドメインを変更するには、 <code>smtproutes -&gt; EDIT</code> を使 用します。	3-324
sslconfig	3-324
telnet	3-328
traceroute	3-330
Outbreak フィルタ	3-331

outbreakconfig	3-332
outbreakflush	3-334
outbreakstatus	3-335
outbreakupdate	3-337
ポリシーの実施	3-338
dictionaryconfig	3-338
exceptionconfig	3-350
filters	3-353
policyconfig	3-357
quarantineconfig	3-418
scanconfig	3-423
stripheaders	3-428
textconfig	3-429
ロギングとアラート	3-438
alertconfig	3-439
grep	3-446
logconfig	3-448
rollovernow	3-466
snmpconfig	3-469
tail	3-474
レポートイング	3-477
reportingconfig	3-477
SenderBase	3-488
sbstatus	3-488
senderbaseconfig	3-490
SMTP サービスの設定	3-491
listenerconfig	3-492
例 : SPF および SIDF の設定	3-525
localeconfig	3-531
smtpauthconfig	3-534

システムのセットアップ	3-538
systemsetup	3-538
ユーザの管理	3-551
userconfig	3-551
password または passwd	3-558
last	3-559
who	3-560
whoami	3-561





## はじめに

---

『Cisco IronPort AsyncOS CLI リファレンス ガイド』では、IronPort 電子メールセキュリティ アプライアンス上の AsyncOS コマンドライン インターフェイスの詳細なリストと使用例を示します。これらの方法は、ネットワーキングおよび電子メールの管理に関する知識を持つ、経験豊富なシステム管理者向けに記載されています。

## このマニュアルをお読みになる前に

このマニュアルは、IronPort アプライアンスのインストールおよび設定が完了していることを前提としています。また、『Cisco AsyncOS for Email User Guide』に精通する必要があります。



(注)

すでにアプライアンスをネットワークに配線済みの場合は、IronPort アプライアンスのデフォルト IP アドレスが、ネットワーク上の他の IP アドレスと競合していないことを確認します。工場出荷時に管理ポートに割り当てられた IP アドレスは、192.168.42.42 です。IronPort アプライアンスへの IP アドレス割り当ての詳細については、『Cisco AsyncOS for Email User Guide』のセットアップおよびインストールを参照してください。

## ドキュメント セット

電子メールセキュリティ アプライアンスの関連資料は、次のとおりです。

- 『Cisco AsyncOS for Email User Guide』

- 『Cisco Content Security Virtual Appliance Installation Guide』
- 『Cisco AsyncOS CLI リファレンス ガイド』

マニュアルの内容 Cisco Content Security 製品	参照先
Cisco E メール セキュリティ	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps10154/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps10154/tsd_products_support_series_home.html</a>
Cisco Web Security	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps10164/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps10164/tsd_products_support_series_home.html</a>
Cisco コンテンツ セキュリティ管理	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps10155/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps10155/tsd_products_support_series_home.html</a>
Cisco コンテンツ セキュリティ アプライアンスの CLI リファレンス ガイド	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps10154/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps10154/tsd_products_support_series_home.html</a>
Cisco IronPort 暗号化	<a href="http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10602/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10602/tsd_products_support_series_home.html</a>

## このマニュアルの構成

第 1 章「AsyncOS CLI クイック リファレンス ガイド」では、CLI のほとんどのコマンドに関するクイック リファレンスを示します。

第 2 章「CLI の概要」では、CLI を使用するための基本的な情報として、CLI へのアクセス方法、CLI の一般的な使用方法、バッチ コマンドなどについて説明します。

第 3 章「コマンド：参考例」では、各コマンドのサンプル CLI セッションを示します。

## 印刷時の表記法

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド、ファイル、およびディレクトリの名前、画面に表示されるコンピュータの出力。	Please choose an IP interface for this Listener.  sethostname コマンドは、IronPort アプライアンスの名前を設定します。
AaBbCc123	ユーザ入力（画面上的コンピュータ出力と対比される場合）。	mail3.example.com> <b>commit</b> Please enter some comments describing your changes: []> <b>Changed the system hostname</b>
AaBbCc123	マニュアルのタイトル、新しい語句や用語、強調する語句。コマンドライン変数（実際の名前や値に置き換えられる部分）。	『 <i><u>IronPort Quickstart Guide</u></i> 』を参照してください。  IronPort アプライアンスは、発信パケットを送信するためのインターフェイスを一意に選択できる必要があります。  Before you begin, please reset your password to a new value. Old password: <b>ironport</b> New password: <i>your_new_password</i> Retype new password: <i>your_new_password</i>

## シスコ サポート コミュニティ

シスコ サポート コミュニティは、シスコのお客様、パートナー、および従業員のオンラインフォーラムです。電子メールおよび Web セキュリティに関する一般的な問題や、特定のシスコ製品に関する技術情報について話し合う場を提供します。フォーラムにトピックを投稿して質問したり、他のシスコ ユーザや Cisco IronPort ユーザと情報を共有したりできます。

シスコ サポート コミュニティには次の URL からアクセスできます。

<https://supportforums.cisco.com>

## トレーニングと認定試験

シスコでは、技術者、パートナー、学生など、それぞれのニーズに合わせた、さまざまなトレーニングプログラムおよびトレーニングコースを用意しています。日本のトレーニングと認定試験の情報については、以下の Web サイトをご覧ください。

<http://www.cisco.com/web/JP/event/index.html>

## Knowledge Base

Cisco IronPort カスタマー サポート ページ上の IronPort Knowledge Base には、次の URL でアクセスできます。

<http://cisco.com/web/ironport/index.html>



(注)

---

サイトにアクセスするには、シスコ サポート アカウントが必要です。このアカウントがない場合は、[サポート (Support)] ページの [登録 (Register)] リンクをクリックします。通常、Cisco のお客様、Cisco のパートナー、および Cisco 従業員のみが [サポート (Support)] ページにアクセスできます。

---

Knowledge Base には、IronPort 製品に関する豊富な情報が用意されています。通常、記事は次のカテゴリのいずれかに分類されています。

- **How-To。** これらの記事では、IronPort 製品の操作方法について説明します。たとえば、How-To の記事では、アプライアンス用データベースのバックアップをとり、復元する手順について説明します。
- **Problem-and-Solution。** 問題と解決策の項目では、IronPort 製品の使用時に発生する可能性があるエラーや問題に対処します。たとえば、Problem-and-Solution の記事では、製品の新しいバージョンへのアップグレード時に特定のエラーメッセージが表示された場合の対応方法について説明します。
- **Reference。** Reference の記事は、通常、特定のハードウェアに関連するエラー コードなど情報のリストを提供します。

- **Troubleshooting.** Troubleshooting の記事は、IronPort 製品に関する一般的な問題の分析方法および解決方法について説明します。たとえば、Troubleshooting の記事は、DNS で問題が発生した場合に従う手順を提供します。

Knowledge Base 内の各記事には、一意の回答 ID 番号がついています。

## シスコのテクニカル サポート

次の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。

<http://www.cisco.com/en/US/support/index.html>

以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。

- テクニカル サポートを受ける
- ソフトウェアをダウンロードする
- セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける
- ツールおよびリソースへアクセスする
  - Product Alert の受信登録
  - Field Notice の受信登録
  - Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索
- Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する
- トレーニング リソースへアクセスする
- TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する

Japan テクニカル サポート Web サイトでは、Technical Support Web サイト (<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html>) の、利用頻度の高いドキュメントを日本語で提供しています。

Japan テクニカル サポート Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/cisco/web/JP/support/index.html>

## サードパーティコントリビュータ

IronPort AsyncOS 内に付属の一部のソフトウェアは、FreeBSD、Stichting Mathematisch Centrum、Corporation for National Research Initiatives などのサードパーティコントリビュータのソフトウェア使用許諾契約の条項、通知、条件の下に配布されています。これらすべての契約条件は、IronPort ライセンス契約に含まれています。

これらの契約内容の全文は次の URL を参照してください。

[https://support.ironport.com/3rdparty/AsyncOS\\_User\\_Guide-1-1.html](https://support.ironport.com/3rdparty/AsyncOS_User_Guide-1-1.html).

IronPort AsyncOS 内の一部のソフトウェアは、Tobi Oetiker の書面による同意を得て、RRDtool を基にしています。

このマニュアルには、Dell Computer Corporation の許可を得て複製された内容が一部含まれています。このマニュアルには、McAfee の許可を得て複製された内容が一部含まれています。このマニュアルには、Sophos の許可を得て複製された内容が一部含まれています。

## マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバックフォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。



# CHAPTER 1

## AsyncOS CLI クイック リファレンス ガイド

次の表を使用すると、目的の CLI コマンドを見つけ、その簡単な説明と C-Series、X-Series、M-Series の各プラットフォームで実行可能かどうかを確認できます。

表 1-1 CLI コマンド (確定が不要なもの)

CLI コマンド	説明	実行可能なプラットフォーム
<a href="#">antispamstatus</a>	Anti-Spam ステータスを表示します。	C-Series、X-Series
<a href="#">antispamupdate</a>	スパム定義を手動で更新します。	C-Series、X-Series
<a href="#">antivirusstatus</a>	Anti-Virus ステータスを表示します。	C-Series、X-Series
<a href="#">antivirusupdate</a>	ウイルス定義を手動で更新します。	C-Series、X-Series
<a href="#">archivemessage</a>	キュー内の古いメッセージをアーカイブします。	C-Series、X-Series
<a href="#">bouncerecipients</a>	キューからメッセージをバウンスします。	C-Series、X-Series、M-Series
<a href="#">clearchanges</a> または <a href="#">clear</a>	変更をクリアします。	C-Series、X-Series、M-Series
<a href="#">commit</a>	変更を確定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<a href="#">commitdetail</a>	最後の確定に関する詳細情報を表示します。	C-Series、X-Series
<a href="#">deleterecipients</a>	キューからメッセージを削除します。	C-Series、X-Series、M-Series

表 1-1 CLI コマンド（確定が不要なもの）（続き）

<b>delivernow</b>	メッセージのスケジュールを即時配信用に再設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<b>diagnostic</b>	RAID ディスク、ネットワーク キャッシュ、および SMTP 接続をチェックします。ネットワーク キャッシュをクリアします。	C-Series、X-Series、M-Series
<b>dig</b>	DNS サーバ上でレコードをルックアップします	C-Series、X-Series
<b>dlprollback</b>	ロール バック RSA DLP エンジン	C-Series、X-Series
<b>dlpstatus</b>	RSA DLP エンジンのバージョン情報	C-Series、X-Series
<b>dlpupdate</b>	更新 RSA DLP エンジン	C-Series、X-Series
<b>dnsflush</b>	DNS キャッシュからすべてのエントリをクリアします。	C-Series、X-Series、M-Series
<b>dnslistflush</b>	現在の DNS リスト キャッシュをフラッシュします。	C-Series、X-Series
<b>dnslisttest</b>	DNS ベースのリスト サービスの DNS ルックアップをテストします。	C-Series、X-Series
<b>dnsstatus</b>	DNS 統計情報を表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<b>encryptionstatus</b>	PXE エンジンとドメイン マッピング ファイルのバージョンを表示します。	C-Series、X-Series
<b>encryptionupdate</b>	PXE エンジンの更新を要求します。	C-Series、X-Series
<b>featurekey</b>	システム機能キーを管理します。	C-Series、X-Series、M-Series
<b>grep</b>	ログ ファイル内のテキストを検索します。	C-Series、X-Series、M-Series
<b>help または h または ?</b>	ヘルプ	C-Series、X-Series、M-Series
<b>hostrate</b>	特定のホストのアクティビティをモニタします。	C-Series、X-Series、M-Series
<b>hoststatus</b>	特定のホスト名のステータスを取得します。	C-Series、X-Series、M-Series
<b>last</b>	システムに最近ログインしたユーザを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<b>ldapflush</b>	キャッシュされている LDAP の結果をフラッシュします。	C-Series、X-Series

表 1-1 CLI コマンド（確定が不要なもの）（続き）

<code>ldaptest</code>	1 つの LDAP クエリー テストを実行します。	C-Series、X-Series
<code>mailconfig</code>	現在の設定を電子メール アドレスに送信します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>nslookup</code>	ネームサーバに問い合わせます。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>netstat</code>	ネットワーク接続、ルーティング テーブル、およびネットワーク インターフェイス統計情報を表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>outbreakflush</code>	キャッシュされている発生ルールをクリアします。	C-Series、X-Series
<code>outbreakstatus</code>	現在のアウトブレイク ルールを表示します。	C-Series、X-Series
<code>outbreakupdate</code>	ウイルス感染フィルタ ルールを更新します。	C-Series、X-Series
<code>oldmessage</code>	キュー内の古いメッセージのリストを表示します。	C-Series、X-Series
<code>packetcapture</code>	ネットワーク経由で送受信されたパケットを傍受して表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>ping</code>	ネットワーク ホストに対して ping を実行します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>quit</code> または <code>q</code> または <code>exit</code>	終了します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>rate</code>	メッセージのスループットをモニタします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>reboot</code>	システムを再起動します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>removemessage</code>	古い未配信のメッセージをキューから削除します。	C-Series、X-Series
<code>redirectrecipients</code>	すべてのメッセージを別のリレー ホストにリダイレクトします。	C-Series、X-Series
<code>resetconfig</code>	工場出荷時のデフォルト設定に戻します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>resetcounters</code>	システム内のすべてのカウンタをリセットします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>resume</code>	受信と配信を再開します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>resumedel</code>	配信を再開します。	C-Series、X-Series、M-Series

表 1-1 CLI コマンド（確定が不要なもの）（続き）

<code>resumelistener</code>	受信を再開します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>rollovernow</code>	ログ ファイルをロール オーバーします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>saveconfig</code>	設定をディスクに保存します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>sbstatus</code>	SenderBase クエリーのステータスを表示します。	C-Series、X-Series
<code>settime</code>	システム クロックを手動で設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>showmessage</code>	キュー内の古い未配信のメッセージを表示します。	C-Series、X-Series
<code>showconfig</code>	すべての設定値を表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>showrecipients</code>	キュー内のメッセージを受信者ホスト別または Envelope From アドレス別に表示するか、すべてのメッセージを表示します。	C-Series、X-Series
<code>shutdown</code>	システムをシャットダウンして電源を切ります。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>slblconfig</code>	エンド ユーザのセーフリスト/ブロック リストを設定します。	C-Series、X-Series
<code>status</code>	System status	C-Series、X-Series、M-Series
<code>supportrequest</code>	IronPort カスタマー ケアにメッセージを送信します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>suspend</code>	受信と配信を中断します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>suspenddel</code>	配信を中断します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>suspendlistener</code>	受信を中断します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>systemsetup</code>	最初のシステム設定。	C-Series、X-Series
<code>tail</code>	ログ ファイルの最新部分を継続的に表示します。	C-Series、X-Series、M-Series

表 1-1 CLI コマンド（確定が不要なもの）（続き）

<code>techsupport</code>	IronPort のカスタマー サービスがシステムにアクセスできるようにします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>telnet</code>	リモート ホストに接続します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>tlsverify</code>	リモート ホストに対する発信 TLS 接続を確立し、TLS 接続の問題をデバッグします。	C-Series、X-Series
<code>tophosts</code>	キューのサイズの順に上位のホストを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>topin</code>	着信接続の数の順に上位のホストを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>trace</code>	システムを通過するメッセージのフローを追跡します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>traceroute</code>	リモート ホストへのネットワーク ルートを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>tzupdate</code>	タイムゾーン ルールを更新します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>updatenow</code>	すべてのコンポーネントを更新します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>upgrade</code>	アップグレードをインストールします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>version</code>	システムのバージョン情報を表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>who</code>	ログイン中のユーザのリストを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>whoami</code>	現在のユーザ ID を表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>workqueue</code>	作業キューの一時停止ステータスを表示および変更します。	C-Series、X-Series

表 1-2 に示すコマンドの実行結果を有効にするには、commit コマンドを実行する必要があります。

**表 1-2 CLI コマンド (確定が必要なもの)**

CLI コマンド	説明	実行可能なプラットフォーム
<code>addressconfig</code>	システムで生成するメールの From: アドレスを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>addresslistconfig</code>	アドレス リストを設定します。	C-Series、X-Series
<code>adminaccessconfig</code>	ネットワーク アクセス リストとバナー ログインを設定します。	C-Series、X-Series
<code>alertconfig</code>	電子メール アラートを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>aliasconfig</code>	電子メール エイリアスを設定します。	C-Series、X-Series
<code>altsrchost</code>	Virtual Gateway™ のマッピングを設定します。	C-Series、X-Series
<code>antispamconfig</code>	Anti-Spam ポリシーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>antivirusconfig</code>	Anti-Virus ポリシーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>bounceconfig</code>	バウンスの動作を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>bvconfig</code>	発信メールのキー設定値を設定し、無効なバウンスの処理方法を設定します。	C-Series、X-Series
<code>certconfig</code>	セキュリティの証明書とキーを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>clusterconfig</code>	クラスタ関連の設定を実行します。	C-Series、X-Series
<code>deliveryconfig</code>	メール配信を設定します。	C-Series、X-Series
<code>destconfig</code>	[ 送信先コントロール (Destination Controls) ] テーブルのオプションを設定します。	C-Series、X-Series
<code>dictionaryconfig</code>	コンテンツ ディクショナリを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>dnsconfig</code>	DNS のセットアップを設定します。	C-Series、X-Series
<code>dnslistconfig</code>	DNS リスト サービスのサポートを設定します。	C-Series、X-Series
<code>domainkeysconfig</code>	DomainKeys のサポートを設定します。	C-Series、X-Series
<code>emconfig</code>	RSA Enterprise Manager の相互運用性を設定します。	C-Series、X-Series

表 1-2 CLI コマンド（確定が必要なもの）（続き）

<code>encryptionconfig</code>	電子メール暗号化を設定します。	C-Series、X-Series
<code>etherconfig</code>	イーサネットの設定値を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>exceptionconfig</code>	ドメイン例外テーブルを設定します。	C-Series、X-Series
<code>featurekeyconfig</code>	機能キーを自動的にチェックし、更新します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>filters</code>	メッセージ処理オプションを設定します。	C-Series、X-Series
<code>incomingrelayconfig</code>	着信リレーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>interfaceconfig</code>	イーサネット IP アドレスを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>listenerconfig</code>	メール リスナーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>ldapconfig</code>	LDAP サーバを設定します。	C-Series、X-Series
<code>loadconfig</code>	設定ファイルをロードします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>localeconfig</code>	多言語対応の設定値を設定します。	C-Series、X-Series
<code>logconfig</code>	ログ ファイルへのアクセスを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>ntpconfig</code>	NTP タイム サーバを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>outbreakconfig</code>	感染フィルタを設定します。	C-Series、X-Series
<code>password</code> または <code>passwd</code>	自分のパスワードを変更します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>policyconfig</code>	受信者単位または送信者ベースのポリシーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>quarantineconfig</code>	システムの隔離を設定します。	C-Series、X-Series
<code>remotepower</code>	指定されたハードウェア専用のアプライアンスシャーシのリモート パワー リセットを許可するようにアプライアンスをセット アップします。	C、M と S シリーズ
<code>reportingconfig</code>	レポートニングの設定値を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>routeconfig</code>	IP ルーティング テーブルを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series

表 1-2 CLI コマンド（確定が必要なもの）（続き）

<code>scanconfig</code>	添付ファイルのスキャン ポリシーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>senderbaseconfig</code>	SenderBase の接続設定値を設定します。	C-Series、X-Series
<code>setgateway</code>	デフォルト ゲートウェイ（ルータ）を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>sethostname</code>	マシンの名前を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>settz</code>	ローカル タイム ゾーンを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>sievechar</code>	RFC 3598 に規定されている Sieve 電子メール フィルタリングの文字を設定します。	C-Series、X-Series
<code>smtpauthconfig</code>	SMTP Auto プロファイルを設定します。	C-Series、X-Series
<code>smtproutes</code>	永続的なドメイン転送を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>snmpconfig</code>	SNMP を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>sshconfig</code>	SSH キーを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>sslconfig</code>	SSL の設定値を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>stripheaders</code>	削除するメッセージ ヘッダーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>textconfig</code>	テキスト リソースを設定します。	C-Series、X-Series
<code>unsubscribe</code>	グローバル配信停止リストを更新します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>updateconfig</code>	システム更新パラメータを設定します。	C-Series、X-Series
<code>userconfig</code>	ユーザ アカウントと外部の認証ソースへの接続を管理します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>last</code>	ユーザを追加、編集、または削除します。	C-Series、X-Series、M-Series



## CHAPTER 2

# CLI の概要

---

この章は、次の内容で構成されています。

- 「コマンドライン インターフェイス (CLI)」 (P.2-1)
- 「バッチ コマンド」 (P.2-9)

## コマンドライン インターフェイス (CLI)

IronPort AsyncOS のコマンドライン インターフェイスは、IronPort アプリケーションを設定およびモニタするために設計されたインタラクティブなインターフェイスです。コマンド名を入力することでコマンドが呼び出されます。バッチ形式コマンドの場合は、引数 (パラメータ) を指定してコマンド名を入力します。引数を指定せずにコマンドを入力した場合は、必要な情報を要求するプロンプトが表示されます。

コマンドライン インターフェイスには、SSH または Telnet のサービスがイネーブルに設定されている IP インターフェイスで SSH または Telnet 経由、またはシリアル ポートで端末エミュレーション ソフトウェアを使用してアクセスできます。工場出荷時のデフォルトでは、管理ポートに SSH および Telnet が設定されています。これらのサービスをディセーブルにするには、『Cisco IronPort AsyncOS Daily Management Guide』の「GUI でのその他の作業」に記載されている `interfaceconfig` コマンドを使用します。

## コマンドライン インターフェイス (CLI) へのアクセス

CLI へのアクセスは、アプライアンスのセットアップ時に選択した管理接続方式によって異なります。工場出荷時のデフォルト ユーザ名およびパスワードを次に示します。当初は、**admin** ユーザ アカウントだけが CLI にアクセスできます。**admin** アカウントを介してコマンドライン インターフェイスに初回アクセスしたうえで、さまざまな許可レベルの他のユーザを追加できます **System Setup Wizard** で、**admin** アカウントのパスワードを変更するよう要求されます。**admin** アカウントのパスワードは、`password` コマンドを使用して、任意の時点で直接再設定することもできます。

イーサネットを介して接続する場合は、工場出荷時のデフォルト IP アドレスの **192.168.42.42** を使用して **SSH** セッションまたは **Telnet** セッションを開始します。**SSH** は、ポート **22** を使用するように設定されています。**Telnet** は、ポート **23** を使用するように設定されています。下記のユーザ名とパスワードを入力します。

シリアル接続を介して接続する場合は、パーソナル コンピュータのシリアル ケーブルが接続されている通信ポートを使用して端末セッションを開始します。詳細については、『*Cisco IronPort AsyncOS Configuration Guide*』の「セットアップおよび設置」の章を参照してください。下記のユーザ名とパスワードを入力します。

下記のユーザ名およびパスワードを入力してアプライアンスにログインします。

### 工場出荷時のデフォルト ユーザ名とパスワード

- ユーザ名 : **admin**
- パスワード : **ironport**

次に例を示します。

```
login: admin
```

```
password: ironport
```

## コマンドライン インターフェイスの表記法

ここでは、AsyncOS CLI のルールおよび表記法について説明します。

## コマンド プロンプト

最上位のコマンド プロンプトは、完全修飾ホスト名に続いて大なり (>) 記号とスペース 1 つで構成されます。次に例を示します。

```
mail3.example.com>
```

アプライアンスが集中管理機能を使用したクラスタの一部として設定されている場合、CLI のプロンプトが変わって現在のモードを示します。次に例を示します。

```
(Cluster Americas) >
```

または

```
(Machine los_angeles.example.com) >
```

詳細については、『*Cisco IronPort AsyncOS Advanced Configuration Guide*』の「**Centralized Management**」を参照してください。

コマンドを実行すると、CLI によりユーザの入力が要求されます。CLI がユーザの入力を待機している場合は、コマンド プロンプトとして、角カッコ ([ ]) で囲まれたデフォルト入力値の後に大なり (>) 記号が表示されます。デフォルトの入力値がない場合、コマンド プロンプトのカッコ内は空です。

次に例を示します。

```
Please create a fully-qualified hostname for this Gateway  
(Ex: "mail3.example.com"):  
[ ]> mail3.example.com
```

デフォルト設定がある場合は、コマンド プロンプトのカッコ内にその設定が表示されます。次に例を示します。

```
Ethernet interface:  
1. Data 1  
2. Data 2  
3. Management  
[1]> 1
```

デフォルト設定が表示される場合に **Return** を入力すると、デフォルト値を入力したことになります。

```
Ethernet interface:  
1. Data 1  
2. Data 2  
3. Management  
[1]> (type Return)
```

## コマンド構文

インタラクティブ モードで動作中の場合、CLI コマンド構文は、空白スペースを含めず、引数やパラメータも指定しない単一コマンドで構成されます。次に例を示します。

```
mail3.example.com> systemsetup
```

## 選択リスト

入力できる複数の選択肢がある場合、コマンドによっては番号付きリストを使用します。プロンプトで選択する番号を入力します。

次に例を示します。

```
Log level:  
1. Error  
2. Warning  
3. Information  
4. Debug  
5. Trace  
[3]> 3
```

## Yes/No クエリー

**yes** または **no** のオプションがある場合、質問はデフォルト値（カッコ内表示）を付けて表示されます。**Y**、**N**、**Yes**、または **No** で返答できます。大文字小文字の区別はありません。

次に例を示します。

```
Do you want to enable FTP on this interface? [Y]> n
```

## サブコマンド

コマンドによっては、サブコマンドを使用する場合があります。サブコマンドには、NEW、EDIT、および DELETE などの命令があります。EDIT および DELETE の機能の場合、これらのコマンドは、システムですでに設定されているレコードのリストを提供します。

次に例を示します。

```
mail3.example.com> interfaceconfig

Currently configured interfaces:
1. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new interface.
- EDIT - Modify an interface.
- GROUPS - Define interface groups.
- DELETE - Remove an interface.
[ ]>
```

サブコマンド内からメイン コマンドに戻るには、空のプロンプトで **Enter** または **Return** を入力します。

## エスケープ

サブコマンド内でいつでも **Ctrl+C** キーボード ショートカットを使用して、すぐに最上位の CLI に戻ることができます。

## 履歴

CLI は、セッション中に入力するすべてのコマンドの履歴を保持します。最近使用したコマンドの実行リストをスクロールするには、キーボードの↑および↓の矢印キーを使用するか、Ctrl+P キーと Ctrl+N キーを組み合わせで使用します。

```
mail3.example.com> (type the Up arrow key)
```

```
mail3.example.com> interfaceconfig (type the Up arrow key)
```

```
mail3.example.com> topin (type the Down arrow key)
```

## コマンドの補完

IronPort AsyncOS CLI はコマンド補完機能をサポートしています。あるコマンドの先頭数文字を入力して Tab キーを入力すると、CLI によって一意のコマンドのストリングが補完されます。入力した文字がコマンドの中で一意ではない場合、CLI はそのセットを「絞り込み」ます。次に例を示します。

```
mail3.example.com> set (type the Tab key)
setgateway, sethostname, settime, settz
mail3.example.com> seth (typing the Tab again completes the entry with
sethostname)
```

CLI の履歴およびファイルの補完機能では、Enter または Return を入力してコマンドを起動する必要があります。

## 設定の変更

電子メール操作を通常どおり継続しながら、IronPort AsyncOS に対する設定変更を行えます。

設定変更は、次の処理を行うまでは有効になりません。

- 
- ステップ 1** コマンドプロンプトで commit コマンドを発行します。
  - ステップ 2** commit コマンドに必要な入力値を指定します。

### ステップ 3 CLI で `commit` 処理の確認を受け取ります。

確定されていない設定に対する変更は記録されますが、`commit` コマンドが実行されるまでは有効になりません。



(注) AsyncOS のすべてのコマンドが、`commit` コマンドの実行を必要とするわけではありません。変更を有効にする前に確定を行う必要があるコマンドの概要については、[第 1 章「AsyncOS CLI クイック リファレンス ガイド」](#)を参照してください。

CLI セッションの終了、システムのシャットダウン、再起動、障害、または `clear` コマンドの発行により、確定されていない変更はクリアされます。

## 汎用 CLI コマンド

このセクションでは、変更の確定またはクリア、ヘルプへのアクセス、およびコマンドライン インターフェイスの終了に使用するコマンドについて説明します。

### 設定変更の確定

IronPort アプライアンスに対する設定変更の保存には、`commit` コマンドが重要です。設定変更の多くは、`commit` コマンドを入力するまで有効になりません。(変更内容を有効にするために `commit` コマンドを使用する必要がないコマンドも少数あります。`commit` コマンドは、`commit` コマンドまたは `clear` コマンドが最後に発行されてから、IronPort AsyncOS に対して行われた設定変更に適用されます。コメントとして最大 255 文字を使用できます。変更内容は、タイムスタンプとともに確認を受け取るまでは、確定されたものとして認められません。

`commit` コマンドの後のコメントの入力は任意です。

```
mail3.example.com> commit
```

```
Please enter some comments describing your changes:
```

```
[ ]> Changed "psinet" IP Interface to a different IP address  
Changes committed: Wed Jan 01 12:00:01 2003
```



(注)

変更を正常に確定するには、最上位のコマンドプロンプトになっている必要があります。コマンドライン階層の1つ上のレベルに移動するには、空のプロンプトで **Return** を入力します。

## 設定変更のクリア

`clear` コマンドは、`commit` コマンドまたは `clear` コマンドが最後に発行されてから、IronPort AsyncOS の設定に対して行われた変更内容があればクリアします。

```
mail3.example.com> clear
```

```
Are you sure you want to clear all changes since the last commit? [Y]> y
```

```
Changes cleared: Mon Jan 01 12:00:01 2003
```

```
mail3.example.com>
```

## コマンドライン インターフェイス セッションの終了

`quit` コマンドを実行すると、CLI アプリケーションからログアウトします。確定されていない設定変更はクリアされます。`quit` コマンドは電子メール操作には影響しません。ログアウトはログ ファイルに記録されます (`exit` の入力は、`quit` の入力と同じです)。

```
mail3.example.com> quit
```

```
Configuration changes entered but not committed. Exiting will lose changes.
```

```
Type 'commit' at the command prompt to commit changes.
```

```
Are you sure you wish to exit? [N]> y
```

## コマンドライン インターフェイスでのヘルプの検索

help コマンドを実行すると、使用可能なすべての CLI コマンドが表示され、各コマンドの簡単な説明を参照できます。help コマンドは、コマンド プロンプトで help と入力するか、疑問符 (?) を 1 つ入力して実行できます。

```
mail3.example.com> help
```

## バッチ コマンド

AsyncOS はバッチ コマンド形式をサポートしているため、一部の CLI コマンドを新しい単一行 CLI 形式で実行できます。この形式を使用すると、タスクの実行に必要なユーザ入力を削減でき、よく行う設定タスクを簡単に自動化できます。バッチ コマンドでは、SSH クライアントを使用してコマンドをリモートで実行することもできます。これにより、CLI コマンドのスクリプトを作成し、それを一度に複数のアプライアンスで実行することも簡単にできます。

これらのコマンドはアプライアンスに対してコマンドを実行する追加の方法をもたらすだけで、IronPort アプライアンスに新しい機能を追加するわけではないことに注意してください。

AsyncOS の現在のリリースでは、次の CLI コマンドには関連するバッチ コマンドがあります。

- addresslistconfig
- adminaccessconfig
- aliasconfig
- delivernow
- destconfig
- dig
- dlpupdate
- domainkeysconfig
- emconfig
- interfaceconfig
- listenerconfig -> hostaccess (HAT)
- listenerconfig -> rcptaccess (RAT)
- redirectrecipients

- showrecipients
- scanconfig
- slblconfig
- smtproutes
- tlsverify
- tzupdate
- updatenow

バッチ コマンドの構文は、使用するコマンドによって異なります。使用するコマンドの構文の詳細については、第 3 章「コマンド：参考例」の該当する CLI の例を参照してください。

## バッチ コマンド例

次の例では、送信者グループの REDLIST が作成されます。さらに、その REDLIST がポリシー THROTTLED に関連付けられ、送信者「possible\_spammer.com」が送信者グループに追加されます。

このアクションを CLI で実行する場合：

```
example.com> listenerconfig
```

```
Currently configured listeners:
```

1. IncomingMail (on Management, 192.168.42.42/24) SMTP TCP Port 25 Public
2. OutgoingMail (on Data 2, 192.168.40.42/24) SMTP TCP Port 25 Private

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.

- SETUP - Change global settings.

[> **edit**

Enter the name or number of the listener you wish to edit.

[> **IncomingMail**

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change the name of the listener.

- INTERFACE - Change the interface.

- LIMITS - Change the injection limits.

- SETUP - Configure general options.

- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.

- RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.

- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.

- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.

- DOMAINMAP - Configure domain mappings.

[> **HOSTACCESS**

There are currently 4 policies defined.

There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.

- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.

[> **NEW**

1. New Sender Group
2. New Policy

[1]> **1**

Enter a name for this sender group. (optional)

[> **REDLIST**

Enter the hosts to add. CIDR addresses such as 10.1.1.0/24 are allowed.

IP address ranges such as 10.1.1.10-20 are allowed. IP subnets such as 10.2.3. are allowed.

Hostnames such as crm.example.com are allowed.

Partial hostnames such as .example.com are allowed.

Ranges of SenderBase Reputation scores such as SBRS[7.5:10.0] are allowed.

SenderBase Network Owner IDs such as SBO:12345 are allowed.

Remote blacklist queries such as dnslist[query.blacklist.example] are allowed.

Separate multiple hosts with commas

```
[ ]> possible_spammer.com
```

Select a behavior for this entry.

1. Accept
2. Relay
3. Reject
4. TCP Refuse
5. Continue
6. Policy: ACCEPTED
7. Policy: BLOCKED
8. Policy: THROTTLED
9. Policy: TRUSTED

```
[1]> 8
```

Enter a comment for this sender group.

```
[ ]>
```

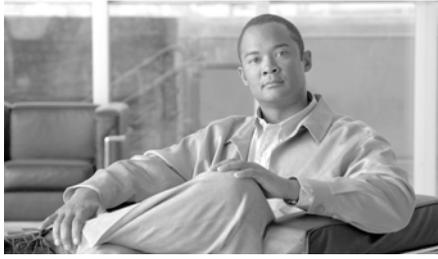
There are currently 4 policies defined.

There are currently 6 sender groups.

同じアクションを CLI バッチ コマンドで実行する場合 :

```
example.com> listenerconfig edit IncomingMail hostaccess new sendergroup  
REDLIST possible_spammer.com Policy: "THROTTLED"
```

```
example.com> commit
```



# CHAPTER 3

## コマンド：参考例

---

この章は、次の内容で構成されています。

- 「Anti-Spam」 (P.3-2)
- 「アンチウイルス」 (P.3-18)
- 「コマンドラインの管理」 (P.3-24)
- 「コンフィギュレーション ファイルの管理」 (P.3-29)
- 「クラスタの管理」 (P.3-37)
- 「データ消失防止」 (P.3-41)
- 「ドメインキー」 (P.3-49)
- 「DNS」 (P.3-73)
- 「一般的な管理/トラブルシューティング」 (P.3-92)
- 「LDAP」 (P.3-179)
- 「メール配信の設定/モニタリング」 (P.3-198)
- 「ネットワーキング設定/ネットワーク ツール」 (P.3-285)
- 「Outbreak フィルタ」 (P.3-331)
- 「ポリシーの実施」 (P.3-338)
- 「ロギングとアラート」 (P.3-438)
- 「レポーティング」 (P.3-477)
- 「SenderBase」 (P.3-488)
- 「SMTP サービスの設定」 (P.3-491)
- 「システムのセットアップ」 (P.3-538)

- 「ユーザの管理」 (P.3-551)

## リストの読み方

コマンドごとに説明と 1 つ以上の使用例が示されています。「使い方」の欄には、以下のコマンド属性についての説明があります。

- ステップ 1** そのコマンドは、アプライアンス上で `commit` コマンドを実行して確定する必要があるかどうか。
- ステップ 2** そのコマンドは特定のモード（クラスタ、グループ、またはマシン）でのみ実行可能か。
- ステップ 3** そのコマンドをバッチ形式で実行できるか。

中央集中型管理の詳細については、『*Cisco IronPort AsyncOS Advanced Configuration Guide*』を参照してください。

バッチ形式の詳細については、「CLI の概要」 (P.1) を参照してください。

## Anti-Spam

ここでは、次のコマンドについて説明します。

- [antispamconfig](#)
- [antispamstatus](#)
- [antispamupdate](#)
- [incomingrelayconfig](#)

### antispamconfig

#### 説明

Anti-Spam ポリシーを設定します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次に、Ironport Anti-Spam の設定例を示します。

**表 3-1            antisпамconfig : IronPort Anti-Spam の設定**

```
mail3.example.com> antisпамconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- IRONPORT - Configure IronPort Anti-Spam.
- MULTISCAN - Configure IronPort Intelligent Multi-Scan.

```
[> ironport
```

```
IronPort Anti-Spam scanning: Disabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- SETUP - Edit IronPort Anti-Spam settings.

```
[> setup
```

```
IronPort Anti-Spam scanning: Disabled
```

**表 3-1            antispanconfig : IronPort Anti-Spam の設定 (続き)**

Would you like to use IronPort Anti-Spam scanning? [Y]> **y**

*The IronPort Anti-Spam License Agreement is displayed (if you have not already accepted it).*

Do you accept the above IronPort Anti-Spam license agreement? []> **Y**

What is the largest size message that IronPort Anti-Spam scanning should scan?

[131072]>

Please specify the IronPort Anti-Spam scanning timeout (in seconds)

[60]>

Would you like to enable regional scanning? [N]>

IronPort Anti-Spam scanning is now enabled on the system. Please note: you must issue the 'policyconfig' command (CLI) or Mail Policies (GUI) to configure IronPort scanning behavior for default and custom Incoming and Outgoing Mail Policies. This is recommended for your DEFAULT policy.

IronPort Anti-Spam scanning: Enabled

### 表 3-1 antispamconfig : IronPort Anti-Spam の設定 (続き)

```
Choose the operation you want to perform:  
  
- SETUP - Edit IronPort Anti-Spam settings.  
  
[]>
```

## antispamstatus

### 説明

Anti-Spam ステータスを表示します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-2            antisпамstatus : IronPort Anti-Spam**

```
mail3.example.com> antisпамstatus
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- IRONPORT - Display IronPort Anti-Spam version and rule information.
- MULTISCAN - Display Intelligent Multi-Scan version and rule information.

```
[ ]> ironport
```

Component	Last Update	Version
CASE Core Files	Base Version	2.7.1-101
Structural Rules	Base Version	2.7.1-101-20091008_021703
CASE Utilities	Base Version	2.7.1-101
Web Reputation DB	Never updated	20050725_000000
Web Reputation Rules	Never updated	20050725_000000-20050725_000000

```
Last download attempt made on: Never
```

# antisпамupdate

## 説明

IronPort Anti-Spam ルールおよび関連する CASE コンポーネントの即時更新を手動で要求します。IronPort Intelligent Multi-Scan (IMS) が使用する IronPort Anti-Spam ルールおよび CASE コンポーネントも対象となります。ただし、IMS が使用するサードパーティ製アンチスパム エンジンは対象外です。

## 使用方法

このコマンドにコミット操作は不要です。  
このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。  
このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-3**                    **antisпамupdate**

```
mail3.example.com> antisпамupdate
```

```
Requesting check for new CASE definitions
```

# incomingrelayconfig

## 説明

incomingrelayconfig コマンドは、着信リレー機能をイネーブルにして設定するために使用します。次の例では、まず着信リレー機能をイネーブルにし、2つのリレーを追加してから、一方を変更し、もう一方を削除しています。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシンモード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例：着信リレーのイネーブル化と設定

表 3-4 incomingrelayconfig

```
mail3.example.com> incomingrelayconfig
```

```
Incoming relays: Disabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- SETUP - Edit update configuration.
- RELAYLIST - Configure incoming relays.

```
[ ]> setup
```

```
This command helps your IronPort appliance determine the sender's  
originating IP address.
```

```
You should ONLY enable this command if your IronPort appliance is NOT  
directly connected to the Internet as the "first hop" in your email  
infrastructure.
```

```
You should configure this feature if other MTAs or servers are  
configured at your network's perimeter to relay mail to your IronPort  
appliance.
```

```
Do you want to enable and define incoming relays? [N]> y
```

**表 3-4 incomingrelayconfig (続き)**

Incoming relays: Enabled

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Edit update configuration.
- RELAYLIST - Configure incoming relays.

```
[> relaylist
```

There are no relays defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry

```
[> new
```

Enter a name for this incoming relay (Ex: "first-hop")

```
[> first-hop
```

Enter the IP address of the incoming relay. CIDR addresses such as

10.1.1.0/24 are allowed. IP address ranges such as 10.1.1.10-20 are allowed.

IP subnets such as 10.2.3. are allowed. Hostnames such as crm.example.com are allowed.

Partial hostnames such as .example.com are allowed.

**表 3-4 incomingrelayconfig (続き)**

```
[ ]> 192.168.1.1
```

Do you want to use the "Received:" header or a custom header to determine the originating IP address?

1. Use "Received:" header
2. Use a custom header

```
[1]> 1
```

Within the "Received:" header, enter the special character or string after which to begin parsing for the originating IP address:

```
[from]> [
```

Within the headers, enter the position of the "Received:" header that contains the originating IP address:

```
[1]> 1
```

There is 1 relay defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry
- EDIT - Modify an entry

**表 3-4 incomingrelayconfig (続き)**

- DELETE - Remove an entry
- PRINT - Display the table

[> **print**

Incoming		Header	Match	Received
relay name:	IP address:	to parse:	after:	position:
-----	-----	-----	-----	-----
first-hop	192.168.1.1	Received	[	1

There is 1 relay defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry
- EDIT - Modify an entry
- DELETE - Remove an entry
- PRINT - Display the table

[> **new**

Enter a name for this incoming relay (Ex: "first-hop")

[> **second-hop**

### 表 3-4 incomingrelayconfig (続き)

Enter the IP address of the incoming relay. CIDR addresses such as 10.1.1.0/24 are allowed. IP address ranges such as 10.1.1.10-20 are allowed.

IP subnets such as 10.2.3. are allowed. Hostnames such as crm.example.com are allowed.

Partial hostnames such as .example.com are allowed.

```
[> 192.168.1.2
```

Do you want to use the "Received:" header or a custom header to determine the originating IP address?

1. Use "Received:" header
2. Use a custom header

```
[1]> 2
```

Enter the custom header name that contains the originating IP address:

```
[> X-Connecting-IP
```

There are 2 relays defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry
- EDIT - Modify an entry

**表 3-4 incomingrelayconfig (続き)**

- DELETE - Remove an entry
- PRINT - Display the table

[> **print**

Incoming		Header	Match	Received
relay name:	IP address:	to parse:	after:	position:
-----	-----	-----	-----	-----
first-hop	192.168.1.1	Received	[	1
second-hop	192.168.1.2	X-Connecting-IP	n/a	n/a

There are 2 relays defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry
- EDIT - Modify an entry
- DELETE - Remove an entry
- PRINT - Display the table

[> **delete**

1. first-hop: 192.168.1.1
2. second\_hop: 192.168.1.2

**表 3-4 incomingrelayconfig (続き)**

Enter the number of the entry you wish to delete:

```
[1]> 1
```

Incoming relay "first-hop" deleted.

There is 1 relay defined.

## slblconfig

### 説明

エンドユーザのセーフリスト/ブロック リストを設定します。



**(注)**

---

セーフリスト/ブロック リストを GUI を使用してアプライアンスでイネーブルにし、このコマンドを実行する必要があります。

---

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式 - インポート

### バッチ形式

エンドユーザのセーフリスト/ブロック リストすべてのエントリを、指定のファイルの現在のエントリと置き換えます。

```
slblconfig import <filename> <ignore invalid entries>
```

- filename - インポートしなければならないファイルの名前。ファイルは、アプライアンスの /configuration ディレクトリに格納する必要があります。
- ignore invalid entries - 無効なエントリを無視するかどうかを指定します。「はい (Yes)」または「いいえ (No)」。

### バッチ形式 - エクスポート

エンドユーザのセーフリスト/ブロック リストすべてのエントリをアプライアンスのファイルにエクスポートします。

```
slblconfig export
```

アプライアンスは、次の命名規則を使用して /configuration ディレクトリに CSV ファイルを保存します。

```
slbl<timestamp><serial number>.csv.
```

## 例 : セーフリスト/ブロック リスト エントリのインポート

表 3-5 slblconfig の例

```
mail.example.com> slblconfig
```

```
End-User Safelist/Blocklist: Enabled
```

Choose the operation you want to perform:

- IMPORT - Replace all entries in the End-User Safelist/Blocklist.
- EXPORT - Export all entries from the End-User Safelist/Blocklist.

[> **import**

Currently available End-User Safelist/Blocklist files:

1. slbl.csv

Choose the file to import from.

[1]> **1**

Do you want to ignore invalid entries?[Y]> **Y**

End-User Safelist/Blocklist import has been initiated...

Please wait while this operation executes.

End-User Safelist/Blocklist successfully imported.

Choose the operation you want to perform:

- IMPORT - Replace all entries in the End-User Safelist/Blocklist.
- EXPORT - Export all entries from the End-User Safelist/Blocklist.

[>

# アンチウイルス

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [antivirusconfig](#)
- [antivirusstatus](#)
- [antivirusupdate](#)

## antivirusconfig

### 説明

Anti-Virus ポリシーを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

次の例では、antivirusconfig コマンドを使用して、システム上で Sophos ウィルス スキャンをイネーブルにし、タイムアウト値を 60 秒に設定しています。アップデート サーバ、アップデート間隔、およびオプションのプロキシ サーバを設定する方法については、「updateconfig」(P.171) を参照してください。



(注)

systemsetup コマンドの実行時にライセンス契約に同意しなかった場合、antivirusconfig コマンドを初めて実行するときにライセンス契約書が表示されます。ライセンス契約に同意しなければ、Sophos ウイルス スキャン エンジン はアプライアンスでイネーブルになりません。

### 表 3-6 antivirusconfig

```
mail3.example.com> antivirusconfig
```

```
Sophos Anti-Virus: Disabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Configure Sophos Anti-Virus.
```

```
[ ]> setup
```

```
Sophos Anti-Virus scanning: Disabled
```

```
Would you like to use Sophos Anti-Virus scanning? [Y]> y
```

```
(First time users see the license agreement displayed here.)
```

```
Please specify the Anti-Virus scanning timeout (in seconds)
```

```
[60]> 60
```

```
Sophos Anti-Virus scanning is now enabled on the system.
```

**表 3-6            antivirusconfig (続き)**

```
Please note: you must issue the 'policyconfig' command (CLI) or Mail Policies (GUI) to configure Sophos Anti-Virus scanning behavior for default and custom Incoming and Outgoing Mail Policies.
```

```
This is recommended for your DEFAULT policy.
```

```
Sophos Anti-Virus: Enabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Configure Sophos Anti-Virus.
```

```
[ ]>
```

```
mail3.example.com>
```

## Anti-Virus IDE の詳細の表示

AsyncOS では、アプライアンスがダウンロードしたアンチウイルス シグニチャ (IDE ファイル) の詳細なステータスを確認できます。この詳細を表示するには、`antivirusconfig -> detail` サブコマンドを使用します。次に例を示します。

**表 3-7            antivirusconfig : IDE の詳細の表示**

```
mail3.example.com> antivirusconfig
```

```
Sophos Anti-Virus: Enabled
```

**表 3-7            antivirusconfig : IDE の詳細の表示 (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Configure Sophos Anti-Virus.
- STATUS - View Sophos Anti-Virus status.
- DETAIL - View Sophos Anti-Virus detail.

[ ]> **detail**

Sophos Anti-Virus:

Product - 3.87

Engine - 2.25.0

Product Date - 01 Nov 2004

Sophos IDEs currently on the system:

'Mkar-E.Ide'	Virus Sig. - 23 Dec 2004 01:24:02
'Rbot-Sd.Ide'	Virus Sig. - 22 Dec 2004 19:10:06
'Santy-A.Ide'	Virus Sig. - 22 Dec 2004 06:16:32
'Bacbanan.Ide'	Virus Sig. - 21 Dec 2004 18:33:58
'Rbot-Sb.Ide'	Virus Sig. - 21 Dec 2004 14:50:46
'Rbotry.Ide'	Virus Sig. - 21 Dec 2004 06:13:40

**表 3-7            antivirusconfig : IDE の詳細の表示（続き）**

```
'Sdbot-Si.Ide'            Virus Sig. - 20 Dec 2004 20:52:04
'Oddbob-A.Ide'           Virus Sig. - 19 Dec 2004 23:34:06
'Rbot-Rw.Ide'            Virus Sig. - 19 Dec 2004 00:50:34
'Wortd.Ide'              Virus Sig. - 18 Dec 2004 07:02:44
'Delf-Jb.Ide'            Virus Sig. - 17 Dec 2004 22:32:08

[...command continues...]
```

## antivirusstatus

### 説明

Anti-Virus ステータスを表示します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-8**            **antivirusstatus**

```
mail3.example.com> antivirusstatus

SAV Engine Version      3.85

IDE Serial              2004101801

Engine Update          Mon Sep 27 14:21:25 2004

Last IDE Update        Mon Oct 18 02:56:48 2004

Last Update Attempt    Mon Oct 18 11:11:44 2004

Last Update Success    Mon Oct 18 02:56:47 2004

mail3.example.com>
```

# antivirusupdate

## 説明

ウイルス定義を手動で更新します。

## 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-9**            **antivirusupdate**

```
mail3.example.com> antivirusupdate  
  
Requesting update of virus definitions  
  
mail3.example.com>
```

## コマンドラインの管理

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [commit](#)
- [commitdetail](#)
- [clearchanges](#) または [clear](#)
- [help](#) または [h](#) または ?
- [quit](#) または [q](#) または [exit](#)

## commit

### 説明

変更を確定します。commit コマンドの後のコメントの入力は任意です。

### 使用方法

**確定** : 該当なし

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-10**            **commit**

```
mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:

[ ]> Changed "psinet" IP Interface to a different IP ad dress

Changes committed: Wed Apr 13 12:00:01 2005
```

## commitdetail

### 説明

最後の確定に関する詳細情報を表示します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-11**            **commitdetail**

```
mail3.example.com> commitdetail
```

```
Commit at Mon Apr 18 13:46:28 2005 PDT with comments: "Enabled loopback".
```

```
mail3.example.com>
```

## clearchanges または clear

### 説明

clear コマンドは、commit コマンドまたは clear コマンドが最後に発行されてから、IronPort AsyncOS の設定に対して行われた変更内容があればクリアします。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-12**            **clear**

```
mail3.example.com> clear

Are you sure you want to clear all changes since the last commit? [Y]> y

Changes cleared: Mon Jan 01 12:00:01 2003

mail3.example.com>
```

## help または h または ?

### 説明

`help` コマンドを実行すると、使用可能なすべての CLI コマンドが表示され、各コマンドの簡単な説明を参照できます。`help` コマンドは、コマンド プロンプトで `help` と入力するか、疑問符 (?) を 1 つ入力して実行できます。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

表 3-13 ヘルプ

```
mail3.example.com> help
```

## quit または q または exit

### 説明

quit コマンドを実行すると、CLI アプリケーションからログアウトします。確定されていない設定変更はクリアされます。quit コマンドは電子メール操作には影響しません。ログアウトはログ ファイルに記録されます (exit の入力、quit の入力と同じです)。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-14**      **quit**

```
mail3.example.com> quit
```

```
Configuration changes entered but not committed. Exiting will lose changes.
```

```
Type 'commit' at the command prompt to commit changes.
```

```
Are you sure you wish to exit? [N]> Y
```

# コンフィギュレーション ファイルの管理

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [loadconfig](#)
- [mailconfig](#)
- [resetconfig](#)
- [saveconfig](#)
- [showconfig](#)

## loadconfig

### 説明

コンフィギュレーション ファイルをロードします。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

この例では、新しいコンフィギュレーション ファイルをローカルな場所からインポートします。

**表 3-15**            **loadconfig**

```
mail3.example.com> loadconfig
```

```
1. Paste via CLI
```

```
2. Load from file
```

```
[1]> 2
```

```
Enter the name of the file to import:
```

```
[> changed.config.xml
```

```
Values have been loaded.
```

```
Be sure to run "commit" to make these settings active.
```

```
mail3.example.com> commit
```

```
Please enter some comments describing your changes:
```

```
[> loaded new configuration file
```

この例では、新しいコンフィギュレーション ファイルをコマンドラインに直接貼り付けます（空白行で **Ctrl+D** を押すと貼り付けコマンドが終了します）。次に、システム設定ウィザードを使用して、デフォルトのホスト名、IP アドレス、およびデフォルトのゲートウェイ情報を変更します。最後に、変更を確定します。

**表 3-16**            **loadconfig : 例 2**

```
mail3.example.com> loadconfig
```

```
1. Paste via CLI
```

```
2. Load from file
```

```
[1]> 1
```

```
Paste the configuration file now.
```

```
Press CTRL-D on a blank line when done.
```

```
[The configuration file is pasted until the end tag </config>. Control-D is entered on a separate line.]
```

```
Values have been loaded.
```

```
Be sure to run "commit" to make these settings active.
```

```
mail3.example.com> systemsetup
```

```
[The system setup wizard is run.]
```

```
mail3.example.com> commit
```

**表 3-16**            **loadconfig : 例 2 (続き)**

Please enter some comments describing your changes:

```
[ ]> pasted new configuration file and changed default settings via  
systemsetup
```

## mailconfig

### 説明

IronPort AsyncOS の設定をテストする場合、mailconfig コマンドを使用することにより、systemsetup コマンドで作成したばかりのシステム コンフィギュレーション データを含むテスト電子メールをただちに送信できます。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-17**            **mailconfig**

```
mail3.example.com> mailconfig

Please enter the email address to which you want to send
the configuration file. Separate multiple addresses with commas.

[]> user@example.com

The configuration file has been sent to user@example.com.

mail3.example.com>
```

利用可能なメールボックスに設定を送信して、システムでネットワーク上に電子メールを送信できることを確認します。

## resetconfig

### 説明

物理的にアプライアンスを移動したときに、出荷時デフォルト値に戻りたい場合があります。resetconfig コマンドは、すべての IronPort AsyncOS 設定値を出荷時の初期状態にリセットします。このコマンドは非常に破壊的であるため、ユニットを移動する場合や、設定の問題を解決する最後の手段としてのみ使用してください。resetconfig コマンドの実行後に CLI に再接続してから systemsetup コマンドを実行することを推奨します。



(注)

`resetconfig` コマンドは、アプライアンスがオフライン状態にあるときにのみ動作します。`resetconfig` コマンドが完了すると、`systemsetup` コマンドを再び実行する前であってもアプライアンスは自動的にオンライン状態に戻ります。`resetconfig` コマンドを実行する前に電子メールの送信が中断された場合は、`resetconfig` コマンドが完了したときに電子メールの送信が再試行されます。



警告

`resetconfig` コマンドを実行すると、すべてのネットワーク設定が出荷時デフォルト値に戻ります。場合によっては、CLI から切断され、アプライアンスに接続するために使用したサービス (FTP、Telnet、SSH、HTTP、HTTPS) がディセーブルにされ、`userconfig` コマンドで作成した追加のユーザアカウントが削除されます。このコマンドは、シリアル インターフェイスを使用するか、またはデフォルトの Admin ユーザアカウントから管理ポート上のデフォルト設定を使用して CLI に再接続できない場合は使用しないでください。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-18**            **resetconfig**

```
mail3.example.com> offline

Delay (seconds, minimum 30):

[30]> 45

Waiting for listeners to exit...

Receiving suspended.

Waiting for outgoing deliveries to finish...

Mail delivery suspended.

mail3.example.com> resetconfig

Are you sure you want to reset all configuration values? [N]> Y

All settings have been restored to the factory default.
```

## saveconfig

### 説明

saveconfig コマンドは、一意のファイル名を使用してコンフィギュレーション ファイルを configuration ディレクトリに保存します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-19**            **saveconfig**

```
mail3.example.com> saveconfig
```

```
Do you want to include passwords? Please be aware that a configuration  
without passwords will fail when reloaded with loadconfig. [N]> y
```

```
The file C60-00065B8FCEAB-31PM121-20030630T130433.xml has been saved in  
the configuration directory.
```

```
mail3.example.com>
```

## showconfig

### 説明

showconfig コマンドは現在の設定を画面に出力します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-20**            **showconfig**

```
ail3.example.com> showconfig
```

```
Do you want to include passwords? Please be aware that a configuration  
without passwords will fail when reloaded with loadconfig.
```

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
```

```
<!DOCTYPE config SYSTEM "config.dtd">
```

```
<!--
```

```
  Product: IronPort model number Messaging Gateway Appliance (tm)
```

```
  Model Number: model number
```

```
  Version: version of AsyncOS installed
```

```
  Serial Number: serial number
```

```
  Current Time: current time and date
```

```
[The remainder of the configuration file is printed to the screen.]
```

## クラスタの管理

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [clusterconfig](#)
- [clustercheck](#)

# clusterconfig

## 説明

`clusterconfig` コマンドは、クラスタ関連の設定を指定するために使用します。クラスタに属していないマシンで `clusterconfig` を実行した場合は、既存のクラスタに参加するか、新しいクラスタを作成するかを選択できます。

`clusterconfig` コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

### 非クラスタ コマンド

次のコマンドは、クラスタに属していない場合に使用できます。

- `clusterconfig new <name>` : 指定された名前新しいクラスタを作成します。このマシンは、このクラスタおよび「Main Group」と呼ばれるデフォルトのクラスタグループのメンバになります。  
`<name>` : 新しいクラスタの名前。
- `clusterconfig join [--port=xx] <ip_of_remote_cluster> [<admin_password>]<groupname>` : このマシンをクラスタに追加します。  
`<ip_of_remote_cluster>` : クラスタ内の別のマシンの IP アドレス。  
`<admin_password >` : クラスタの **admin** パスワード。CCS を使用してクラスタに参加する場合、このパラメータを指定する必要はありません。  
`<groupname>` : 参加するグループの名前。  
`<port>` : 接続するリモートマシンのポート (デフォルトは 22)。
- `clusterconfig prepjoin print`  
このマシンを CCS ポート経由でクラスタに参加させるための準備に必要な情報を表示します。

### クラスタ コマンド

次のコマンドは、クラスタに属している場合に使用できます。

- `clusterconfig addgroup <groupname>` : 新しいクラスタグループを作成します。グループはメンバが含まれていない空の状態で作成されます。
- `clusterconfig renamegroup <old_groupname> <new_groupname>` : クラスタグループの名前を変更します。

- `clusterconfig deletegroup <groupname> [new_groupname]` : クラスタグループを削除します。  
     <groupname> : 削除するクラスタグループの名前。  
     <new\_groupname> : 元のグループのマシンを追加するクラスタグループ。
- `clusterconfig setgroup <machinename> <groupname>` : マシンが属するグループを設定（または変更）します。  
     <machinename> : 設定するマシンの名前。  
     <groupname> : マシンを設定するグループ。
- `clusterconfig removemachine <machinename>` : クラスタからマシンを削除します。
- `clusterconfig setname <name>` : クラスタの名前を指定された名前に変更します。
- `clusterconfig list` : 現在クラスタに属しているすべてのマシンを表示します。
- `clusterconfig connstatus` : 現在クラスタに属しているすべてのマシンを表示し、切断されたマシンのルーティングの詳細を追加します。
- `clusterconfig disconnect <machinename>` : マシンを一時的にクラスタから切断します。  
     <machinename> : 切断するマシンの名前。
- `clusterconfig reconnect <machinename>` : 「**disconnect**」コマンドによって切断されていたマシンとの接続を復元します。
- `clusterconfig prepjoin new <serial_number> <hostname> <user_key>` : CCS ポート経由でクラスタに参加する新しいホストを追加します。  
     <serial\_number> : 追加するマシンのシリアル番号。  
     <hostname> : 追加するマシンのホスト名。  
     <user\_key> : 「**prepjoin print**」コマンドによって取得された、追加するマシンの SSH ユーザキー。

- `clusterconfig prepjoin delete <serial_number|hostname>`: 追加対象として指定されていたホストを「`prepjoin new`」コマンドから削除します。このパラメータが必要となるのは、後でホストを追加しないことにした場合だけです。ホストが正常にクラスタに追加されると、そのホストの `prepjoin` 情報が自動的に削除されます。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはクラスタ モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

`clusterconfig` コマンドとその使用方法の説明については、『*Cisco IronPort AsyncOS Advanced Configuration Guide*』を参照してください。

# clustercheck

## 説明

`clustercheck` コマンドは、クラスタ内のすべてのコンフィギュレーション データベースが同期されていることを確認します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

`clustercheck` コマンドとその使用方法の説明については、『*Cisco IronPort AsyncOS Advanced Configuration Guide*』を参照してください。

# データ 消失防止

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [dlprollback](#)
- [dlpstatus](#)
- [dlpupdate](#)
- [emconfig](#)

## dlprollback

### 説明

以前のバージョンへのロール バック DLP エンジンと設定。



(注)

---

`dlprollback` コマンドを使用する前に、GUI の DLP Global Settings ページで DLP を設定しておく必要があります。

---



警告

---

このコマンドは、古い DLP ポリシーにアプライアンスを返します。DLP スキャンの再起動を可能にするには、発信メール ポリシーの DLP ポリシーを再度イネーブルにする必要があります。

---

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、クラスタ、グループ、またはマシンの各モードで使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

表 3-21 **dlprollback の例**

```
mail.example.com> dlprollback
```

```
This will revert to older DLP policies.
```

```
IMPORTANT: After rollback, you must re-enable DLP policies in  
Outbound Mail Policies so that DLP scanning can be resumed  
successfully.
```

```
Do you wish to rollback?[N]> Y
```

```
Requesting rollback for DLP engine.
```

```
Re-enable DLP policies in Outbound Mail Policies when rollback is  
completed (Please check rollback status in mail logs)
```

## dlpstatus

DLP エンジンの要求バージョン情報。



(注)

---

dlpstatus コマンドを使用する前に、GUI の DLP Global Settings ページで DLP を設定しておく必要があります。

---

## 使用方法

**コミット:** このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、クラスタ、グループ、またはマシンの各モードで使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

表 3-22 **dlpstatus の例**

```
mail.example.com> dlpstatus
```

Component	Version	Last Updated
RSA DLP Engine	3.0.2.31	Never updated

## dlpupdate

### 説明

RSA DLP エンジンの更新。



(注)

---

dlpupdate コマンドを使用する前に、GUI の DLP Global Settings ページで DLP を設定しておく必要があります。

---

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、クラスタ、グループ、またはマシンの各モードで使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式

変更が検出されない場合でも `dlpupdate` コマンドのバッチ形式が DLP エンジン  
を強制的に更新します。

```
dlpupdate [force]
```

## 例

表 3-23

### `dlpupdate` の例

```
mail.example.com> dlpupdate
```

```
Checking for available updates.This may take a few seconds..
```

```
Component                               Status
```

```
RSA DLP Engine                           Not Available
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Enable or disable automatic updates for DLP Engine.
```

```
[>] setup
```

```
Automatic updates for DLP are enabled
```

```
Do you wish to disable automatic updates for DLP Engine?[N]> Y
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Enable or disable automatic updates for DLP Engine.
```

```
[ ]>
```

## emconfig

### 説明

RSA Enterprise Manager の相互運用性を設定します。



(注)

---

emconfig コマンドを使用する前に、GUI の DLP Global Settings ページで RSA Enterprise Manager を設定しておく必要があります。CLI では、この機能をイネーブルにすることはできず、既存の設定の編集のみが可能です。

---

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、クラスタ、グループ、またはマシンの各モードで使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### バッチ形式

IronPort アプライアンスと RSA Enterprise Manager との接続を設定するには：

```
emconfig setup [options]
```

表 3-24 emconfig のセットアップ オプション

オプション	説明
<code>--remote_host</code>	RSA Enterprise Manager のホスト名または IP アドレス。
<code>--remote_port</code>	RSA Enterprise Manager に接続するポート。
<code>--local_port</code>	ESA 上で Enterprise Manager に接続するポート。
<code>--enable_ssl</code>	RSA Enterprise Manager との SSL 通信をイネーブルにします。  イネーブルにするには 1、ディセーブルにするには 0 を使用します。

## RSA Enterprise Manager への接続の例

```
vm10esa0031.qa> emconfig
```

```
RSA Enterprise Manager connection status is: "UNKNOWN"
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Edit RSA Enterprise Manager interop config.
```

```
[ ]> setup
```

```
RSA Enterprise Manager: test.example.com:20000
```

```
Local port for EM to connect to: 20002
```

```
SSL Communication to RSA EM: disabled
```

```
Enter hostname of RSA Enterprise Manager:
```

```
[test.example.com]> em.example.com
```

```
Enter port number of RSA Enterprise Manager:
```

```
[20000]>
```

```
Enter local port for EM to connect:
```

```
[20002]>
```

```
Enable SSL communication to EM [N]>
```

Advanced Settings:

```
RSA Enterprise Manager GUID: emlocalsite

Device Vendor name: Cisco Systems

Device Status Interval: 5 seconds

Polling Cycle Interval: 30 seconds

Connection Throttle Interval: 0 milliseconds

Max event archive size: 31457280 bytes

Max files in event archive: 50

Max file size in event archive: 10485760 MB

Max size of event.xml file: 1048576 MB

Interoperability subsystem heartbeat interval: 500 milliseconds

Heartbeat service attempts before failing: 3

Connection timeout duration: 30 seconds

Command status timeout duration: 30 seconds

Max chunk size: 1000

Msg exchange cycle: 1

Do you want to change advanced settings? [N]>
```

Choose the operation you want to perform:

```
- SETUP - Edit RSA Enterprise Manager interop config.
```

```
[ ]>
```

## ドメインキー

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [domainkeysconfig](#)

## domainkeysconfig

### 説明

DomainKeys/DKIM のサポートを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式：署名プロファイル

`domainkeysconfig` のバッチ形式は、署名プロファイルの作成、編集、または削除で使用できます。

- DomainKeys/DKIM 署名プロファイルの追加

```
domainkeysconfig profiles signing new <name> <type> <domain>  
<selector> <user-list> [options]
```

表 3-25 domainkeysconfig の新しい署名プロファイル引数

引数	説明
<name>	ドメインプロファイルの名前。
<type>	ドメインのタイプ。dk または dkim です。
<domain>	ドメインプロファイルのドメインフィールド。これは、DomainKeys 署名の d タグを形成します。
<selector>	ドメインプロファイルのセレクタフィールド。これは、DomainKeys 署名の s タグを形成します。
<user-list>	ドメインプロファイルユーザのカンマ区切りリスト。ユーザは、特定のドメインプロファイルを使用して電子メールに署名する必要があるかどうかを判断するために、電子メールアドレスとの照合に使用されます。すべてのドメインユーザと一致させるには、特別なキーワード all を使用します。
<b>[options]</b>	
--key_name	署名に使用する秘密キーの名前。
--canon	DK で署名するときに使用する標準化アルゴリズム。現在サポートされているアルゴリズムは simple と nofws です。デフォルトは nofws です。
--body_canon	DKIM で署名するときに使用する、本文の標準化アルゴリズム。現在サポートされているアルゴリズムは simple と relaxed です。デフォルトは simple です。
--header_canon	DKIM で署名するときに使用する、ヘッダーの標準化アルゴリズム。現在サポートされているアルゴリズムは simple と relaxed です。デフォルトは simple です。
--body_length	署名の計算に使用する、標準化した本文のバイト数。DKIM プロファイルでのみ使用します。この値は、使用すると署名の l タグになります。デフォルトでは使用されません。

表 3-25 domainkeysconfig の新しい署名プロファイル引数 (続き)

引数	説明
<b>--headers_select</b>	署名のヘッダーを選択する方法を指定します。DKIM プロファイルでのみ使用します。all、standard、standard_and_custom のいずれかです。all はすべての非反復ヘッダーに署名することを意味します。standard は、Subject、From、To、Sender、MIME などの既知のヘッダーの事前定義のセットに署名することを意味します。standard_and_custom は、既知のヘッダーおよびユーザ定義のヘッダーのセットに署名することを意味します。デフォルトは standard です。
<b>--custom_headers</b>	署名するヘッダーのユーザ定義セット。headers_select が standard_and_custom の場合に、DKIM プロファイルでのみ使用します。デフォルトは空のセットです。
<b>--i_tag</b>	署名に i タグを追加するかどうかを指定します。指定できる値は yes または no です。デフォルトは yes です。
<b>--agent_identity</b>	ユーザまたはユーザの代わりにこのメッセージに署名する代理人の ID。構文は標準の電子メールアドレスですが、ローカル部分は省略してもかまいません。このアドレスのドメイン部分は、<domain> またはそのサブドメインとする必要があります。このオプションは、--i_tag の値を yes に設定している場合にのみ適用されます。デフォルトは、ローカル部分を空にして、その後には @ と <domain> を続けて記述した値です。
<b>--q_tag</b>	署名に q タグを追加するかどうかを指定します。指定できる値は yes または no です。デフォルトは yes です。
<b>--t_tag</b>	署名に t タグを追加するかどうかを指定します。指定できる値は yes または no です。デフォルトは yes です。
<b>--x_tag</b>	署名に x タグを追加するかどうかを指定します。指定できる値は yes または no です。デフォルトは yes です。

表 3-25 domainkeysconfig の新しい署名プロファイル引数 (続き)

引数	説明
<b>--expiration_time</b>	署名が失効するまでの時間 (秒) です。DKIM プロファイルでのみ使用します。この値は、署名の x タグと t タグの差になります。このオプションは、--x_tag の値を yes に設定している場合にのみ適用されます。デフォルトは 31536000 秒 (1 年) です。
<b>--z_tag</b>	署名に z タグを追加するかどうかを指定します。指定できる値は yes または no です。デフォルトは no です。

- 署名プロファイルの編集 :

```
domainkeysconfig profiles signing edit <name>
[signing-profile-options]
```

署名プロファイルのオプション :

```
- rename <name>
- domain <domain>
- selector <selector>
- canonicalization <canon>
- canonicalization <header_canon> <body_canon>
- key <key_name>
- bodylength <body_length>
- headersselect <header_select>
- customheaders <custom_headers>
- itag <i_tag> [<agent_identity>]
- qtag <q_tag>
- ttag <t_tag>
- xtag <x_tag> [<expiration_time>]
- ztag <z_tag>
- new <user-list>
- delete <user-list>
- print
```

— clear

- 署名プロファイルの削除 :

```
domainkeysconfig profiles signing delete <name>
```

- 署名プロファイルの一覧表示 :

```
domainkeysconfig profiles signing list
```

- 署名プロファイルの詳細出力 :

```
domainkeysconfig profiles signing print <name>
```

- 署名プロファイルのテスト :

```
domainkeysconfig profiles signing test <name>
```

- 署名プロファイルのローカル コピーのインポート :

```
domainkeysconfig profiles signing import <filename>
```

- **IronPort** アプライアンスにある署名プロファイルのコピーのエクスポート :

```
domainkeysconfig profiles signing export <filename>
```

- **IronPort** アプライアンスにあるすべての署名プロファイルの削除 :

```
domainkeysconfig profiles signing clear
```

## バッチ形式：検証プロファイル

- 新しい DKIM 検証プロファイルの作成：

```
domainkeysconfig profiles verification new <name>  
<verification-profile-options>
```

表 3-26 domainkeysconfig の検証プロファイル オプション

引数	説明
<b>--name</b>	DKIM 検証プロファイルの名前。
<b>--min_key_size</b>	受け入れる最小キー。指定できるキーの長さは 512、768、1024、1536、および 2048 です（単位はビット）。デフォルトは 512 です。
<b>--max_key_size</b>	受け入れる最大キー。指定できるキーの長さは 512、768、1024、1536、および 2048 です（単位はビット）。デフォルトは 2048 です。
<b>--max_signatures_num</b>	メッセージの中で検証できる署名の最大数。任意の正数を指定できます。デフォルトは 5 です。
<b>--key_query_timeout</b>	キー クエリーがタイムアウトするまでの時間（秒）です。任意の正数を指定できます。デフォルトは 10 です。
<b>--max_systemtime_divergence</b>	送信者の時計と検証者の時計との間に許容できる非同期量（秒）です。任意の正数を指定できます。デフォルトは 60 です。
<b>--use_body_length</b>	本文の長さのパラメータを使用するかどうかを指定します。指定できる値は yes または no です。デフォルトは yes です。
<b>--tempfail_action</b>	一時的な障害の場合は、SMTP のアクションを実行します。指定できる値は accept または reject です。デフォルトは accept です。
<b>--tempfail_response_code</b>	一時的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答コードです。指定できる値は 4xx 形式の番号です。デフォルトは 451 です。

表 3-26 domainkeysconfig の検証プロファイル オプション (続き)

引数	説明
<code>--tempfail_response_text</code>	一時的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答テキストです。デフォルトは、「#4.7.5 Unable to verify signature - key server unavailable (署名を検証できません。キー サーバが見つかりません)」です。
<code>--permfail_action</code>	永続的な障害の場合は、SMTP のアクションを実行します。指定できる値は accept または reject です。デフォルトは accept です。
<code>--permfail_response_code</code>	永続的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答コードです。指定できる値は 5xx 形式の番号です。デフォルトは 550 です。
<code>--permfail_response_text</code>	永続的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答テキストです。デフォルトは「#5.7.5 DKIM unauthenticated mail is prohibited (DKIM 未認証のメールは禁止されています)」です。

- 検証プロファイルの編集 :

```
domainkeysconfig profiles verification edit <name>
<verification-profile-options>
```

- 検証プロファイルの削除 :

```
domainkeysconfig profiles verification delete <name>
```

- 既存の検証プロファイルの詳細出力 :

```
domainkeysconfig profiles verification print <name>
```

- 既存の検証プロファイルの一覧表示 :

```
domainkeysconfig profiles verification list
```

- ローカルマシンにある検証プロファイルファイルのインポート：

```
domainkeysconfig profiles verification import <filename>
```

- IronPort アプライアンスにある検証プロファイルのインポート：

```
domainkeysconfig profiles verification export <filename>
```

- IronPort アプライアンスにあるすべての既存検証プロファイルの削除：

```
domainkeysconfig profiles verification clear
```

## バッチ形式：署名キー

- 新しい署名キーの作成：

```
domainkeysconfig keys new <key_name> <key-options>
```

表 3-27 domainkeysconfig の署名キー オプション

引数	説明
<b>--generate_key</b>	秘密キーを生成します。指定できるキーの長さは 512、768、1024、1536、および 2048 です（単位はビット）。
<b>--use_key</b>	指定された秘密キーを使用します。
<b>--public_key</b>	指定された秘密キーに一致する公開キーを取得して画面に出力するためのフラグ。--generate_key を先に指定している場合は、まず新しい秘密キーが生成され、続いてそれに一致する公開キーが表示されます。

- 署名キーの編集：

```
domainkeysconfig keys edit <key_name> key <key-options>
```

- 既存の署名キーの名前変更 :

```
domainkeysconfig keys edit <key_name> rename <key_name>
```

- 公開キーを指定するには :

```
domainkeysconfig keys publickey <key_name>
```

- キーの削除 :

```
domainkeysconfig keys delete <key_name>
```

- すべての署名キーの一覧表示 :

```
domainkeysconfig keys list
```

- 指定の署名キーに関するすべての情報の表示 :

```
domainkeysconfig keys print <key_name>
```

- ローカル マシンにある署名キーのインポート :

```
domainkeysconfig keys import <filename>
```

- **IronPort** アプライアンスにある署名キーのエクスポート :

```
domainkeysconfig keys export <filename>
```

- **IronPort** アプライアンスにあるすべての署名キーの削除 :

```
domainkeysconfig keys clear
```

## バッチ形式：キーまたはプロファイルの検索

- プロファイルの署名キーの検索

```
domainkeysconfig search <search_text>
```

## バッチ形式：グローバル設定

- IronPort アプライアンスでの DomainKeys/DKIM のグローバル設定の変更:

```
domainkeysconfig setup <setup_options>
```

指定できるオプションは次のとおりです。

- `--sign_generated_msgs` : システムで生成されたメッセージに署名するかどうかを指定します。指定できる値は `yes` または `no` です。

## 例：CLI によるドメイン キーの設定

IronPort アプライアンス上のドメイン キーを設定するには、CLI で `domainkeysconfig` コマンドを使用します。

`domainkeysconfig` は、[メール ポリシー (Mail Policies) ]-> [ドメインキー (Domain Keys) ] ページ内の機能をすべて備えています。このコマンドでは、サンプル ドメイン キー DNS TXT レコードを生成することもできます。サンプル ドメイン キー DNS TXT レコードの生成の詳細については、「[サンプル ドメイン キー DNS TXT レコードの作成](#)」(P.3-69) を参照してください。

この例では、キーを生成し、ドメイン プロファイルを作成します。

表 3-28 **domainkeysconfig の例 1**

```
mail3.example.com> domainkeysconfig
```

```
DK/DKIM 署名プロファイルの数 : 0
```

```
署名キーの数 : 0
```

DKIM 検証プロファイルの数 : 1

システムで生成されたメッセージへの署名 : あり

Choose the operation you want to perform:

- PROFILES : ドメイン プロファイルを管理します。
- KEYS : 署名キーを管理します。
- SETUP : グローバル設定を変更します。
- SEARCH : ドメインプロファイルまたはキーを検索します。

[> **keys**

署名キーが定義されていません。

Choose the operation you want to perform:

- NEW : 新しい署名キーを作成します。
- IMPORT : ファイルから署名キーをインポートします。

[> **new**

この署名キーの名前を入力します。

[> **TestKey**

1. 秘密キーを生成します。
2. 既存のキーを入力します。

[1]>

この署名キーのサイズ（ビット単位）を入力します。

1. 512
2. 768
3. 1024
4. 1536
5. 2048

[3]>

新しいキー「TestKey」が作成されました。

現在のところ、署名キーが 1 つ定義されています。

Choose the operation you want to perform:

- NEW : 新しい署名キーを作成します。
- EDIT : 署名キーを変更します。

- PUBLICKEY : 署名キーから公開キーを作成します。
- DELETE : 署名キーを削除します。
- PRINT : 署名キーを表示します。
- LIST : 署名キーを一覧表示します。
- IMPORT : ファイルから署名キーをインポートします。
- EXPORT : ファイルに署名キーをエクスポートします。
- CLEAR : すべての署名キーを消去します。

[ ]>

DK/DKIM 署名プロファイルの数 : 0

署名キーの数 : 1

DKIM 検証プロファイルの数 : 1

システムで生成されたメッセージへの署名 : あり

Choose the operation you want to perform:

- PROFILES : ドメイン プロファイルを管理します。
- KEYS : 署名キーを管理します。
- SETUP : グローバル設定を変更します。
- SEARCH : ドメインプロファイルまたはキーを検索します。

[ ]> **profiles**

Choose the operation you want to perform:

- SIGNING : 署名プロファイルを管理します。
- VERIFICATION : 検証プロファイルを管理します。

[> **signing**

ドメイン プロファイルが定義されていません。

Choose the operation you want to perform:

- NEW : 新しいドメイン プロファイルを作成します。
- IMPORT : ファイルからドメイン プロファイルをインポートします。

[> **new**

このドメイン プロファイルの名前を入力します。

[> **Example**

ドメイン プロファイルのタイプを入力します。

1. dk

## 2. dkim

[2]>

ドメイン フィールドは、公開キー クエリーの基盤を形成します。このフィールドの値は、

送信電子メールアドレスのドメインと一致しているか、送信電子メール

アドレスの親ドメインのいずれかとする必要があります。この値は、

**DomainKeys** 署名の「d」タグになります。

署名ドメインのドメイン名を入力します。

[ ]> **example.com**

セレクトアは、「\_domainkey」名前空間にある任意の名前です。セレクトアの

値と長さは、DNS 名前空間および電子メールのヘッダーで有効な

ものとする必要があるほか、値にはセミコロンを使用できないという規則も

あります。この値は、**DomainKeys** 署名の「s」タグに

なります。

セレクトア: を入力します。

[ ]> **test**

メッセージの署名に使用する秘密キーを入力する必要があります。

対応する公開キーは、**DomainKeys** のマニュアルで説明されている形式に従って、

**DNS** で公開する必要があります。今すぐにキーを

入手できない場合は、後でキーを入力してもかまいません。

キーのアソシエーション方法を選択します。

1. 新しいキーを作成します。
2. キーを貼り付けます。
3. 後でキーを入力します。
4. 既存のキーを選択します。

[1]> 4

署名キーの名前または番号を入力します。

1. TestKey

[1]>

標準化アルゴリズムは、署名アルゴリズムにヘッダーと内容を

提示できるようにするための方法です。

指定できる値は「simple」または「relaxed」です。

ヘッダーの標準化アルゴリズムを選択します。

1. simple

2. relaxed

[1]>

本文の標準化アルゴリズムを選択します。

1. simple

2. relaxed

[1]>

ヘッダーにどのように署名するかを選択します。

1. 反復不能なすべての既存ヘッダーに署名します (Return-Path ヘッダーを除く)。

2. 「既知」のヘッダーに署名します (Date、Subject、From、To、Cc、Repl-To、Message-ID、Sender、MIME の各ヘッダー)。

3. 「既知」のヘッダーおよびヘッダーのカスタム リストに署名します。

[2]>

本文の長さは、署名対象とするメッセージ本文のバイト数です。

この値は署名の「I」タグになります。

使用する本文の長さオプションを選択します。

1. 暗黙的に決まる本文全体を指定します。ここからはメッセージを変更できません。
2. 自動判別される本文全体を指定します。内容の追加は可能です。
3. 本文の長さを指定します。

[1]>

DKIM 署名で使用するタグを詳しく選択するかどうかを

指定します。(yes/no) [N]>

プロファイル ユーザを入力して終了します。次のタイプのエントリを指定できます。

- 「joe@example.com」などの電子メール アドレスのエントリ。
  - 「example.com」などのドメインのエントリ。
  - 「.example.com」などの部分的なドメインのエントリ。たとえば、部分的なドメイン指定「example.com」には「sales.example.com」が一致します。このタイプのエントリは、ルート ドメイン（「example.com」）とは一致しません。
  - すべてのドメインのユーザとの一致が得られるようにするには空白のままとします。
- 次の署名プロファイルのユーザを入力します。

[ ]> sales.example.com

別のユーザを追加する必要があるかどうかを指定します。[N]>

現在のところ、ドメイン プロファイルが 1 つ定義されています。

**Choose the operation you want to perform:**

- NEW : 新しいドメイン プロファイルを作成します。
- EDIT : ドメイン プロファイルを変更します。
- DELETE : ドメイン プロファイルを削除します。
- PRINT : ドメイン プロファイルを表示します。
- LIST : ドメイン プロファイルを一覧表示します。
- TEST : ドメイン プロファイルが署名できる状態であればテストします。
- DNSTXT : 照合する DNS TXT レコードを生成します。
- IMPORT : ファイルからドメイン プロファイルをインポートします。
- EXPORT : ファイルにドメイン プロファイルをエクスポートします。
- CLEAR : すべてのドメイン プロファイルを消去します。

[ ]>

Choose the operation you want to perform:

- SIGNING : 署名プロファイルを管理します。
- VERIFICATION : 検証プロファイルを管理します。

[ ]>

DK/DKIM 署名プロファイルの数 : 1

署名キーの数 : 1

DKIM 検証プロファイルの数 : 1

システムで生成されたメッセージへの署名 : あり

Choose the operation you want to perform:

- PROFILES : ドメイン プロファイルを管理します。
- KEYS : 署名キーを管理します。
- SETUP : グローバル設定を変更します。
- SEARCH : ドメインプロファイルまたはキーを検索します。

[ ]>

mail3.example.com> **commit**

## サンプル ドメイン キー DNS TXT レコードの作成

```
mail3.example.com> domainkeysconfig

Number of DK/DKIM Signing Profiles: 1

Number of Signing Keys: 1

Number of DKIM Verification Profiles: 1

Sign System-Generated Messages: Yes

Choose the operation you want to perform:

- PROFILES - Manage domain profiles.

- KEYS - Manage signing keys.

- SETUP - Change global settings.

- SEARCH - Search for domain profile or key.

[> profiles

Choose the operation you want to perform:

- SIGNING - Manage signing profiles.

- VERIFICATION - Manage verification profiles.

[> signing
```

There are currently 1 domain profiles defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new domain profile.
- EDIT - Modify a domain profile.
- DELETE - Delete a domain profile.
- PRINT - Display domain profiles.
- LIST - List domain profiles.
- TEST - Test if a domain profile is ready to sign.
- DNSTXT - Generate a matching DNS TXT record.
- IMPORT - Import domain profiles from a file.
- EXPORT - Export domain profiles to a file.
- CLEAR - Clear all domain profiles.

[> **dnstxt**

Enter the name or number of a domain profile.

1. Example

[1]>

The answers to the following questions will be used to construct DKIM text

record for DNS. It can be used to publish information about this profile.

Do you wish to constrain the local part of the signing identities ("i=" tag of "DKIM-Signature" header field) associated with this domain profile? [N]>

Do you wish to include notes that may be of interest to a human (no interpretation is made by any program)? [N]>

The "testing mode" can be set to specify that this domain is testing DKIM and

that unverified email must not be treated differently from verified email.

Do you want to indicate the "testing mode"? [N]>

Do you wish to disable signing by subdomains of this domain? [N]>

The DKIM DNS TXT record is:

```
test._domainkey.example.com. IN TXT "v=DKIM1;
p=MIGfMA0GCSqGS Ib3DQEBAQUAA4GNADCBiQKBgQDXARuM74DwfO+qAr3o9GHlx3yUOLk
XzXBnhfgkdRBXdY7gghx4mbI6NNc5y09nGdGYbH3rR67LnyL/K5cgplyCxi4RtOSJiPKZ
cXQjziPKSqxApmtbypm4yT93mu4FfLkNzXJ4Om7l/F5UEwQL4ZUwWp36fV7y+uM+Y96n3
b1R9wIDAQAB;"
```

There are currently 1 domain profiles defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new domain profile.
- EDIT - Modify a domain profile.
- DELETE - Delete a domain profile.
- PRINT - Display domain profiles.
- LIST - List domain profiles.
- TEST - Test if a domain profile is ready to sign.
- DNSTXT - Generate a matching DNS TXT record.
- IMPORT - Import domain profiles from a file.
- EXPORT - Export domain profiles to a file.
- CLEAR - Clear all domain profiles.

[ ]>

Choose the operation you want to perform:

- ```
- SIGNING - Manage signing profiles.  
- VERIFICATION - Manage verification profiles.
```

```
[ ]>
```

```
Number of DK/DKIM Signing Profiles: 1
```

```
Number of Signing Keys: 1
```

```
Number of DKIM Verification Profiles: 1
```

```
Sign System-Generated Messages: Yes
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- ```
- PROFILES - Manage domain profiles.  
- KEYS - Manage signing keys.  
- SETUP - Change global settings.  
- SEARCH - Search for domain profile or key.
```

```
[ ]>
```

```
mail3.example.com> commit
```

## DNS

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [dig](#)
- [dnsconfig](#)

- [dnsflush](#)
- [dnslistconfig](#)
- [dnslistflush](#)
- [dnslisttest](#)
- [dnsstatus](#)

## dig

### 説明

DNS サーバ上でレコードをルックアップします

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式

dig コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- DNS サーバ上でレコードをルックアップします

```
dig [options] [@<dns_ip>] [qtype] <hostname>
```

- DNS サーバ上で、指定された IP アドレスに対する逆ルックアップを実行します。

```
dig -x <reverse_ip> [options] [@<dns_ip>]
```

これらは dig コマンドのバッチ形式で利用可能なオプションです。

-s <source\_ip> Specify the source IP address.

-t Make query over TCP.

-u Make query over UDP (default).

dns\_ip - Query the DNS server at this IP address.

qtype - Query type: A, PTR, CNAME, MX, SOA, NS, TXT.

hostname - Record that user want to look up.

reverse\_ip - Reverse lookup IP address.

dns\_ip - Query the DNS server at this IP address.

## 例

次の例では、ルックアップする DNS サーバを明示的に指定しています。

```
mail.com> dig @111.111.111.111 example.com MX
```

```
; <<>> DiG 9.4.3-P2 <<>> @111.111.111.111 example.com MX
```

```
; (1 server found)
```

```
;; global options: printcmd
```

```
;; Got answer:
```

```
;; ->>HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 18540
```

```
;; flags: qr aa rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 1, ADDITIONAL:  
3
```

```
;; QUESTION SECTION:
example.com.                IN      MX

;; ANSWER SECTION:
mexample.com.              10800  IN      MX      10 mexample.com.

;; AUTHORITY SECTION:
example.com.               10800  IN      NS
test.example.com.

;; ADDITIONAL SECTION:
example.com. 10800 IN      A      111.111.111.111
example.com. 10800 IN      AAAA   2620:101:2004:4201::bd
example.com. 300   IN      A      111.111.111.111

;; Query time: 6 msec
;; SERVER: 10.92.144.4#53(10.92.144.4)
;; WHEN: Fri Dec 9 23:37:42 2011
;; MSG SIZE rcvd: 143
```



(注)

このコマンドを使用するときに DNS サーバを明示的に指定しない場合は、dig コマンドによって Authority セクションと Additional セクションの情報が絞り込まれます。

## dnsconfig

### 説明

DNS のセットアップを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式

dnsconfig コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- ローカル ネーム サーバ キャッシュを使用するための DNS の設定：

```
dnsconfig parent new <ns_ip> <priority>
```

コマンドの引数：

- <ns\_ip>：ネーム サーバの IP アドレス。複数の IP アドレスはカンマで区切って指定します。
- <priority>：このエントリの優先順位。
- ローカル ネーム サーバ キャッシュの削除：

```
dnsconfig parent delete <ns_ip>
```

- 特定のドメインに使用するための代替 DNS キャッシュの設定：

```
dnsconfig alt new <domains> <ns_ip>
```



**(注)**

---

インターネットのルート ネーム サーバを使用している場合は使用できません。

---

コマンドの引数：

- <ns\_ip>：ネーム サーバの IP アドレス。複数の IP アドレスはカンマで区切って指定します。
  - <domains>：ドメインのカンマ区切りリスト。
- 特定のドメインの代替 DNS キャッシュの削除：

```
dnsconfig alt delete <domain>
```

- インターネットのルート ネーム サーバを使用するための DNS の設定：

```
dnsconfig roots new <ns_domain> <ns_name> <ns_ip>
```

ネーム サーバの引数：

- <ns\_domain>：優先して使用するドメイン。
- <ns\_name>：ネーム サーバの名前。
- <ns\_ip>：ネーム サーバの IP アドレス。



**(注)**

---

ドメインに対する代替ネーム サーバを指定することで、特定のドメインよりも優先させることができます。

---

- ネーム サーバの削除：

```
dnsconfig roots delete <ns_domain> [ns_name]
```



**(注)** 削除するときに `ns_name` を指定しないと、該当のドメインのすべてのネームサーバが削除されます。

- すべての DNS 設定の消去、およびインターネットのルートサーバを使用するためのシステムの自動設定：

```
dnsconfig roots
```

現在の DNS 設定の表示

```
dnsconfig print
```

## 例

各ユーザ指定の DNS サーバには、次の情報が必要です。

- ホスト名
- IP アドレス
- 権限のあるドメイン（代替サーバのみ）

`dnsconfig` コマンドでは、次の 4 つのサブコマンドを使用できます。

**表 3-29 dnsconfig コマンドのサブコマンド**

構文	説明
<code>new</code>	特定のドメインに使用する新しい代替 DNS サーバまたはローカル DNS サーバを追加します。
<code>delete</code>	代替サーバまたはローカル DNS サーバを削除します。
<code>edit</code>	代替サーバまたはローカル DNS サーバを変更します。
<code>setup</code>	インターネット ルート DNS サーバまたはローカル DNS サーバを切り替えます。

表 3-30

**dnsconfig**

```
mail3.example.com> dnsconfig
```

```
Currently using the Internet root DNS servers.
```

```
Alternate authoritative DNS servers:
```

```
1. com: dns.example.com (10.1.10.9)
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new server.
- EDIT - Edit a server.
- DELETE - Remove a server.
- SETUP - Configure general settings.

```
[> setup
```

```
Do you want the Gateway to use the Internet's root DNS servers or  
would you like
```

```
it to use your own DNS servers?
```

1. Use Internet root DNS servers
2. Use own DNS cache servers

```
[1]> 1
```

Choose the IP interface for DNS traffic.

1. Auto
2. Management (10.92.149.70/24: mail3.example.com)

[1]>

Enter the number of seconds to wait before timing out reverse DNS lookups.

[20]>

Enter the minimum TTL in seconds for DNS cache.

[1800]>

Currently using the Internet root DNS servers.

Alternate authoritative DNS servers:

1. com: dns.example.com (10.1.10.9)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new server.
- EDIT - Edit a server.
- DELETE - Remove a server.

```
- SETUP - Configure general settings.
```

```
[]>
```

## 特定のドメインの代替 DNS サーバの追加

特定のローカルドメインを除き、すべての DNS クエリーでインターネットルートサーバを使用するようにアプライアンスを設定できます。

**表 3-31**            **dnsconfig : 代替 DNS サーバの追加**

```
mail3.example.com> dnsconfig
```

```
Currently using the Internet root DNS servers.
```

```
No alternate authoritative servers configured.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Add a new server.
```

```
- SETUP - Configure general settings.
```

```
[]> new
```

```
Please enter the domain this server is authoritative for. (Ex: "com").
```

```
[]> example.com
```

```
Please enter the fully qualified hostname of the DNS server for the domain "example.com".
```

**表 3-31 dnsconfig : 代替 DNS サーバの追加 (続き)**

```
(Ex: "dns.example.com").
```

```
[> dns.example.com
```

```
Please enter the IP address of dns.example.com.
```

```
[> 10.1.10.9
```

```
Currently using the Internet root DNS servers.
```

```
Alternate authoritative DNS servers:
```

```
1. com: dns.example.com (10.1.10.9)
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new server.
- EDIT - Edit a server.
- DELETE - Remove a server.
- SETUP - Configure general settings.

```
[>
```

## 独自の DNS キャッシュ サーバの使用

独自の DNS キャッシュ サーバを使用するようにアプライアンスを設定できます。

**表 3-32**            **dnsconfig : 独自の DNS キャッシュ サーバの使用**

```
mail3.example.com> dnsconfig

Currently using the Internet root DNS servers.

Alternate authoritative DNS servers:

1. com: dns.example.com (10.1.10.9)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new server.

- EDIT - Edit a server.

- DELETE - Remove a server.

- SETUP - Configure general settings.

[ ]> setup

Do you want the Gateway to use the Internet's root DNS servers or would
you like

it to use your own DNS servers?

1. Use Internet root DNS servers
```

**表 3-32 dnsconfig : 独自の DNS キャッシュ サーバの使用 (続き)**

2. Use own DNS cache servers

```
[1]> 2
```

Please enter the IP address of your DNS server.

Separate multiple IPs with commas.

```
[> 10.10.200.03
```

Please enter the priority for 10.10.200.3.

A value of 0 has the highest priority.

The IP will be chosen at random if they have the same priority.

```
[0]> 1
```

Choose the IP interface for DNS traffic.

1. Auto

2. Management (192.168.42.42/24)

3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)

4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)

```
[1]> 1
```

Enter the number of seconds to wait before timing out reverse DNS lookups.

**表 3-32**            **dnsconfig : 独自の DNS キャッシュ サーバの使用 (続き)**

```
[20]>

Enter the minimum TTL in seconds for DNS cache.

[1800]>

Currently using the local DNS cache servers:

1. Priority: 1  10.10.200.3

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new server.

- EDIT - Edit a server.

- DELETE - Remove a server.

- SETUP - Configure general settings.

[]>
```

## dnsflush

### 説明

DNS キャッシュからすべてのエントリをクリアします。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-33**            **dnsflush**

```
mail3.example.com> dnsflush
```

```
Are you sure you want to clear out the DNS cache? [N]> Y
```

## dnslistconfig

### 説明

DNS リスト サービスのサポートを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-34**            **dnslistconfig**

```
mail3.example.com> dnslistconfig
```

```
Current DNS List Settings:
```

```
Negative Response TTL: 1800 seconds
```

```
DNS List Query Timeout: 3 seconds
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Configure general settings.
```

```
[>] setup
```

```
Enter the cache TTL for negative responses in seconds:
```

```
[1800]> 1200
```

```
Enter the query timeout in seconds:
```

```
[3]>
```

```
Settings updated.
```

```
Current DNS List Settings:
```

```
Negative Response TTL: 1200 seconds
```

### 表 3-34 dnslistconfig (続き)

```
DNS List Query Timeout: 3 seconds
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Configure general settings.
```

```
[ ]>
```

```
mail3.example.com>
```

## dnslistflush

### 説明

現在の DNS リスト キャッシュをフラッシュします。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-35**            **dnslistflush**

```
mail3.example.com> dnslistflush

Are you sure you want to clear out the DNS List cache? [N]> y

DNS List cache has been cleared.

mail3.example.com>
```

## dnslisttest

### 説明

DNS ベースのリスト サービスの DNS ルックアップをテストします。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-36**            **dnslisttest**

```
mail3.example.com> dnslisttest

Enter the query server name:

[ ]> mail4.example.com

Enter the test IP address to query for:

[127.0.0.2]> 10.10.1.11

Querying: 10.10.1.11.mail4.example.com

Result:  MATCHED

mail3.example.com>
```

## dnsstatus

### 説明

DNS 統計情報を表示します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-37**            **dnsstatus**

```
mail3.example.com> dnsstatus
```

```
Status as of: Mon Apr 18 10:58:07 2005 PDT
```

Counters:	Reset	Uptime	Lifetime
DNS Requests	1,115	1,115	1,115
Network Requests	186	186	186
Cache Hits	1,300	1,300	1,300
Cache Misses	1	1	1
Cache Exceptions	0	0	0
Cache Expired	185	185	185

```
mail3.example.com>
```

## 一般的な管理 / トラブルシューティング

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [addressconfig](#)
- [adminaccessconfig](#)
- [certconfig](#)
- [diagnostic](#)
- [encryptionconfig](#)

- encryptionstatus
- encryptionupdate
- featurekey
- featurekeyconfig
- ntpconfig
- reboot
- remotepower
- resume
- resumedel
- resumelistener
- settime
- setz
- shutdown
- sshconfig
- status
- supportrequest
- suspend
- suspenddel
- suspendlistener
- techsupport
- tlsverify
- trace
- updateconfig
- updatenow
- version
- upgrade

# addressconfig

## 説明

addressconfig コマンドは、**From:** アドレス ヘッダーを設定するために使用します。**From:** アドレスの表示、ユーザ、およびドメイン名を指定できます。ドメイン名に仮想ゲートウェイドメインの使用を選択することもできます。次の状況では、AsyncOS によって生成されたメールには addressconfig コマンドを使用します。

- Anti-Virus 通知
- バウンス
- 通知 (notify() および notify-copy() フィルタの動作)
- 隔離通知 (duplicate() フィルタの動作)

次の例では、通知の **From:** アドレスを Mail Delivery System [MAILER-DAEMON@domain] (デフォルト) から Notifications [Notification@example.com] に変更します。

## 使用方法

**コミット:** このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-38 addressconfig**

```
mail3.example.com> addressconfig
```

```
Current anti-virus from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
```

```
Current bounce from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
```

```
Current notify from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
```

```
Current quarantine from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- AVFROM - Edit the anti-virus from address.
```

```
- BOUNCEFROM - Edit the bounce from address.
```

```
- NOTIFYFROM - Edit the notify from address.
```

```
- QUARANTINEFROM - Edit the quarantine bcc from address.
```

```
- OTHERFROM - Edit the all other messages from address.
```

```
[>] notifyfrom
```

```
Please enter the display name portion of the "notify from" address
```

```
["Mail Delivery System"]> Notifications
```

```
Please enter the user name portion of the "notify from" address
```

```
[MAILER-DAEMON]> Notification
```

**表 3-38 addressconfig (続き)**

```
Do you want the virtual gateway domain used for the domain? [Y]> n

Please enter the domain name portion of the "notify from" address

[None]> example.com

Current anti-virus from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
Current bounce from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
Current notify from: Notifications <Notification@example.com>
Current quarantine from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>

Choose the operation you want to perform:

- AVFROM - Edit the anti-virus from address.
- BOUNCEFROM - Edit the bounce from address.
- NOTIFYFROM - Edit the notify from address.
- QUARANTINEFROM - Edit the quarantine bcc from address.

[]>
```

## adminaccessconfig

### 説明

ネットワーク アクセス リストとバナー ログインを設定します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式

`adminaccessconfig` コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- すべての IP アドレスにアクセスを許可するか、特定の IP アドレス/サブネット/範囲にアクセスを制限するかを選択

```
adminaccessconfig ipaccess <all/restrict>
```

- 新しい IP アドレス/サブネット/範囲の追加

```
adminaccessconfig ipaccess new <address>
```

- 既存の IP アドレス/サブネット/範囲の編集

```
adminaccessconfig ipaccess edit <oldaddress> <newaddress>
```

- 既存の IP アドレス/サブネット/範囲の削除

```
adminaccessconfig ipaccess delete <address>
```

- IP アドレス/サブネット/範囲のリストの出力

```
adminaccessconfig ipaccess print
```

- 既存のすべての IP アドレス/サブネット/範囲の削除

```
adminaccessconfig ipaccess clear
```

- ログイン バナーの出力

```
adminaccessconfig banner print
```

- アプライアンス上にあるファイルからのログイン バナーのインポート

```
adminaccessconfig banner import <filename>
```

- 既存のログイン バナーの削除

```
adminaccessconfig banner clear
```

## 例 : ネットワーク アクセス リストの設定

電子メールセキュリティ アプライアンスにアクセスするユーザの IP アドレスを制御できます。ユーザは、定義したアクセス リストの IP アドレスを持つすべてのマシンから、アプライアンスにアクセスできます。ネットワーク アクセス リストを作成する際は、IP アドレス、サブネット、または CIDR アドレスを指定できます。

AsyncOS では、現在のマシンの IP アドレスがネットワーク アクセス リストに含まれていない場合に警告を表示します。現在のマシンの IP アドレスがリストにない場合、変更をコミットするとアプライアンスにアクセスできなくなります。

次の例では、アプライアンスへのネットワーク アクセスを 3 つの IP アドレスセットに制限します。

**表 3-39**            **adminaccessconfig : ネットワーク アクセス リスト**

```
mail3.example.com> adminaccessconfig
```

**表 3-39 adminaccessconfig : ネットワーク アクセス リスト (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- BANNER - Configure login message (banner) for appliance administrator login.

- IPACCESS - Configure IP-based access for appliance administrative interface.

[> **ipaccess**

Current mode: Allow All.

Please select the mode:

- ALL - All IP addresses will be allowed to access the administrative interface.

- RESTRICT - Specify IP addresses/Subnets/Ranges to be allowed access.

[> **restrict**

List of allowed IP addresses/Subnets/Ranges:

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new IP address/subnet/range.

[> **new**

**表 3-39 adminaccessconfig : ネットワーク アクセス リスト (続き)**

Please enter IP address, subnet or range.

```
[> 192.168.1.2-100
```

List of allowed IP addresses/Subnets/Ranges:

```
1. 192.168.1.2-100
```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new IP address/subnet/range.
- EDIT - Modify an existing entry.
- DELETE - Remove an existing entry.
- CLEAR - Remove all the entries.

```
[> new
```

Please enter IP address, subnet or range.

```
[> 192.168.255.12
```

List of allowed IP addresses/Subnets/Ranges:

**表 3-39**            **adminaccessconfig : ネットワーク アクセス リスト (続き)**

1. 192.168.1.2-100
2. 192.168.255.12

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new IP address/subnet/range.
- EDIT - Modify an existing entry.
- DELETE - Remove an existing entry.
- CLEAR - Remove all the entries.

```
[> new
```

Please enter IP address, subnet or range.

```
[> 192.168.2.2
```

List of allowed IP addresses/Subnets/Ranges:

1. 192.168.1.2-100
2. 192.168.255.12
3. 192.168.2.2

Choose the operation you want to perform:

**表 3-39 adminaccessconfig : ネットワーク アクセス リスト (続き)**

- NEW - Add a new IP address/subnet/range.
- EDIT - Modify an existing entry.
- DELETE - Remove an existing entry.
- CLEAR - Remove all the entries.

[ ]>

Warning: The host you are currently using [192.168.8.126] is not included in the User Access list. Excluding it will prevent your host from connecting to the administrative interface. Are you sure you want to continue? [N]> **n**

List of allowed IP addresses/Subnets/Ranges:

1. 192.168.1.2-100
2. 192.168.255.12
3. 192.168.2.2

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new IP address/subnet/range.
- EDIT - Modify an existing entry.
- DELETE - Remove an existing entry.
- CLEAR - Remove all the entries.

[ ]> new

**表 3-39**            **adminaccessconfig : ネットワーク アクセス リスト (続き)**

Please enter IP address, subnet or range.

```
[> 192.168.8.126
```

List of allowed IP addresses/Subnets/Ranges:

1. 192.168.1.2-100
2. 192.168.255.12
3. 192.168.2.2
4. 192.168.8.126

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new IP address/subnet/range.
- EDIT - Modify an existing entry.
- DELETE - Remove an existing entry.
- CLEAR - Remove all the entries.

```
[>
```

Current mode: Restrict.

Please select the mode:

### 表 3-39 adminaccessconfig : ネットワーク アクセス リスト (続き)

```
- ALL - All IP addresses will be allowed to access the administrative
interface.

- RESTRICT - Specify IP addresses/Subnets/Ranges to be allowed access.

[]>
```

例 : ネットワーク アクセス リストの設定

ユーザが SSH、Telnet、FTP、または Web UI からログインするときに「ログイン バナー」と呼ばれるメッセージが表示されるように、電子メール セキュリティ アプライアンスを設定できます。ログイン バナーは、CLI でログイン プロンプトの上部に表示され、GUI でログイン プロンプトの右側に表示されるカスタマイズ可能なテキストです。ログイン バナーを使用して、内部のセキュリティ情報またはアプライアンスのベスト プラクティスに関する説明を表示できます。たとえば、アプライアンスの無許可使用を禁止する簡単な注意文や、ユーザがアプライアンスに対して行った変更を確認する企業の権利に関する詳細な警告文を作成できます。

ログイン バナーは、80 x 25 のコンソールに収まるように最大 2000 文字になっています。ログイン バナーは、アプライアンスの /data/pub/configuration ディレクトリにあるファイルからインポートできます。バナーを作成したら、変更を確定します。

次の例では、アプライアンスにログイン バナー「Use of this system in an unauthorized manner is prohibited」を追加します。

### 表 3-40 adminaccessconfig : バナー リスト

```
Choose the operation you want to perform:

- BANNER - Configure login message(banner) for appliance administrator
login.

- IPACCESS - Configure IP-based access for appliance administrative
interface.

[]> banner
```

**表 3-40 adminaccessconfig : バナー リスト (続き)**

A banner has not been defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a banner to display at login.
- IMPORT - Import banner text from a file.

[> **new**

Enter or paste the banner text here. Enter CTRL-D on a blank line to end.

**Use of this system in an unauthorized manner is prohibited.**

^D

Banner: Use of this system in an unauthorized manner is prohibited.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a banner to display at login.
- IMPORT - Import banner text from a file.
- DELETE - Remove the banner.

[>

# certconfig

## 説明

セキュリティの証明書とキーを設定します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例：証明書の貼り付け

次の例では、証明書と秘密キーを貼り付けることによって証明書をインストールします。

**表 3-41 certconfig：証明書の貼り付け**

```
mail3.example.com> certconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- CERTIFICATE - Import, Create a request, Edit or Remove Certificate Profiles
```

```
- CERTAUTHORITY - Manage System and Customized Authorities
```

```
[ ]> certificate
```

```
List of Certificates
```

Name	Common Name	Issued By	Status
Remaining			

**表 3-41 certconfig : 証明書の貼り付け (続き)**

```
-----  
-----  
Demo          Cisco Appliance Demo  Cisco Appliance Demo  Active  
3467 days
```

Choose the operation you want to perform:

- IMPORT - Import a certificate from a local PKCS#12 file
- PASTE - Paste a certificate into the CLI
- NEW - Create a self-signed certificate and CSR
- PRINT - View certificates assigned to services

```
[ ]> paste
```

Enter a name for this certificate profile:

```
> partner.com
```

Paste public certificate in PEM format (end with '.'):

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
```

```
MIICLDCCAwDQYJKoZIhvcNAQEEBQAwgAxCzAJBgNVBAYTALBUMRMwEQYD  
VQOIEwpRdWVlbnNsYW5kMQ8wDQYDVQQHEwZMaXNlb2ExFzAVBgNVBAoTDk5ldXJv  
bmlvLCBMZGZuMRgwFgYDVQQLEw9EZXRlbnZvbHZpbWVudG8xGzAZBgNVBAMTEmJy  
dXR1cy5uZXVyb25pby5wdDEbMBkGCSqGSIb3DQEJARYMc2FtcG9AaWtpLmZpMB4X  
DTk2MDkwNTAzNDI0M1oXDk2MTAwNTAzNDI0M1owgAxCzAJBgNVBAYTALBUMRMw
```

表 3-41 certconfig : 証明書の貼り付け (続き)

```
EQYDVQQIEwprDwV1bnNsYW5kMQ8wDQYDVQQHEwZMaXN1b2ExFzAVBgNVBAoTDk51
dXJvbmlvLCBMZGZlMRgwFgYDVQQLEw9EZXXN1bnZvbHZpbWVudG8xGzAZBgNVBAMT
EmJydXR1cy5uZXVyb25pby5wdDEbMBkGCSqGSIb3DQEJARYMc2FtcG9AaWtpLmZp
MFwwDQYJKoZIhvcNAQEBBQADSwAwSAJBAL7+aty3S1iBA/+yxjxv4q1MUTdlkjNw
L41YKbpzzlmc5beaQXeQ2RmGMTXU+mDvuqItjVHOK3DvPK71TcSGftUCAwEAAATAN
BgkqhkiG9w0BAQQFAANBAFqPEKfjk6T6CKTHvaQeEASX0/8YHPHqH/9AnhSjrwuX
9EBc0n6bVGhN7XaXd6sJ7dym9sbsWxb+pJdurnkxjx4=
-----END CERTIFICATE-----
```

C=PT,ST=Queensland,L=Lisboa,O=Neuronio,

Lda.,OU=Desenvolvimento,CN=brutus.partner.com,emailAddress=admin@example.com

Paste private key in PEM format (end with '.')

-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----

```
MIIBPAIBAAJBAL7+aty3S1iBA/+yxjxv4q1MUTdlkjNwL41YKbpzzlmc5beaQXeQ
2RmGMTXU+mDvuqItjVHOK3DvPK71TcSGftUCAwEAAQJBALjkk+jc2+iihI98riEF
oudmknziSRTYjnwjx8mCoAjPWviB3c742e03FG4/soiljD9A5alihEOxfUzloenr
8IECIQD3B5+0l+68BA/6d76iUNqAAV8djGTzvxnCxycnxPQydQIhAMXt4trUI3nc
a+U8YL2HPFA3gmhBsSICbq2OptOCNm7hAiEA6Xi3JIQECob8YwkRj29DU3/4WYD7
WLPgsQpwolGuSpECICGsnWH5oaeD9t9jbFoSfhJvv0IZmxdclpRcpslpeWBBAiEA
```

**表 3-41 certconfig : 証明書の貼り付け (続き)**

```
6/5B8J0GHdJq89FHwEG/H2eVVUYu5y/aD6sgcm+0Avg=
```

```
-----END RSA PRIVATE KEY-----
```

```
.
```

```
Do you want to add an intermediate certificate? [N]> n
```

```
List of Certificates
```

Name	Common Name	Issued By	Status	Remaining
partner.c	brutus.partner.com	brutus.partner	Active	30 days
Demo	Cisco Appliance Demo	Cisco Appliance Demo	Active	3467 days

```
Choose the operation you want to perform:
```

- IMPORT - Import a certificate from a local PKCS#12 file
- PASTE - Paste a certificate into the CLI
- NEW - Create a self-signed certificate and CSR
- EDIT - Update certificate or view the signing request
- EXPORT - Export a certificate
- DELETE - Remove a certificate

**表 3-41 certconfig : 証明書の貼り付け (続き)**

- PRINT - View certificates assigned to services

[ ]>

Choose the operation you want to perform:

- CERTIFICATE - Import, Create a request, Edit or Remove Certificate Profiles

- CERTAUTHORITY - Manage System and Customized Authorities

[ ]>

esx16-esa01.qa> **commit**

Please enter some comments describing your changes:

[ ]> **Installed certificate and key for receiving, delivery, and https**

例 : 自己署名証明書の作成

次の例では、自己署名証明書を作成します。

**表 3-42 certconfig : 自己署名証明書の作成**

mail3.example.com> certconfig

Choose the operation you want to perform:

**表 3-42 certconfig : 自己署名証明書の作成 (続き)**

- CERTIFICATE - Import, Create a request, Edit or Remove Certificate Profiles

- CERTAUTHORITY - Manage System and Customized Authorities

[> **certificate**

List of Certificates

Name	Common Name	Issued By	Status
Remaining			

-----  
-----

partner.c -4930	brutus.neuronio.pt	brutus.neuronio.pt	Expired
--------------------	--------------------	--------------------	---------

days

Demo 3467 days	Cisco Appliance Demo	Cisco Appliance Demo	Active
-------------------	----------------------	----------------------	--------

Choose the operation you want to perform:

- IMPORT - Import a certificate from a local PKCS#12 file

- PASTE - Paste a certificate into the CLI

- NEW - Create a self-signed certificate and CSR

- EDIT - Update certificate or view the signing request

- EXPORT - Export a certificate

- DELETE - Remove a certificate

- PRINT - View certificates assigned to services

**表 3-42 certconfig : 自己署名証明書の作成 (続き)**

```
[ ]> new
```

```
Enter a name for this certificate profile:
```

```
> example.com
```

```
Enter Common Name:
```

```
> example.com
```

```
Enter Organization:
```

```
> Example
```

```
Enter Organizational Unit:
```

```
> Org
```

```
Enter Locality or City:
```

```
> San Francisoc
```

```
Enter State or Province:
```

```
> CA
```

```
Enter Country (2 letter code):
```

**表 3-42 certconfig : 自己署名証明書の作成 (続き)**

> **us**

Duration before expiration (in days):

[3650]>

1. 1024

2. 2048

Enter size of private key:

[2]>

Do you want to view the CSR? [Y]> **y**

-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----

```
MIICrTCCAUAQAwaDELMAkGA1UEBhMCVVMxFDASBgNVBAMTC2V4YW1wbGUuY29t
MRYwFAyDVQQHEW1TYW4gRnJhbmNpc29jMRAwDgYDVQQKEWdleGFtcGx1MQswCQYD
VQQIEWJDQTEEMMAoGA1UECxmDb3JnMIIBIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIB
CgKCAQEANwamZyX7VgTZka/x1I5HHrN9V2MPKXoLq7FjzUtiIDwznElrKIuJovw
Svonle6GvFlUHfjv8B3WobOzk5Ny6btKjwPrBfaY+qr7rzM4lAQKHM+P6l+lZnPU
P05N9RCkLP4XsUuyY6Ca1WLTiPIgaq2fR8Y0JX/kesZcGOqlde66pN+xJIHHYadd
oopOgqi6SLNfAzJu/HEu/fnSujG4nhF0ZG1OpVUx4fg33NwZ4wV10XBk3GrOjbbA
ih9ozAwfNzxb57amtxEJk+pW+co3uEHLJIOPdih9SHzn/UVU4hiu8rSQR19sDApp
```

**表 3-42 certconfig : 自己署名証明書の作成 (続き)**

```
kfdWcfaDLF9tnQJPWSYoCh0USgCc8QIDAQABoAAwDQYJKoZIhvcNAQEFBQADggEB
AGiVhyMAZuHSv9yA08kJCmrgO89yRlnDUXDDo6IrODVKx4hHTiOanOPulnsThSvH
7xV4xR35T/QV0U3yPrL6bJbbwMySOLIRTjsUcwZNjOE1xMM5EkBM2BOI5rs4l59g
FhHVejhG1LyyUDL0U82wsSLMqLFH1IT63tzwVmRiIXmAu/lHYci3+vctb+sopnN1
lY10Iuj+EqqWNrRBNnKXLtdXkzhELOd8vZEqSAfBWYjZ2mECzC7SG3evqkw/ogLk
AilNXHayiGjeY+UfWzF/HBsekSJtQu6hIv6JpBSY/MnYU4t1lExqD+GX3lru4xc4
zDas2rS/Pbpn73Lf503nmsw=
-----END CERTIFICATE REQUEST-----
```

List of Certificates

Name	Common Name	Issued By	Status	
example.c	example.com	example.com	Valid	
3649 days				
partner.c	brutus.partner.com	brutus.partner.com	Valid	30 days
Demo	Cisco Appliance Demo	Cisco Appliance Demo	Active	
3467 days				

Choose the operation you want to perform:

- IMPORT - Import a certificate from a local PKCS#12 file
- PASTE - Paste a certificate into the CLI

**表 3-42 certconfig : 自己署名証明書の作成 (続き)**

```
- NEW - Create a self-signed certificate and CSR
- EDIT - Update certificate or view the signing request
- EXPORT - Export a certificate
- DELETE - Remove a certificate
- PRINT - View certificates assigned to services

[]>
```

## diagnostic

### 説明

**diagnostic** コマンドは、RAID ディスクのチェック、キャッシュ情報の表示およびクリア、他のメール サーバとの接続のテストに使用します。

### diagnostic コマンドの使用

**diagnostic** サブメニューでは、次のコマンドを使用できます。

**表 3-43 diagnostic サブコマンド**

オプション	サブコマンド	アベイラビリティ
RAID	1. ディスク検証の実行	C30 および C60 でのみ使用可能。
	2. 実行中のタスクのモニタ	
	3. ディスク検証結果の表示	
NETWORK	FLUSH	C-Series、X-Series、M-Series
	ARPSHOW	
	SMTTPPING	
	TCPDUMP	

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト（ユーザがログインしたマシン）でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式

`diagnostic` コマンドのバッチ形式を使用すると、RAID の状態のチェック、キャッシュのクリア、ARP キャッシュの内容の表示を実行できます。バッチ コマンドとして実行するには、次の形式を使用します。

- RAID の状態のチェック

```
diagnostic raid
```

- LDAP、DNS、および ARP キャッシュのクリア

```
diagnostic network flush
```

- ARP キャッシュの表示

```
diagnostic network arpshow
```

## 例：ARP キャッシュの表示とクリア

次の例では、`diagnostic` コマンドを使用して、ARP キャッシュの内容を表示し、ネットワークに関連するすべてのキャッシュをフラッシュします。

**表 3-44**            **diagnostic**

```
mail3.example.com> diagnostic
```

**表 3-44 diagnostic (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- RAID - Disk Verify Utility.
- NETWORK - Network Utilities.

[> **network**

Choose the operation you want to perform:

- FLUSH - Flush all network related caches.
- ARPSHOW - Show system ARP cache.
- SMTPPING - Test a remote SMTP server.

[> **arpshow**

System ARP cache contents:

(163.17.0.1) at 00:02:b1:cf:10:11 on fxp0 [ethernet]

Choose the operation you want to perform:

- FLUSH - Flush all network related caches.
- ARPSHOW - Show system ARP cache.
- SMTPPING - Test a remote SMTP server.

[> **flush**

### 表 3-44 diagnostic (続き)

```
Flushing LDAP cache.  
  
Flushing DNS cache.  
  
Flushing DNS List cache.  
  
Flushing system ARP cache.  
  
163.17.0.1 (163.17.0.1) deleted  
  
  
  
Network reset complete.
```

## 例：別のメールサーバとの接続の検証

次の例では、**diagnostic** コマンドを使用して別のメールサーバとの接続をチェックします。メールサーバをテストするには、サーバに対してメッセージを送信するか、**ping** を実行します。

### 表 3-45 diagnostic: SMTTPING

```
mail3.example.com> diagnostic  
  
Choose the operation you want to perform:  
  
- RAID - Disk Verify Utility.  
  
- NETWORK - Network Utilities.  
  
[ ]> network  
  
Choose the operation you want to perform:  
  
- FLUSH - Flush all network related caches.  
  
- ARPSHOW - Show system ARP cache.
```

**表 3-45 diagnostic: SMTPPING (続き)**

- SMTPPING - Test a remote SMTP server.

```
[> smtping
```

```
Enter the hostname or IP address of the SMTP server:
```

```
[mail3.example.com]> mail.com
```

```
The domain you entered has MX records.
```

```
Would you like to select an MX host to test instead? [Y]>y
```

```
Select an MX host to test.
```

```
1. d1.mail.com
```

```
2. d2.mail.com
```

```
3. mail.com
```

```
[1]> 3
```

```
Select a network interface to use for the test.
```

```
1. Data 1
```

```
2. Data 2
```

```
3. Management
```

```
4. auto
```

```
[4]> 3
```

```
Using interface 'Management' with source IP 168.18.0.220.
```

### 表 3-45 diagnostic: SMTPPING (続き)

```
Do you want to type in a test message to send? If not, the connection
will be tested but no email will be sent. [N]>n
```

```
Starting SMTP test of host mail.com.

Resolved 'mail.com' to 166.11.0.6.

Connection to 166.11.0.6 succeeded.

Command EHLO succeeded

Command MAIL FROM succeeded.

Test complete. Total time elapsed 0.01 seconds
```

## encryptionconfig

電子メール暗号化を設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次に、暗号化プロファイルを変更する例を示します。

**表 3-46 encryptionconfig**

```
example.com> encryptionconfig

IronPort Email Encryption: Enabled

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Enable/Disable IronPort Email Encryption
- PROFILES - Configure email encryption profiles
- PROVISION - Provision with the Cisco Registered Envelope Service

[ ]> setup

PXE Email Encryption: Enabled

Would you like to use PXE Email Encryption? [Y]> y

IronPort Email Encryption: Enabled

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Enable/Disable IronPort Email Encryption
- PROFILES - Configure email encryption profiles
- PROVISION - Provision with the Cisco Registered Envelope Service
```

**表 3-46 encryptionconfig (続き)**

```
[>> profiles
```

```
Proxy: Not Configured
```

Profile Name	Key Service	Proxied	Provision Status
-----	-----	-----	-----
HIPAA	Hosted Service	No	Not Provisioned

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new encryption profile
- EDIT - Edit an existing encryption profile
- DELETE - Delete an encryption profile
- PRINT - Print all configuration profiles
- CLEAR - Clear all configuration profiles
- PROXY - Configure a key server proxy

```
[>> edit
```

```
1. HIPAA
```

```
Select the profile you wish to edit:
```

```
[1]> 1
```

**表 3-46 encryptionconfig (続き)**

```
Profile name: HIPAA
External URL: https://res.cisco.com
Encryption algorithm: ARC4
Return receipts enabled: Yes
Envelope sensitivity: High
Secure Forward enabled: No
Secure Reply All enabled: No
Suppress Applet: No
URL associated with logo image: <undefined>
Text notification template: System Generated
HTML notification template: System Generated
Encryption queue timeout: 14400
Failure notification subject: [ENCRYPTION FAILURE]
Failure notification template: System Generated

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change profile name
- EXTERNAL - Change external URL
- ALGORITHM - Change encryption algorithm
- RECEIPT - Change return receipt handling
```

**表 3-46 encryptionconfig (続き)**

- SENSITIVITY - Change envelope sensitivity
- FORWARD - Change "Secure Forward" setting
- REPLYALL - Change "Secure Reply All" setting
- APPLLET - Change applet suppression setting
- URL - Change URL associated with logo image
- TIMEOUT - Change maximum time message waits in encryption queue
- BOUNCE\_SUBJECT - Change failure notification subject

[>] **sensitivity**

1. Medium (password required to open envelopes, but credentials may be cached)
2. High (password required and passphrase enabled, and credentials may not be cached)
3. No Password Required (The recipient does not need a password to open the encrypted message.)

Please enter the envelope sensitivity level:

[2]> **1**

Profile name: HIPAA

External URL: https://res.cisco.com

Encryption algorithm: ARC4

Return receipts enabled: Yes

Envelope sensitivity: High

**表 3-46 encryptionconfig (続き)**

```
Secure Forward enabled: No

Secure Reply All enabled: No

Suppress Applet: No

URL associated with logo image: <undefined>

Text notification template: System Generated

HTML notification template: System Generated

Encryption queue timeout: 14400

Failure notification subject: [ENCRYPTION FAILURE]

Failure notification template: System Generated

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change profile name

- EXTERNAL - Change external URL

- ALGORITHM - Change encryption algorithm

- RECEIPT - Change return receipt handling

- SENSITIVITY - Change envelope sensitivity

- FORWARD - Change "Secure Forward" setting

- REPLYALL - Change "Secure Reply All" setting

- APPLETT - Change applet suppression setting

- URL - Change URL associated with logo image

- TIMEOUT - Change maximum time message waits in encryption queue
```

**表 3-46 encryptionconfig (続き)**

- BOUNCE\_SUBJECT - Change failure notification subject

[> **forward**

Would you like to enable "Secure Forward"? [N]> y

Profile name: HIPAA

External URL: https://res.cisco.com

Encryption algorithm: ARC4

Return receipts enabled: Yes

Envelope sensitivity: High

Secure Forward enabled: Yes

Secure Reply All enabled: No

Suppress Applet: No

URL associated with logo image: <undefined>

Text notification template: System Generated

HTML notification template: System Generated

Encryption queue timeout: 14400

Failure notification subject: [ENCRYPTION FAILURE]

Failure notification template: System Generated

Choose the operation you want to perform:

**表 3-46 encryptionconfig (続き)**

- NAME - Change profile name
  - EXTERNAL - Change external URL
  - ALGORITHM - Change encryption algorithm
  - RECEIPT - Change return receipt handling
  - SENSITIVITY - Change envelope sensitivity
  - FORWARD - Change "Secure Forward" setting
  - REPLYALL - Change "Secure Reply All" setting
  - APPLETT - Change applet suppression setting
  - URL - Change URL associated with logo image
  - TIMEOUT - Change maximum time message waits in encryption queue
  - BOUNCE\_SUBJECT - Change failure notification subject
- [ ]>

Proxy: Not Configured

Profile Name	Key Service	Proxied	Provision Status
-----	-----	-----	-----
HIPAA	Hosted Service	No	Not Provisioned

# encryptionstatus

## 説明

encryptionstatus コマンドは、IronPort 電子メール セキュリティ アプライアンス上の PXE エンジンとドメイン マッピング ファイルのバージョンとコンポーネントが最後に更新された日時を表示します。

## 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-47 encryptionstatus**

```
mail3.example.com> encryptionstatus
```

Component	Version	Last Updated
PXE Engine	6.7.1	17 Nov 2009 00:09 (GMT)
Domain Mappings File	1.0.0	Never updated

# encryptionupdate

## 説明

encryptionupdate コマンドは、IronPort 電子メール セキュリティ アプライアンス上の PXE エンジンの更新を要求します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-48 encryptionupdate**

```
mail3.example.com> encryptionupdate
```

```
Requesting update of PXE Engine.
```

## featurekey

### 説明

`featurekey` コマンドは、システム上でキーによってイネーブルになっているすべての機能とキーに関連する情報を表示します。また、キーを使用して機能を有効にしたり、新しい機能キーをチェックしたりすることもできます。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

この例では、`featurekey` コマンドを使用して新しい機能キーをチェックします。

**表 3-49**

```
mail3.example.com> featurekey
```

Module	Quantity	Remaining	Expiration Date
Bounce Verification 2006	1	30 days	Fri Jun 30 18:57:26
IronPort Anti-Spam 2006	1	28 days	Thu Jun 29 15:20:23
Incoming Mail Handling 2006	1	28 days	Thu Jun 29 15:20:31
Virus Outbreak Filters 2006	1	28 days	Thu Jun 29 15:20:24
Sophos Anti-Virus 2006	1	28 days	Thu Jun 29 15:20:23

```
Choose the operation you want to perform:
```

- ACTIVATE - Activate a (pending) key.
- CHECKNOW - Check now for new feature keys.

```
[ ]> checknow
```

```
No new feature keys are available.
```

# featurekeyconfig

## 説明

`featurekeyconfig` コマンドでは、使用可能なキーのダウンロードとマシン上のキーの更新を自動的に行うようにマシンを設定できます。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

この例では、`featurekeyconfig` コマンドを使用して `autoactivate` および `autocheck` 機能をイネーブルにします。

**表 3-50**            **featurekeyconfig**

```
mail3.example.com> featurekeyconfig

Automatic activation of downloaded keys: Disabled

Automatic periodic checking for new feature keys: Disabled

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Edit feature key configuration.

[ ]> setup

Automatic activation of downloaded keys: Disabled

Automatic periodic checking for new feature keys: Disabled
```

**表 3-50 featurekeyconfig (続き)**

```
Choose the operation you want to perform:

- AUTOACTIVATE - Toggle automatic activation of downloaded keys.
- AUTOCHECK - Toggle automatic checking for new feature keys.

[]> autoactivate

Do you want to automatically apply downloaded feature keys? [N]> y

Automatic activation of downloaded keys: Enabled

Automatic periodic checking for new feature keys: Disabled

Choose the operation you want to perform:

- AUTOACTIVATE - Toggle automatic activation of downloaded keys.
- AUTOCHECK - Toggle automatic checking for new feature keys.

[]> autocheck

Do you want to periodically query for new feature keys? [N]> y

Automatic activation of downloaded keys: Enabled

Automatic periodic checking for new feature keys: Enabled
```

## ntpconfig

### 説明

ntpconfig コマンドでは、ネットワーク タイム プロトコル (NTP) を使用してシステム クロックを他のコンピュータと同期するように、IronPort AsyncOS を設定します。NTP をオフにするには、settime コマンドを使用します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-51 ntpconfig**

```
mail3.example.com> ntpconfig
```

```
Currently configured NTP servers:
```

```
1. time.ironport.com
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Add a server.
```

```
- DELETE - Remove a server.
```

```
- SOURCEINT - Set the interface from whose IP address NTP queries should originate.
```

```
[ ]> new
```

```
Please enter the fully qualified hostname or IP address of your NTP server.
```

```
[ ]> ntp.example.com
```

```
Currently configured NTP servers:
```

```
1. time.ironport.com
```

```
2. bitsy.mit.edi
```

### 表 3-51 ntpconfig (続き)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a server.

- DELETE - Remove a server.

- SOURCEINT - Set the interface from whose IP address NTP queries should originate.

```
[> sourceint
```

When initiating a connection to an NTP server, the outbound IP address used is chosen automatically.

If you want to choose a specific outbound IP address, please select its interface name now.

1. Auto
2. Management (172.19.0.11/24: elroy.run)
3. PrivateNet (172.19.1.11/24: elroy.run)
4. PublicNet (172.19.2.11/24: elroy.run)

```
[1]> 1
```

Currently configured NTP servers:

1. time.ironport.com
2. bitsy.mit.edi

Choose the operation you want to perform:

**表 3-51 ntpconfig (続き)**

```
- NEW - Add a server.

- DELETE - Remove a server.

- SOURCEINT - Set the interface from whose IP address NTP queries should
originate.

[]>

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:

[]> Added new NTP server

Changes committed: Thu Mar 27 15:01:27 2003
```

## reboot

### 説明

アプライアンスを再起動します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-52**            **reboot**

```
mail3.example.com> reboot

Enter the number of seconds to wait before abruptly closing connections.

[30]>

Waiting for listeners to exit...

Receiving suspended.

Waiting for outgoing deliveries to finish...

Mail delivery suspended.
```

## remotepower

### 説明

バージョン 2.0 をサポートするサードパーティのインテリジェント プラットフォーム管理インターフェイス (IPMI) ツールを使用し、アプライアンスのシャーシに電源をリモートでリセットする機能を設定します。次の IPMI コマンドはサポートされます: `status`, `on`, `off`, `cycle`, `reset`, `diag`, `soft`。

このコマンドは、次のハードウェアでのみ実行します: **C380** および **C680**、**M380** および **M680** および **S380** および **S680**。

リモート電源管理インターフェイス専用の IPv4 アドレスが必要です。このインターフェイスは `remotepower` コマンドでを介してのみ設定可能です。 `ipconfig` コマンドを使用して設定することはできません。

ユーザがこのコマンドに指定したユーザ名とパスワードは、アプライアンスの電源をリモートでリセットするために必要です。



(注)

専用リモート電源管理ポートが安全なネットワークに直接接続されていることを確認します。詳細については、ハードウェア インストールガイドを参照してください。ファイアウォールで必要なポートが開いていて、アプライアンスがリモートからアクセスできることを確認します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
esa01> remotepower

Current remote power settings:
Access to IPMI remote power commands currently disabled.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure IPMI for chassis remote power access.
[]> setup

Do you want to enable remote access to chassis power commands?
[N]> y

Please enter the IP address (IPv4 only) for the chassis.
[]> 192.0.2.254

Please enter the netmask.
[]> 255.255.255.0

Please enter the gateway address.
[]> 192.0.2.1

Please enter the user name that will be used to log in to the chassis.
[]> user1

Please enter the password.
>
Please enter the password again to confirm.
>
```

```
Current remote power settings:  
Access to IPMI remote power commands enabled.  
IP Address: 192.0.2.254  
Netmask: 255.255.255.0  
Gateway: 192.0.2.1  
User name: user1
```

## resume

### 説明

受信と配信を再開します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-53**            **resume**

```
mail3.example.com> resume
```

```
Receiving resumed.
```

```
Mail delivery resumed.
```

```
mail3.example.com>
```

## resumedel

### 説明

配信を再開します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-54**            **resumedel**

```
mail3.example.com> resumedel
```

```
Mail delivery resumed.
```

## resumelister

### 説明

リスナーでの受信を再開します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-55 resumelistener**

```
mail3.example.com> resumelistener

Choose the listener(s) you wish to resume.

Separate multiple entries with commas.

1. All
2. InboundMail
3. OutboundMail

[1]> 1

Receiving resumed.

mail3.example.com>
```

## settime

### 説明

`settime` コマンドでは、NTP サーバを使用していない場合に時刻を手動で設定できます。このコマンドを実行すると、NTP を停止して手動でシステム クロックを設定するかどうか尋ねられます。時刻は **MM/DD/YYYY HH:MM:SS** の形式で入力します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-56**            **settime**

```
mail3.example.com> settime
```

```
WARNING: Changes to system time will take place immediately  
and do not require the user to run the commit command.
```

```
Current time 09/23/2001 21:03:53.
```

```
This machine is currently running NTP.
```

```
In order to manually set the time, NTP must be disabled.
```

```
Do you want to stop NTP and manually set the time? [N]> Y
```

```
Please enter the time in MM/DD/YYYY HH:MM:SS format.
```

```
[ ]> 09/23/2001 21:03:53
```

```
Time set to 09/23/2001 21:03:53.
```

## settz

### 説明

ローカル タイム ゾーンを設定します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシンモード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-57          setz**

```
mail3.example.com> setz

Current time zone: Etc/GMT
Current time zone version: 2010.02.0

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Set the local time zone.

[ ]> setup

Please choose your continent:

1. Africa
2. America
[ ... ]

11. GMT Offset

[2]> 2

Please choose your country:

1. Anguilla
[ ... ]

45. United States
46. Uruguay
```

### 表 3-57          **setz (続き)**

```
47. Venezuela
48. Virgin Islands (British)
49. Virgin Islands (U.S.)
[45]> 45

Please choose your timezone:

1. Alaska Time (Anchorage)
2. Alaska Time - Alaska panhandle (Juneau)
[ ... ]
21. Pacific Time (Los_Angeles)
[21]> 21

Current time zone: America/Los_Angeles

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Set the local time zone.

[]>
```

## shutdown

### 説明

システムをシャットダウンして電源を切ります。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-58**            **shutdown**

```
mail3.example.com> shutdown
```

```
Enter the number of seconds to wait before abruptly closing connections.
```

```
[30]>
```

```
System shutting down. Please wait while the queue is being closed.
```

```
Closing CLI connection.
```

```
Use the power button (in 30 seconds) to turn off the machine.
```

## sshconfig

### 説明

SSH キーを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはクラスタ モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次の例では、admin アカウントに対して新しい公開キーがインストールされます。

**表 3-59**            **sshconfig : 「Admin」 アカウントの新しい公開キーのインストール**

```
mail3.example.com> sshconfig
```

```
Currently installed keys for admin:
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new key.
- USER - Switch to a different user to edit.
- SETUP - Configure general settings.

```
[ ]> new
```

```
Please enter the public SSH key for authorization.
```

```
Press enter on a blank line to finish.
```

```
[cut and paste public key for user authentication here]
```

```
Currently installed keys for admin:
```

**表 3-59**            **sshconfig : 「Admin」 アカウントの新しい公開キーのインストール**

```
1. ssh-dss AAAAB3NzaC1kc3MAA...CapRrgxcY= (admin@example.com)
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new key.
- EDIT - Modify a key.
- DELETE - Remove a key.
- PRINT - Display a key.

```
[ ]>
```

## SSH1 のディセーブル化

SSH1 をディセーブル（またはイネーブル）にするには、sshconfig コマンドの setup サブコマンドを使用します。

**表 3-60**            **sshconfig : SSH1 のイネーブル化/ディセーブル化**

```
mail3.example.com> sshconfig
```

```
Currently installed keys for admin:
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new key.
- USER - Switch to a different user to edit.
- SETUP - Configure general settings.

```
[ ]> setup
```

**表 3-60**            **sshconfig : SSH1 のイネーブル化/ディセーブル化 (続き)**

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- DISABLE - Disable SSH v1
```

```
[ ]> disable
```

```
Currently installed keys for admin:
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Add a new key.
```

```
- USER - Switch to a different user to edit.
```

```
- SETUP - Configure general settings
```

```
[ ]>
```

```
mail3.example.com> commit
```

## status

### 説明

システム ステータスを表示します。

### 使用方法

コミット : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-61 status**

```
mail3.example.com> status

Status as of:                Thu Oct 21 14:33:27 2004 PDT
Up since:                    Wed Oct 20 15:47:58 2004 PDT (22h 45m 29s)
Last counter reset:         Never
System status:              Online
Oldest Message:             4 weeks 46 mins 53 secs

Counters:                    Reset          Uptime          Lifetime

Receiving

  Messages Received          62,049,822      290,920          62,049,822
  Recipients Received        62,049,823      290,920          62,049,823

Rejection

  Rejected Recipients        3,949,663       11,921           3,949,663
  Dropped Messages          11,606,037       219              11,606,037

Queue

  Soft Bounced Events       2,334,552       13,598           2,334,552

Completion

  Completed Recipients       50,441,741      332,625          50,441,741

Current IDs
```

**表 3-61 status (続き)**

Message ID (MID)	99524480
Injection Conn. ID (ICID)	51180368
Delivery Conn. ID (DCID)	17550674

Gauges: Current

Connections

Current Inbound Conn.	0
Current Outbound Conn.	14

Queue

Active Recipients	7,166
Messages In Work Queue	0
Messages In Quarantine	16,248
Kilobytes Used	387,143
Kilobytes In Quarantine	338,206
Kilobytes Free	39,458,745

mail3.example.com>

# supportrequest

## 説明

IronPort カスタマー ケアにメッセージを送信します。このコマンドを使用するには、アプライアンスがインターネットに電子メールを送信できる必要があります。トラブル チケットが自動的に作成されます。また、サポート要求を既存のトラブル チケットに関連付けることもできます。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト（ユーザがログインしたマシン）でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次に、既存のサポート チケットに関連しないサポート要求の例を示します。

**表 3-62 supportrequest**

```
mail3.example.com> supportrequest
```

```
Do you want to send the support request to supportrequest@ironport.com?  
[Y]> y
```

```
Do you want to send the support request to additional recipient(s)? [N]>  
y
```

### 表 3-62 supportrequest

Please enter the email address(es) to which you want to send the support request. Include anyone in your organization that should be

included on future correspondence for this issue. Separate multiple addresses with commas.

```
[ ]> administrator@example.com, postmaster@example.com
```

Is this support request associated with an existing support ticket? [N]>  
n

Please enter some comments describing your issue, providing as much detail as possible to aid in diagnosing any issues:

```
[ ]> Having DNS resolution issues with some domains
```

For future correspondence on this issue, please enter your email address:

```
[ ]> mail3@example.com
```

Please enter any additional contact information (e.g. phone number(s)):

```
[ ]> (650)555-1212 (office), (650)555-1212 (cell)
```

Generating configuration information; this will take about 10 seconds...

## 表 3-62 supportrequest

```
The support request information has been sent to  
supportrequest@ironport.com, administrator@example.com,  
postmaster@example.com.
```

```
Do you want to print the support request to the screen? [N]> n
```

# suspend

## 説明

受信と配信を中断します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-63**            **suspend**

```
mail3.example.com> suspend
```

```
Enter the number of seconds to wait before abruptly closing connections.
```

```
[30]> 45
```

```
Waiting for listeners to exit...
```

```
Receiving suspended.
```

```
Waiting for outgoing deliveries to finish...
```

```
Mail delivery suspended.
```

```
mail3.example.com>
```

## suspenddel

### 説明

配信を中断します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-64**            **suspenddel**

```
mail3.example.com> suspenddel
```

```
Enter the number of seconds to wait before abruptly closing connections.
```

```
[30]>
```

```
Waiting for outgoing deliveries to finish...
```

```
Mail delivery suspended.
```

## suspendlistener

### 説明

受信を中断します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-65**            **suspendlistener**

```
mail3.example.com> suspendlistener
```

```
Choose the listener(s) you wish to suspend.
```

```
Separate multiple entries with commas.
```

1. All
2. InboundMail
3. OutboundMail

```
[1]> 1
```

```
Enter the number of seconds to wait before abruptly closing connections.
```

```
[30]>
```

```
Waiting for listeners to exit...
```

```
Receiving suspended.
```

```
mail3.example.com>
```

## techsupport

### 説明

IronPort のカスタマー サービスがシステムにアクセスできるようにします。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-66**            **techsupport**

```
mail3.example.com> techsupport
```

```
S/N XXXXXXXXXXXXX-XXXXXXX
```

```
Service Access currently disabled.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- ENABLE - Allow an IronPort customer service representative to remotely  
access your system to assist you in solving your technical issues.
```

```
- STATUS - Display the current techsupport status.
```

```
[> enable
```

```
Enter a temporary password for customer care to use. This password may  
not be the same as your admin password. This password will not be able  
to be used to directly access your system.
```

```
[> *****
```

```
Are you sure you want to enable service access? [N]> y
```

```
Service access has been ENABLED. Please provide your temporary password  
to your IronPort Customer Care representative.
```

```
S/N 00065BF3BA6D-9WFWC21
```

```
Service Access currently ENABLED (0 current service logins).
```

**表 3-66**            **techsupport (続き)**

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- DISABLE - Prevent IronPort customer service representatives from  
remotely accessing your system.
```

```
- STATUS - Display the current techsupport status.
```

```
[1]>
```

## tlsverify

### 説明

発信 TLS 接続を必要に応じて確立し、宛先ドメインに関する TLS 接続の問題をデバッグします。接続を確立するには、検証するドメインと宛先ホストを指定します。AsyncOS は、必要な (検証) TLS 設定に基づいて TLS 接続を確認します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式

tlsverify コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行し、特定のホスト名との TLS 接続をチェックできます。

```
tlsverify <domain> <hostname>[:<port>]
```

## 例

**表 3-67**      **tlsverify**

```
mail3.example.com> tlsverify
```

Enter the TLS domain to verify against:

```
[ ]> example.com
```

Enter the destination host to connect to. Append the port (example.com:26) if you are not connecting on port 25:

```
[example.com]> mxe.example.com:25
```

Connecting to 1.1.1.1 on port 25.

Connected to 1.1.1.1 from interface 10.10.10.10.

Checking TLS connection.

TLS connection established: protocol TLSv1, cipher RC4-SHA.

Verifying peer certificate.

Verifying certificate common name mxe.example.com.

TLS certificate match mxe.example.com

TLS certificate verified.

TLS connection to 1.1.1.1 succeeded.

TLS successfully connected to mxe.example.com.

TLS verification completed.

# trace

## 説明

システムを通過するメッセージのフローを追跡します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-68**            **trace**

```
mail3.example.com> trace
```

```
Enter the source IP
```

```
[>] 192.168.1.1
```

```
Enter the fully qualified domain name of the source IP
```

```
[>] example.com
```

```
Select the listener to trace behavior on:
```

```
1. InboundMail
```

```
2. OutboundMail
```

```
[1]> 1
```

```
Fetching default SenderBase values...
```

```
Enter the SenderBase Org ID of the source IP. The actual ID is N/A.
```

```
[N/A]>
```

```
Enter the SenderBase Reputation Score of the source IP. The actual score is N/A.
```

```
[N/A]>
```

**表 3-68 trace (続き)**

Enter the Envelope Sender address:

```
[ ]> pretend.sender@example.net
```

Enter the Envelope Recipient addresses. Separate multiple addresses by commas.

```
[ ]> admin@example.com
```

Load message from disk? [Y]> n

Enter or paste the message body here. Enter '.' on a blank line to end.

```
Subject: Hello  
This is a test message.
```

```
.
```

HAT matched on unnamed sender group, host ALL

- Applying \$ACCEPTED policy (ACCEPT behavior).
- Maximum Message Size: 100M (Default)
- Maximum Number Of Connections From A Single IP: 1000 (Default)
- Maximum Number Of Messages Per Connection: 1,000 (Default)
- Maximum Number Of Recipients Per Message: 1,000 (Default)
- Maximum Recipients Per Hour: 100 (Default)
- Use SenderBase For Flow Control: Yes (Default)
- Spam Detection Enabled: Yes (Default)

**表 3-68**            **trace (続き)**

- Virus Detection Enabled: Yes (Default)
- Allow TLS Connections: No (Default)

Processing MAIL FROM:

- Default Domain Processing: No Change

Processing Recipient List:

Processing admin@ironport.com

- Default Domain Processing: No Change
- Domain Map: No Change
- RAT matched on admin@ironport.com, behavior = ACCEPT
- Alias expansion: No Change

Message Processing:

- No Virtual Gateway(tm) Assigned
- No Bounce Profile Assigned

Domain Masquerading/LDAP Processing:

- No Changes.

Processing filter 'always\_deliver':

**表 3-68**            **trace (続き)**

Evaluating Rule:    rcpt-to == "@mail.qa"

Result = False

Evaluating Rule:    rcpt-to == "ironport.com"

Result = True

Evaluating Rule:    OR

Result = True

Executing Action:    deliver()

Footer Stamping:

- Not Performed

Inbound Recipient Policy Processing: (matched on Management Upgrade policy)

Message going to:    admin@ironport.com

AntiSpam Evaluation:

- Not Spam

AntiVirus Evaluation:

- Message Clean.

- Elapsed Time = '0.000 sec'

**表 3-68**      **trace (続き)**

```
VOF Evaluation:

- No threat detected

Message Enqueued for Delivery

Would you like to see the resulting message? [Y]> y

Final text for messages matched on policy Management Upgrade

Final Envelope Sender:  pretend.sender@example.doma

Final Recipients:

- admin@ironport.com

Final Message Content:

Received: from remotehost.example.com (HELO TEST) (1.2.3.4)

    by stacy.qa with TEST; 19 Oct 2004 00:54:48 -0700

Message-Id: <3i93q9$@Management>

X-IronPort-AV: i="3.86,81,1096873200";

    d="scan'208"; a="0:sNHT0"
```

**表 3-68**          **trace (続き)**

```
Subject: hello
```

```
This is a test message.
```

```
Run through another debug session? [N]>
```



**(注)**

---

trace を使用するときには、貼り付けられたメッセージのヘッダーと本文の両方を CLI に含める必要があります。

---

## tzupdate

### 説明

タイムゾーン ルールを更新します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン レベルでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式

tzupdate コマンドのバッチ形式を使用すると、変更が検出されない場合でも、すべてのタイムゾーン ルールが強制的に更新されます。

```
tzupdate [force]
```

## 例

```
esx16-esa01.qa> tzupdate
```

```
Requesting update of Timezone Rules
```

## updateconfig

### 説明

システム更新パラメータを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次の例では、`updateconfig` コマンドを使用して、アプライアンスが IronPort サーバからアップデート イメージをダウンロードし、ローカル サーバから使用可能な AsyncOS アップグレードのリストをダウンロードするように設定します。

**表 3-69**            **updateconfig**

```
mail3.example.com> updateconfig
```

```
Service (images):
```

```
Update URL:
```

**表 3-69**            **updateconfig**

```
-----  
----  
  
Sophos Anti-Virus definitions            http://downloads.ironport.com/av  
IronPort Anti-Spam rules                http://downloads.ironport.com/as  
Intelligent Multi-Scan rules            http://downloads.ironport.com/as  
Virus Outbreak Filters rules            http://downloads.ironport.com/as  
Feature Key updates                      http://downloads.ironport.com/asyncos  
McAfee Anti-Virus definitions            IronPort Servers  
PXE Engine Updates                        IronPort Servers  
IronPort AsyncOS upgrades                IronPort Servers  
IMS Secondary Service rules              IronPort Servers  
  
Service (list):                            Update URL:  
  
-----  
----  
  
McAfee Anti-Virus definitions            IronPort Servers  
PXE Engine Updates                        IronPort Servers  
IronPort AsyncOS upgrades                IronPort Servers  
  
Update intervals: 5m, 5m  
Proxy server: not enabled
```

**表 3-69**            **updateconfig**

HTTPS Proxy server: not enabled

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Edit update configuration.

[ ]> **setup**

For the following services, please select where the system will download updates from:

Service (images):

Update URL:

-----  
----

Sophos Anti-Virus definitions	<a href="http://downloads.ironport.com/av">http://downloads.ironport.com/av</a>
IronPort Anti-Spam rules	<a href="http://downloads.ironport.com/as">http://downloads.ironport.com/as</a>
Intelligent Multi-Scan rules	<a href="http://downloads.ironport.com/as">http://downloads.ironport.com/as</a>
Virus Outbreak Filters rules	<a href="http://downloads.ironport.com/as">http://downloads.ironport.com/as</a>
Feature Key updates	<a href="http://downloads.ironport.com/asyncos">http://downloads.ironport.com/asyncos</a>

1. Use IronPort update servers (<http://downloads.ironport.com>)
2. Use own server

[1]> **1**



**表 3-69**            **updateconfig**

1. Use IronPort update servers
2. Use own server

[1]> 1

For the following services, please select where the system will download the

list of available updates from:

Service (list):	Update URL:
-----------------	-------------

-----  
----

McAfee Anti-Virus definitions	IronPort Servers
PXE Engine Updates	IronPort Servers
IronPort AsyncOS upgrades	IronPort Servers

1. Use IronPort update servers
2. Use own update list

[1]> 2

Enter the full HTTP URL of the update list using the format

(<http://optionalname:password@local.server:port/directory/manifest.xml>).  
The

**表 3-69**            **updateconfig**

```
default HTTP port is 80; you do not need to specify the port unless you wish  
  
to use a non-standard port. The optional username/password will be presented  
  
using HTTP BASIC_AUTH. Leave the entry blank to use the default server.  
  
[ ]> enter the full path to the update list
```

## updatenow

### 説明

すべてのシステム サービス コンポーネントの更新を要求します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式

updatenow コマンドのバッチ形式を使用すると、変更が検出されない場合でも、アプライアンス上のすべてのコンポーネントを更新できます。

```
updatenow [force]
```

## 例

```
mail3.example.com> updatenow
```

```
Success - All component updates requested
```

## version

### 説明

システムのバージョン情報を表示します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-70**            **version**

```
mail3.example.com> version

Current Version
=====

Model: C60

Version: 4.5.0-316

Build Date: 2005-04-13

Install Date: 2005-04-14 13:32:20

Serial #: XXXXXXXXXXXX-XXXXXXX

BIOS: A15I

RAID: 2.7-1 3170

RAID Status: Okay

RAID Type: 10

mail3.example.com>
```

## upgrade

### 説明

**upgrade** CLI コマンドは、使用可能なアップグレードのリストを表示し、ユーザが指定したバージョンに AsyncOS システムをアップグレードします。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

**表 3-71**            **upgrade**

```
mail3.example.com> upgrade
```

```
Upgrades available:
```

1. AsyncOS (\*\*DON'T TOUCH!\*\*) 4.0.8 upgrade, 2005-05-09 Build 900
2. AsyncOS 4.0.8 upgrade, 2005-08-12 Build 030
- .....
45. SenderBase Network Participation Patch

```
[45]>
```

```
Performing an upgrade will require a reboot of the system after the  
upgrade is applied.
```

```
Do you wish to proceed with the upgrade? [Y]> Y
```

## LDAP

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [ldapconfig](#)
- [ldapflush](#)

- [ldaptest](#)
- [sievechar](#)

## ldapconfig

### 説明

LDAP サーバを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例：新しい LDAP サーバ プロファイルの作成

次の例では、`ldapconfig` コマンドを使用して、アプライアンスのバインド先となる LDAP サーバを定義し、受信者受け入れ (`ldapaccept` サブコマンド)、ルーティング (`ldaprouting` サブコマンド)、マスカレード (`masquerade` サブコマンド)、IronPort スпам隔離のエンドユーザ認証 (`isqauth` サブコマンド)、およびスパム通知のエイリアス統合 (`isqalias` サブコマンド) のクエリーを設定します。

まず、`myldapserver.example.com` LDAP サーバに「PublicLDAP」というニックネームを指定します。クエリーの送信先は、ポート 3268（デフォルト値）です。`example.com` の検索ベースが定義され (`dc=example,dc=com`)、受信者受け入れ、メール再ルーティング、およびマスカレードのクエリーが定義されます。この例のクエリーは、失効したインターネット ドラフト *draft-lachman-laser-ldap-mail-routing-xx.txt*（「Laser 仕様」とも呼ばれる）に定義された `inetLocalMailRecipient` 補助オブジェクト クラスを使用する OpenLDAP ディレクトリ設定に似ています（このドラフトに基づくバージョンが OpenLDAP ソース ディストリビューションに含まれています）。この例では、メール再ルーティング クエリーでクエリーの対象となる受信者に使用する代替

メールホストは mailForwardingAddress になっています。クエリー名では、大文字と小文字が区別されます。正しい結果が返されるようにするには、正確に一致している必要があります。

**表 3-72            ldapconfig - New Server Profile**

```
mail3.example.com> ldapconfig
```

```
No LDAP server configurations.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new server configuration.
```

```
- SETUP - Configure LDAP options.
```

```
[> new
```

```
Please create a name for this server configuration (Ex: "PublicLDAP"):
```

```
[> PublicLDAP
```

```
Please enter the hostname:
```

```
[> myldapservers.example.com
```

```
Use SSL to connect to the LDAP server? [N]> n
```

```
Select the authentication method to use for this server configuration:
```

```
1. Anonymous
```

**表 3-72 Idapconfig - New Server Profile (続き)**

2. Password based

[1]> **2**

Please enter the bind username:

[cn=Anonymous]>

Please enter the bind password:

[ ]>

Connect to LDAP server to validate setting? [Y]

Connecting to the LDAP server, please wait...

Select the server type to use for this server configuration:

1. Active Directory

**2. OpenLDAP**

3. Unknown or Other

[3]> **1**

Please enter the port number:

[3268]> **3268**

### 表 3-72 Idapconfig - New Server Profile (続き)

Please enter the base:

```
[dc=example,dc=com]> dc=example,dc=com
```

Name: PublicLDAP

Hostname: myldapservers.example.com Port 3268

Server Type: Active Directory

Authentication Type: password

Base: dc=example,dc=com

Choose the operation you want to perform:

- SERVER - Change the server for the query.
- TEST - Test the server configuration.
- LDAPACCEPT - Configure whether a recipient address should be accepted or bounced/dropped.
- LDAPROUTING - Configure message routing.
- MASQUERADE - Configure domain masquerading.
- LDAPGROUP - Configure whether a sender or recipient is in a specified group.
- SMTPAUTH - Configure SMTP authentication.
- EXTERNALAUTH - Configure external authentication queries.
- ISQAUTH - Configure Spam Quarantine End-User Authentication Query.
- ISQALIAS - Configure Spam Quarantine Alias Consolidation Query.

**表 3-72          ldapconfig - New Server Profile (続き)**

```
[ ]> ldapaccept
```

Please create a name for this query:

```
[PublicLDAP.ldapaccept]> PublicLDAP.ldapaccept
```

Enter the LDAP query string:

```
[(proxyAddresses=smtp:{a})]> (proxyAddresses=smtp:{a})
```

Do you want to test this query? [Y]> **n**

Name: PublicLDAP

Hostname: myldapserver.example.com Port 3268

Server Type: Active Directory

Authentication Type: password

Base: dc=example,dc=com

LDAPACCEPT: PublicLDAP.ldapaccept

Choose the operation you want to perform:

- SERVER - Change the server for the query.
- LDAPACCEPT - Configure whether a recipient address should be accepted or bounced/dropped.
- LDAPROUTING - Configure message routing.

**表 3-72            ldapconfig - New Server Profile (続き)**

- MASQUERADE - Configure domain masquerading.
- LDAPGROUP - Configure whether a sender or recipient is in a specified group.
- SMTPAUTH - Configure SMTP authentication.
- EXTERNALAUTH - Configure external authentication queries.
- ISQAUTH - Configure Spam Quarantine End-User Authentication Query.
- ISQALIAS - Configure Spam Quarantine Alias Consolidation Query.

```
[ ]> ldaprouting
```

Please create a name for this query:

```
[PublicLDAP.routing]> PublicLDAP.routing
```

Enter the LDAP query string:

```
[(mailLocalAddress={a})]> (mailLocalAddress={a})
```

Do you want to rewrite the Envelope Header? [N]> **y**

Enter the attribute which contains the full rfc822 email address for the recipients.

```
[ ]> mailRoutingAddress
```

Do you want to send the messages to an alternate mail host? [N]> **y**

### 表 3-72 Idapconfig - New Server Profile (続き)

Enter the attribute which contains the alternate mailhost for the recipients.

```
[ ]> mailForwardingAddress
```

Do you want to test this query? [Y]> n

Name: PublicLDAP

Hostname: myldapserver.example.com Port 3268

Server Type: Active Directory

Authentication Type: password

Base: dc=example,dc=com

LDAPACCEPT: PublicLDAP.ldapaccept

LDAPROUTING: PublicLDAP.routing

Choose the operation you want to perform:

- SERVER - Change the server for the query.
- LDAPACCEPT - Configure whether a recipient address should be accepted or bounced/dropped.
- LDAPROUTING - Configure message routing.
- MASQUERADE - Configure domain masquerading.
- LDAPGROUP - Configure whether a sender or recipient is in a specified group.

### 表 3-72 Idapconfig - New Server Profile (続き)

- SMTPAUTH - Configure SMTP authentication.
- EXTERNALAUTH - Configure external authentication queries.
- ISQAUTH - Configure Spam Quarantine End-User Authentication Query.
- ISQALIAS - Configure Spam Quarantine Alias Consolidation Query.

```
[> masquerade
```

Please create a name for this query:

```
[PublicLDAP.masquerade]> PublicLDAP.masquerade
```

Enter the LDAP query string:

```
[(mailRoutingAddress={a})]> (mailRoutingAddress={a})
```

Enter the attribute which contains the externally visible full rfc822 email address.

```
[> mailLocalAddress
```

Do you want the results of the returned attribute to replace the entire friendly portion of the original recipient? [N]> **n**

Do you want to test this query? [Y]> **n**

Name: PublicLDAP

### 表 3-72 Idapconfig - New Server Profile (続き)

Hostname: myldapserver.example.com Port 3268

Server Type: Active Directory

Authentication Type: password

Base: dc=example,dc=com

LDAPACCEPT: PublicLDAP.ldapaccept

LDAPROUTING: PublicLDAP.routing

MASQUERADE: PublicLDAP.masquerade

Choose the operation you want to perform:

- SERVER - Change the server for the query.
- LDAPACCEPT - Configure whether a recipient address should be accepted or bounced/dropped.
- LDAPROUTING - Configure message routing.
- MASQUERADE - Configure domain masquerading.
- LDAPGROUP - Configure whether a sender or recipient is in a specified group.
- SMTPAUTH - Configure SMTP authentication.
- EXTERNALAUTH - Configure external authentication queries.
- ISQAUTH - Configure Spam Quarantine End-User Authentication Query.
- ISQALIAS - Configure Spam Quarantine Alias Consolidation Query.

[ ]> **isqauth**

**表 3-72          Idapconfig - New Server Profile (続き)**

Please create a name for this query:

```
[PublicLDAP.isqauth]> PublicLDAP.isqauth
```

Enter the LDAP query string:

```
[(sAMAccountName={u})]> (sAMAccountName={u})
```

Enter the list of email attributes.

```
[]> mail,proxyAddresses
```

Do you want to activate this query? [Y]> **y**

Do you want to test this query? [Y]> **y**

User identity to use in query:

```
[]> admin@example.com
```

Password to use in query:

```
[]> password
```

LDAP query test results:

```
LDAP Server: myldapservers.example.com
```

### 表 3-72 Idapconfig - New Server Profile (続き)

Query: PublicLDAP.isqauth

User: admin@example.com

Action: match positive

LDAP query test finished.

Name: PublicLDAP

Hostname: myldapserver.example.com Port 3268

Server Type: Active Directory

Authentication Type: password

Base: dc=example,dc=com

LDAPACCEPT: PublicLDAP.ldapaccept

LDAPROUTING: PublicLDAP.routing

MASQUERADE: PublicLDAP.masquerade

ISQAUTH: PublicLDAP.isqauth [active]

Choose the operation you want to perform:

- SERVER - Change the server for the query.
- LDAPACCEPT - Configure whether a recipient address should be accepted or bounced/dropped.
- LDAPROUTING - Configure message routing.

### 表 3-72 Idapconfig - New Server Profile (続き)

- MASQUERADE - Configure domain masquerading.
- LDAPGROUP - Configure whether a sender or recipient is in a specified group.
- SMTPAUTH - Configure SMTP authentication.
- EXTERNALAUTH - Configure external authentication queries.
- ISQAUTH - Configure Spam Quarantine End-User Authentication Query.
- ISQALIAS - Configure Spam Quarantine Alias Consolidation Query.

[ ]>

Current LDAP server configurations:

1. PublicLDAP: (myldapserver.example.com:3268)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new server configuration.
- SETUP - Configure LDAP options.
- EDIT - Modify a server configuration.
- DELETE - Remove a server configuration.

[ ]>

## 例：グローバル設定の指定

この例では、TLS 接続の証明書を含む LDAP グローバル設定を指定します。

**表 3-73          ldapconfig : グローバル設定の指定**

```
mail3.example.com> ldapconfig
```

```
No LDAP server configurations.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new server configuration.
- SETUP - Configure LDAP options.

```
[ ]> setup
```

```
Choose the IP interface for LDAP traffic.
```

1. Auto
2. Management (10.92.145.175/24: esx16-esa01.qa)

```
[1]> 1
```

```
LDAP will determine the interface automatically.
```

```
Should group queries that fail to complete be silently treated as having  
negative results? [Y]>
```

### 表 3-73      ldapconfig : グローバル設定の指定

The "Demo" certificate is currently configured. You may use "Demo", but this will not be secure.

```
1. partner.com
```

```
2. Demo
```

Please choose the certificate to apply:

```
[1]> 1
```

No LDAP server configurations.

Choose the operation you want to perform:

```
- NEW - Create a new server configuration.
```

```
- SETUP - Configure LDAP options.
```

```
[ ]>
```

## Idapflush

### 説明

キャッシュされている LDAP の結果をフラッシュします。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-74**            **ldapflush**

```
mail3.example.com> ldapflush
```

```
Are you sure you want to flush any cached LDAP results? [N]> y
```

```
Flushing cache
```

```
mail3.example.com>
```

## ldaptest

### 説明

1 つの LDAP クエリー テストを実行します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

この例では、`ldaptest` コマンドを使用して、設定済みの LDAP サーバ設定の受信者受け入れクエリーだけをテストします。受信者アドレス「`admin@example.com`」はこのテストに合格しますが、受信者アドレス「`bogus@example.com`」は不合格になります。

**表 3-75**            **ldaptest**

```
mail3.example.com> ldaptest
```

```
Select which LDAP query to test:
```

```
1. PublicLDAP.ldapaccep
```

```
[1]> 1
```

```
Address to use in query:
```

```
[> admin@example.com
```

```
LDAP query test results:
```

```
Query: PublicLDAP.ldapaccept
```

```
Argument: admin@example.com
```

```
Action: pass
```

```
LDAP query test finished.
```

```
mail3.example.com> ldaptest
```

**表 3-75**            **ldaptest (続き)**

Select which LDAP query to test:

1. PublicLDAP.ldapaccept

[1]> 1

Address to use in query:

[ ]> bogus@example.com

LDAP query test results:

Query: PublicLDAP.ldapaccept

Argument: bogus@example.com

Action: drop or bounce (depending on listener settings)

Reason: no matching LDAP record was found

LDAP query test finished.

mail3.example.com>

## sievechar

### 説明

RFC 3598 に規定されている Sieve 電子メール フィルタリングに使用する文字を設定またはディセーブルにします。Sieve 文字は LDAP 承認クエリーと LDAP 再ルーティング クエリーでのみ認識されることに注意してください。システムの他の部分は、完全な電子メール アドレスを操作対象とします。

使用できる文字は、`-_=/^#` です。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

この例では、`sievechar` コマンドを使用して、+ を承認クエリーおよび LDAP 再ルーティングクエリーで認識される Sieve 文字として定義します。

```
mail3.example.com> sievechar
```

```
Sieve Email Filtering is currently disabled.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Set the separator character.
```

```
[> setup
```

```
Enter the Sieve Filter Character, or a space to disable Sieve Filtering.
```

```
[> +
```

```
Sieve Email Filter is enabled, using the '+' character as separator.
```

```
This applies only to LDAP Accept and LDAP Reroute Queries.
```

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Set the separator character.

[ ]>

## メール配信の設定 / モニタリング

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [addresslistconfig](#)
- [aliasconfig](#)
- [archivemessage](#)
- [altsrchoost](#)
- [bounceconfig](#)
- [bouncerecipients](#)
- [bvconfig](#)
- [deleterecipients](#)
- [deliveryconfig](#)
- [delivernow](#)
- [destconfig](#)
- [hostrate](#)
- [hoststatus](#)
- [oldmessage](#)
- [rate](#)
- [redirectrecipients](#)
- [resetcounters](#)
- [removemessage](#)
- [showmessage](#)
- [showrecipients](#)

- [status](#)
- [tophosts](#)
- [topin](#)
- [unsubscribe](#)
- [workqueue](#)

## addresslistconfig

### 説明

アドレス リストを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式

addresslistconfig コマンドのバッチ形式を使用して、新しいアドレス リストの作成、既存のアドレス リストの編集、アドレス リストの一覧出力、アドレス リストの削除、アドレス リストの中で競合しているアドレスの検出が可能です。

- 新しいアドレス リストの追加：

```
addresslistconfig new <name> --descr=<description>  
--addresses=<address1,address2,...>
```

- 既存のアドレス リストの編集：

```
addresslistconfig edit <name> --name=<new-name> --descr=<description>  
--addresses=<address1,address2,...>
```

- アドレス リストの削除 :

```
addresslistconfig delete <name>
```

- アドレス リストの一覧出力 :

```
addresslistconfig print <name>
```

- アドレス リストの中で競合しているアドレスの検出 :

```
addresslistconfig conflicts <name>
```

## 例

```
mail3.example.com> addresslistconfig
```

```
No address lists configured.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new address list.
```

```
[ ]> new
```

```
Enter a name for the address list:
```

```
> testlist
```

```
Enter a description for the address list:
```

```
> A list for testing email addresses
```

```
Enter a comma separated list of addresses:
```

```
(e.g.: user@example.com, user@, @example.com, @.example.com,  
@[1.2.3.4])
```

```
> @sales.example.com, bob@example.com, joe@example.com
```

```
Address list "testlist" added.
```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new address list.
- EDIT - Modify an address list.
- DELETE - Remove an address list.
- PRINT - Display the contents of an address list.
- CONFLICTS - Find conflicting entries within an address list.

[ ]>

## aliasconfig

### 説明

電子メールエイリアスを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式

aliasconfig のバッチ形式を使用すると、新しいエイリアス テーブルの追加、既存のエイリアス テーブルの編集、電子メールエイリアスのリストの出力、エイリアス テーブルのインポート/エクスポートを実行できます。バッチ コマンドとして実行するには、aliasconfig コマンドを次の形式で入力し、以下の変数を指定します。

- 新しい電子メールエイリアスの追加

```
aliasconfig new <domain> <alias> [email_address1] [email_address2] ...
```



**(注)**

---

存在しないドメインに対して「aliasconfig new」コマンドを実行すると、そのドメインが作成されます。

---

- 既存の電子メールエイリアスの編集

```
aliasconfig edit <domain> <alias> <email_address1> [email_address2] ...
```

- 電子メールエイリアスの表示

```
aliasconfig print
```

- ローカルエイリアスリストのインポート

```
aliasconfig import <filename>
```

- IronPort アプライアンスのエイリアスリストのエクスポート

```
aliasconfig export <filename>
```

## 例

**表 3-76 aliasconfig**

```
mail3.example.com> aliasconfig
```

```
No aliases in table.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new entry.
- IMPORT - Import aliases from a file.

```
[> new
```

```
How do you want your aliases to apply?
```

1. Globally
2. Add a new domain context

```
[1]> 2
```

```
Enter new domain context.
```

```
Separate multiple domains with commas.
```

```
Partial domains such as .example.com are allowed.
```

```
[> example.com
```

### 表 3-76 aliasconfig (続き)

Enter the alias(es) to match on.

Separate multiple aliases with commas.

Allowed aliases:

- "user" - This user in this domain context.
- "user@domain" - This email address.

```
[ ]> customercare
```

Enter address(es) for "customercare".

Separate multiple addresses with commas.

```
[ ]> bob@example.com, frank@example.com, sally@example.com
```

Adding alias customercare:

```
bob@example.com,frank@example.com,sally@example.com
```

Do you want to add another alias? [N]> **n**

There are currently 1 mappings defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.

**表 3-76 aliasconfig (続き)**

- DELETE - Remove an entry.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import aliases from a file.
- EXPORT - Export table to a file.
- CLEAR - Clear the table.

```
[> new
```

How do you want your aliases to apply?

1. Globally
2. Add a new domain context
3. example.com

```
[1]> 1
```

Enter the alias(es) to match on.

Separate multiple aliases with commas.

Allowed aliases:

- "user@domain" - This email address.
- "user" - This user for any domain
- "@domain" - All users in this domain.

**表 3-76 aliasconfig (続き)**

- "@.partialdomain" - All users in this domain, or any of its sub domains.

```
[> admin
```

Enter address(es) for "admin".

Separate multiple addresses with commas.

```
[> administrator@example.com
```

Adding alias admin: administrator@example.com

Do you want to add another alias? [N]> n

There are currently 2 mappings defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import aliases from a file.
- EXPORT - Export table to a file.

**表 3-76 aliasconfig (続き)**

- CLEAR - Clear the table.

```
[> print
```

```
admin: administrator@example.com
```

```
[ example.com ]
```

```
customercare: bob@example.com, frank@example.com, sally@example.com
```

```
There are currently 2 mappings defined.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new entry.

- EDIT - Modify an entry.

- DELETE - Remove an entry.

- PRINT - Display the table.

- IMPORT - Import aliases from a file.

- EXPORT - Export table to a file.

- CLEAR - Clear the table.

```
[>
```

表 3-77 エイリアス設定用の引数

引数	説明
<domain>	エイリアスを適用するドメイン コンテキスト。「Global」はグローバル ドメイン コンテキストを指定します。
<alias>	<p>設定するエイリアスの名前。</p> <p>グローバル ドメイン コンテキストで使用できるエイリアスは次のとおりです。</p> <p>user@domain : この電子メール アドレス。</p> <p>user : 任意のドメインのユーザ。</p> <p>@domain : このドメインのすべてのユーザ。</p> <p>@.partialdomain : このドメインまたはそのいずれかのサブドメインのすべてのユーザ。</p> <p>特定のドメイン コンテキストで使用できるエイリアスは次のとおりです。</p> <p>user : このドメイン コンテキストのユーザ。</p> <p>user@domain : この電子メール アドレス。</p>
<email_address>	エイリアスをマッピングする電子メール アドレス。1つのエイリアスを複数の電子メール アドレスにマッピングできます。
<filename>	エイリアス テーブルのインポート/エクスポートに使用するファイル名。

## archivemessage

### 説明

キュー内の古いメッセージをアーカイブします。

### 使用方法

**確定** : このコマンドに commit は必要ありません。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。  
**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次の例では、古いメッセージをアーカイブします。

**表 3-78**            **archivemessage**

```
mail3.example.com> archivemessage
```

```
Enter the MID to archive.
```

```
[0]> 47
```

```
MID 47 has been saved in file oldmessage_47.mbox in the configuration
```

## altsrchoost

### 説明

Virtual Gateway™ のマッピングを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次の例では、altsrchost テーブルが出力されて、既存のマッピングがないことが示されます。その後、2つのエントリが作成されます。

- グループウェア サーバ ホスト @exchange.example.com からのメールは、PublicNet インターフェイスにマッピングされます。
- 送信者 IP アドレス 192.168.35.35 (たとえば、マーケティング キャンペーン メッセージング システム) からのメールは、AnotherPublicNet インターフェイスにマッピングされます。

最後に、確認のために altsrchost マッピングが出力されて、変更が確定されます。

**表 3-79**            **altsrchost**

```
mail3.example.com> altsrchost
```

```
There are currently no mappings configured.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new mapping.
- IMPORT - Load new mappings from a file.

```
[> new
```

```
Enter the Envelope From address or client IP address for which you want to set up a Virtual Gateway mapping. Partial addresses such as "@example.com" or "user@" are allowed.
```

```
[> @exchange.example.com
```

### 表 3-79 altsrghost (続き)

Which interface do you want to send messages for @exchange.example.com from?

1. AnotherPublicNet (192.168.2.2/24: mail4.example.com)
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail4.example.com)

[1]> **4**

Mapping for @exchange.example.com on interface PublicNet created.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new mapping.
- EDIT - Modify a mapping.
- DELETE - Remove a mapping.
- IMPORT - Load new mappings from a file.
- EXPORT - Export all mappings to a file.
- PRINT - Display all mappings.
- CLEAR - Remove all mappings.

[> **new**

Enter the Envelope From address or client IP address for which you want to set up a Virtual Gateway mapping. Partial addresses such as "@example.com" or "user@" are allowed.

**表 3-79            altsrghost (続き)**

```
[> 192.168.35.35
```

Which interface do you want to send messages for 192.168.35.35 from?

1. AnotherPublicNet (192.168.2.2/24: mail4.example.com)
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail4.example.com)

```
[1]> 1
```

Mapping for 192.168.35.35 on interface AnotherPublicNet created.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new mapping.
- EDIT - Modify a mapping.
- DELETE - Remove a mapping.
- IMPORT - Load new mappings from a file.
- EXPORT - Export all mappings to a file.
- PRINT - Display all mappings.
- CLEAR - Remove all mappings.

```
[> print
```

**表 3-79**            **altsrchoost (続き)**

1. 192.168.35.35 -> AnotherPublicNet
2. @exchange.example.com -> PublicNet

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new mapping.
- EDIT - Modify a mapping.
- DELETE - Remove a mapping.
- IMPORT - Load new mappings from a file.
- EXPORT - Export all mappings to a file.
- PRINT - Display all mappings.
- CLEAR - Remove all mappings.

[ ]>

mail3.example.com> **commit**

Please enter some comments describing your changes:

[ ]> **Added 2 altsrchoost mappings**

Changes committed: Thu Mar 27 14:57:56 2003

## bounceconfig

### 説明

バウンスの動作を設定します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次の例では、`bounceconfig` コマンドを使用して、`bounceprofile` という名前のバウンス プロファイルを作成します。このプロファイルでは、ハード バウンドされたすべてのメッセージが代替アドレスである `bounce-mailbox@example.com` に送信されます。遅延警告メッセージはイネーブルです。受信者あたり警告メッセージが 1 つ送信されます。警告メッセージ間のデフォルト値は 4 時間（14400 秒）です。

### 表 3-80 `bounceconfig` : バウンス プロファイルの作成

```
mail3.example.com> bounceconfig

Current bounce profiles:

1. Default

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.

[ ]> new

Please create a name for the profile:

[ ]> bounceprofile
```

**表 3-80 bounceconfig : バウンス プロファイルの作成**

Please enter the maximum number of retries.

[100]> **100**

Please enter the maximum number of seconds a message may stay in the queue before being hard bounced.

[259200]> **259200**

Please enter the initial number of seconds to wait before retrying a message.

[60]> **60**

Please enter the maximum number of seconds to wait before retrying a message.

[3600]> **3600**

Do you want a message sent for each hard bounce? (Yes/No/Default) [Y]> **y**

Do you want bounce messages to use the DSN message format?  
(Yes/No/Default) [Y]> **y**

If a message is undeliverable after some interval, do you want to send a delay warning message? (Yes/No/Default) [N]> **y**

**表 3-80 bounceconfig : バウンス プロファイルの作成**

Please enter the minimum interval in seconds between delay warning messages.

[14400]> **14400**

Please enter the maximum number of delay warning messages to send per recipient.

[1]> **1**

Do you want hard bounce and delay warning messages sent to an alternate address, instead of the sender? [N]> **y**

Please enter the email address to send hard bounce and delay warning.

[ ]> **bounce-mailbox@example.com**

Current bounce profiles:

1. Default
2. bounceprofile

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.

### 表 3-80 bounceconfig : バウンス プロファイルの作成

```
- DELETE - Remove a profile.
```

```
[ ]>
```

```
mail3.example.com>
```

## デフォルトのバウンス プロファイルの編集

デフォルトのバウンス プロファイルを編集することもできます。この例では、デフォルト プロファイルを編集して、到達不可能なホストへの再試行を待機する最大秒数を 3600 (1 時間) から 10800 (3 時間) に増やします。

### 表 3-81 bounceconfig : バウンス プロファイルの編集

```
mail3.example.com> bounceconfig
```

```
Current bounce profiles:
```

1. Default
2. bounceprofile

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.
- DELETE - Remove a profile.

```
[ ]> edit
```

```
Please enter the number of the profile to edit:
```

**表 3-81 bounceconfig : バウンス プロファイルの編集**

```
[ ]> 2
```

Please enter the maximum number of retries.

```
[100]>
```

Please enter the maximum number of seconds a message may stay in the queue before being hard bounced.

```
[259200]>
```

Please enter the initial number of seconds to wait before retrying a message.

```
[60]>
```

Please enter the maximum number of seconds to wait before retrying a message.

```
[3600]> 10800
```

Do you want a message sent for each hard bounce? (Yes/No/Default) [Y]>

Do you want bounce messages to use the DSN message format?  
(Yes/No/Default) [N]>

If a message is undeliverable after some interval, do you want to send a delay warning message? (Yes/No/Default) [N]>

**表 3-81 bounceconfig : バウンス プロファイルの編集**

```
Do you want hard bounce messages sent to an alternate address, instead of
the sender? [Y]>
```

```
Please enter the email address to send hard bounce.
```

```
[bounce-mailbox@example.com]>
```

```
Current bounce profiles:
```

1. Default
2. bounceprofile

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.
- DELETE - Remove a profile.

## リスナーへのバウンス プロファイルの適用

バウンス プロファイルを設定したら、`listenerconfig -> bounceconfig` コマンドを使用し、変更を確定することにより、そのプロファイルを各リスナーに適用できます。



**(注)**

バウンス プロファイルは、メッセージを受信したリスナーに基づいて適用できます。ただし、そのリスナーはメッセージが最終的にどのように配信されるかには関係しません。

この例では、OutboundMail プライベートリスナーを編集し、このリスナーに **bouncepr1** というバウンス プロファイルを適用します。

**表 3-82 listenerconfig および bounceconfig : リスナーへのバウンス プロファイルの適用**

```
mail3.example.com> listenerconfig
```

```
Currently configured listeners:
```

1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP Port 25 Public
2. OutboundMail (on PrivateNet, 192.168.1.1) SMTP Port 25 Private

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.

```
[> edit
```

```
Enter the name or number of the listener you wish to edit.
```

```
[> 2
```

```
Name: OutboundMail
```

```
Type: Private
```

```
Interface: PrivateNet (192.168.1.1/24) TCP Port 25
```

**表 3-82 listenerconfig および bounceconfig : リスナーへのバウンス プロファイルの適用 (続き)**

```
Protocol: SMTP

Default Domain:

Max Concurrency: 600 (TCP Queue: 50)

Domain Map: Disabled

TLS: No

SMTP Authentication: Disabled

Bounce Profile: Default

Footer: None

LDAP: Off

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change the name of the listener.

- INTERFACE - Change the interface.

- LIMITS - Change the injection limits.

- SETUP - Configure general options.

- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.

- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected
on this listener.

- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.

- DOMAINMAP - Configure domain mappings.

[ ]> bounceconfig
```

**表 3-82**            **listenerconfig および bounceconfig : リスナーへのバウンス プロファイルの適用 (続き)**

Please choose a bounce profile to apply:

1. Default
2. bouncepr1
3. New Profile

[1]> 2

Name: OutboundMail

Type: Private

Interface: PrivateNet (192.168.1.1/24) TCP Port 25

Protocol: SMTP

Default Domain:

Max Concurrency: 600 (TCP Queue: 50)

Domain Map: Disabled

TLS: No

SMTP Authentication: Disabled

Bounce Profile: bouncepr1

Footer: None

LDAP: Off

**表 3-82 listenerconfig および bounceconfig : リスナーへのバウンス プロファイルの適用 (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
- DOMAINMAP - Configure domain mappings.

[ ]>

Currently configured listeners:

1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP Port 25 Public
2. OutboundMail (on PrivateNet, 192.168.1.1) SMTP Port 25 Private

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.

**表 3-82**            **listenerconfig および bounceconfig : リスナーへのバウンス プロファイルの適用 (続き)**

```
[ ]>

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:

[ ]> Enabled the bouncepr1 profile to the Outbound mail listener

Changes committed: Thu Mar 27 14:57:56 2003
```

## bouncerecipients

### 説明

キューからメッセージをバウンスします。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

バウンスされる受信者は、宛先受信者ホストによって、またはメッセージエンベロープの **Envelope From** 行に指定された特定のアドレスで識別されるメッセージ送信者によって識別されます。または、配信キュー内のすべてのメッセージを一度にバウンスすることもできます。

## 受信者ホストによるバウンス

表 3-83 `bouncerecipients` : ホストによる受信者のバウンス

```
mail3.example.com> bouncerecipients
```

```
Please select how you would like to bounce messages:
```

1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.

```
[1]> 1
```

```
Please enter the hostname for the messages you wish to bounce.
```

```
[ ]> example.com
```

```
Are you sure you want to bounce all messages being delivered to  
"example.com"? [N]> Y
```

```
Bouncing messages, please wait.
```

```
100 messages bounced.
```

## Envelope From アドレスによるバウンス

表 3-84 `bouncerecipients` : アドレスによる受信者のバウンス

```
mail3.example.com> bouncerecipients
```

**表 3-84**            **boundcerecipients : アドレスによる受信者のバウンス (続き)**

Please select how you would like to bounce messages:

1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.

[1]> 2

Please enter the Envelope From address for the messages you wish to bounce.

[>] **mailadmin@example.com**

Are you sure you want to bounce all messages with the Envelope From address of "mailadmin@example.com"? [N]> **Y**

Bouncing messages, please wait.

100 messages bounced.

## すべてバウンス

表 3-85 **bouncerecipients** : すべての受信者のバウンス

```
mail3.example.com> bouncerecipients
```

```
Please select how you would like to bounce messages:
```

1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.

```
[1]>
```

```
Are you sure you want to bounce all messages in the queue? [N]> Y
```

```
Bouncing messages, please wait.
```

```
1000 messages bounced.
```

## bvconfig

### 説明

バウンス検証の設定を行います。このコマンドは、キーおよびバウンスされた無効な電子メールを設定するために使用します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次に、キー設定とバウンスされた無効な電子メールの設定の例を示します。

**表 3-86**            **bvconfig**

```
mail3.example.com> bvconfig
```

```
Behavior on invalid bounces: reject
```

```
Key for tagging outgoing mail: key
```

```
Previously-used keys for verifying incoming mail:
```

1. key (current outgoing key)
2. goodneighbor (last in use Wed May 31 23:21:01 2006 GMT)

```
Choose the operation you want to perform:
```

- KEY - Assign a new key for tagging outgoing mail.
- PURGE - Purge keys no longer needed for verifying incoming mail.
- CLEAR - Clear all keys including current key.
- SETUP - Set how invalid bounces will be handled.

**表 3-86**            **bvconfig (続き)**

```
[> key
```

```
Enter the key to tag outgoing mail with (when tagging is enabled in the  
Good
```

```
Neighbor Table)
```

```
[> basic_key
```

```
Behavior on invalid bounces: reject
```

```
Key for tagging outgoing mail: basic_key
```

```
Previously-used keys for verifying incoming mail:
```

1. basic\_key (current outgoing key)
2. key (last in use Wed May 31 23:22:49 2006 GMT)
3. goodneighbor (last in use Wed May 31 23:21:01 2006 GMT)

```
Choose the operation you want to perform:
```

- KEY - Assign a new key for tagging outgoing mail.
- PURGE - Purge keys no longer needed for verifying incoming mail.
- CLEAR - Clear all keys including current key.

**表 3-86           bvconfig (続き)**

- SETUP - Set how invalid bounces will be handled.

```
[> setup
```

```
How do you want bounce messages which are not addressed to a valid tagged  
recipient to be handled?
```

1. Reject.
2. Add a custom header and deliver.

```
[1]> 1
```

```
Behavior on invalid bounces: reject
```

```
Key for tagging outgoing mail: basic_key
```

```
Previously-used keys for verifying incoming mail:
```

1. basic\_key (current outgoing key)
2. key (last in use Wed May 31 23:22:49 2006 GMT)
3. goodneighbor (last in use Wed May 31 23:21:01 2006 GMT)

```
Choose the operation you want to perform:
```

- KEY - Assign a new key for tagging outgoing mail.

### 表 3-86            **bvconfig (続き)**

```
- PURGE - Purge keys no longer needed for verifying incoming mail.  
- CLEAR - Clear all keys including current key.  
- SETUP - Set how invalid bounces will be handled.  
  
[]>
```

```
mail3.example.com> commit
```

```
Please enter some comments describing your changes:
```

```
[]> Configuring a new key and setting reject for invalid email bounces
```

```
Changes committed: Wed May 31 23:24:09 2006 GMT
```

## **deleterecipients**

### **説明**

キューからメッセージを削除します。

### **使用方法**

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

IronPort アプライアンスには、必要に応じて受信者を削除するための各種のオプションが用意されています。次に、受信者ホスト別の受信者の削除、Envelope From アドレスによる削除、およびキュー内のすべての受信者の削除の例を示します。

## 受信者ドメインによる削除

表 3-87 `deleterecipients` : 受信者ドメインによるメッセージの削除

```
mail3.example.com> deleterecipients

Please select how you would like to delete messages:

1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.

[1]> 1

Please enter the hostname for the messages you wish to delete.

[]> example.com

Are you sure you want to delete all messages being delivered to
"example.com"? [N]> Y

Deleting messages, please wait.

100 messages deleted.
```

## Envelope From アドレスによる削除

表 3-88 `deleterecipients` : Envelope From アドレスによるメッセージの削除

```
mail3.example.com> deleterecipients

Please select how you would like to delete messages:
```

**表 3-88**            **deleterecipients : Envelope From アドレスによるメッセージの削除**

1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.

```
[1]> 2
```

```
Please enter the Envelope From address for the messages you wish to delete.
```

```
[> mailadmin@example.com
```

```
Are you sure you want to delete all messages with the Envelope From address of "mailadmin@example.com"? [N]> Y
```

```
Deleting messages, please wait.
```

```
100 messages deleted.
```

## すべて削除

**表 3-89**            **deleterecipients** : キュー内のすべてのメッセージの削除

```
mail3.example.com> deleterecipients

Please select how you would like to delete messages:

1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.

[1]> 1

Are you sure you want to delete all messages in the queue? [N]> Y

Deleting messages, please wait.

1000 messages deleted.
```

## deliveryconfig

### 説明

メール配信を設定します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次の例では、`deliveryconfig` コマンドを使用し、「Possible Delivery」をイネーブルにして、デフォルトのインターフェイスを「Auto」に設定します。システム全体の最大発信メッセージ配信は、9000 接続です。

**表 3-90**            **deliveryconfig**

```
mail3.example.com> deliveryconfig

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Configure mail delivery.

[ ]> setup

Choose the default interface to deliver mail.

1. Auto
2. AnotherPublicNet (192.168.3.1/24: mail4.example.com)
3. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
4. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
5. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)

[1]> 1

Enable "Possible Delivery" (recommended)? [Y]> y

Please enter the default system wide maximum outbound message delivery
concurrency
```

**表 3-90**            **deliveryconfig** (続き)

```
[10000]> 9000  
  
mail3.example.com>
```

## delivernow

### 説明

メッセージのスケジュールを即時配信用に再設定します。ユーザは、1つの受信者ホストと、配信用に現在スケジュールされているすべてのメッセージのいずれかを選択できます。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

**表 3-91**            **delivernow**

```
mail3.example.com> delivernow  
  
Please choose an option for scheduling immediate delivery.  
  
1. By recipient host  
  
2. All messages  
  
[1]> 1  
  
Please enter the domain to schedule for immediate delivery.
```

**表 3-91 delivernow (続き)**

```
[ ]>foo.com
```

```
Rescheduling all messages to foo.com for immediate delivery.
```

## destconfig

以前の `setgoodtable` コマンドです。テーブルは、現在、宛先制御テーブルと呼ばれています。このテーブルを使用して、指定したドメインの配信制限を設定します。

### destconfig コマンドの使用

`destconfig` サブメニューでは、次のコマンドを使用できます。

**表 3-92 destconfig サブコマンド**

構文	説明
SETUP	グローバル設定を変更します。
NEW	ドメインの新しい制限を追加します。
EDIT	ドメインの制限を変更します。
DELETE	ドメインの制限を削除します。
DEFAULT	指定されていないドメインのデフォルトの制限を変更します。
LIST	ドメインとその制限のリストを表示します。
DETAIL	1 つの宛先またはすべてのエントリの詳細を表示します。
CLEAR	テーブルからすべてのエントリを削除します。
IMPORT	.INI コンフィギュレーション ファイルから宛先制御エントリのテーブルをインポートします。
EXPORT	宛先制御エントリのテーブルを .INI コンフィギュレーション ファイルにエクスポートします。

destconfig コマンドには、宛先制御テーブルの各行を構成する以下の情報を指定する必要があります。

- ドメイン（受信者ホスト）
- ドメインへの最大同時接続数
- 接続ごとの最大メッセージ数
- 受信者制限
- システム全体または仮想ゲートウェイ スイッチ
- MX またはドメインごとの制限の適用
- 受信者制限の期間（分単位）
- バウンス検証
- ドメインで使用するバウンス プロファイル

## サンプル宛先制御テーブル

次の表に、宛先制御テーブルのエントリを示します。

**表 3-93** 宛先制御テーブルのエントリ例

Domain	Conn.Limit	Rcpt.Limit	Min.Prd.	Enforce MX/DOM
(デフォルト)	500	なし	1	Domain
表示されていないドメインの接続数は 500、1 時間あたりの受信者数は無制限				
(デフォルト)	500	なし	1	MXIP
表示されていないドメインのメール ゲートウェイの最大接続数は 500、1 時間あたりの受信者数は無制限				
partner.com	10	500	60	Domain
partner.com のすべてのゲートウェイが 10 個の接続を共有、1 分間の最大受信者数は 500				
101.202.101.2	500	なし	0	MXIP
IP アドレスの指定				

## バッチ形式

destconfig コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- 新しい宛先制御テーブルの作成

```
destconfig new <profile> [options]
```

- 既存の宛先制御テーブルの編集

```
destconfig edit <default|profile> [options]
```

- 既存の宛先制御テーブルの削除

```
destconfig delete <profile>
```

- 宛先制御エントリの一覧表示

```
destconfig list
```

- 1つの宛先またはすべてのエントリの詳細の表示

```
destconfig detail <default|profile|all>
```

- 既存の宛先制御テーブルからすべてのエントリを削除

```
destconfig clear
```

- ファイルからのテーブルのインポート

```
destconfig import <filename>
```

- テーブルのファイルへのエクスポート

```
destconfig export <filename>
```

edit および new バッチ コマンドでは、変数名と等号を使用して値を示すことにより、以下のオプションを任意の数だけ指定できます。指定しなかったオプションは、edit を使用した場合は変更されず、new を使用した場合はデフォルト値に設定されます。

concurrency\_limit=<int> - The maximum concurrency for a specific host.

concurrency\_limit\_type=<host|MXIP> - Maximum concurrency is per host or per MX IP.

concurrency\_limit\_apply=<system|VG> - Apply maximum concurrency is system wide or by Virtual Gateway(tm).

max\_messages\_per\_connection=<int> - The maximum number of messages that will be sent per connection.

recipient\_limit\_minutes=<int> - The time frame to check for recipient limits in minutes.

recipient\_limit=<int> - The number of recipients to limit per unit of time.

use\_tls=<off|on|require|on\_verify|require\_verify> - Whether TLS should be on, off, or required for a given host.

bounce\_profile=<default|profile> - The bounce profile name to use.

bounce\_verification=<off|on> - Bounce Verification option.

## 例 : 新しい destconfig エントリの作成

次の例では、現在の destconfig エントリを画面に出力します。さらに、ドメイン partner.com の新しいエントリを作成します。このドメインについては、最大同時接続数が 100、60 分あたりの受信者制限が 50 に設定されます。したがって、システムはドメイン partner.com に対し、1 時間に 100 を超える接続を確

立せず、50 を超える受信者にメッセージを配信しません。このドメインにバウンス プロファイルは割り当てられず、TLS 設定は設定されません。最後に、変更が確認のために出力され、確定されます。

**表 3-94 destconfig の例：宛先制御テーブルの設定**

```
mail3.example.com> destconfig
```

```
There are currently 2 entries configured.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- EXPORT - Export tables to a file.

```
[> list
```

```
1
```

```
Rate Bounce Bounce
```

**表 3-94 destconfig の例 : 宛先制御テーブルの設定 (続き)**

Domain	Limiting	TLS	Verification	Profile
=====	=====	=====	=====	=====
(Default)	On	Off	Off	(Default)

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- EXPORT - Export tables to a file.

[> **new**

Enter the domain you wish to configure.

[> **partner.com**

**表 3-94**            **destconfig の例 : 宛先制御テーブルの設定 (続き)**

```
Do you wish to configure a concurrency limit for partner.com? [Y]> y
```

```
Enter the max concurrency limit for "partner.com".
```

```
[500]> 100
```

```
Do you wish to apply a messages-per-connection limit to this domain? [N]> n
```

```
Do you wish to apply a recipient limit to this domain? [N]> y
```

```
Enter the number of minutes used to measure the recipient limit.
```

```
[60]> 60
```

```
Enter the max number of recipients per 60 minutes for "partner.com".
```

```
[>] 50
```

```
Select how you want to apply the limits for partner.com:
```

1. One limit applies to the entire domain for partner.com
2. Separate limit for each mail exchanger IP address

```
[1]> 1
```

**表 3-94 destconfig の例 : 宛先制御テーブルの設定 (続き)**

```
Select how the limits will be enforced:
```

1. System Wide
2. Per Virtual Gateway(tm)

```
[1]> 1
```

```
Do you wish to apply a specific TLS setting for this domain? [N]> n
```

```
Do you wish to apply a specific bounce verification address tagging  
setting for
```

```
this domain? [N]> n
```

```
Do you wish to apply a specific bounce profile to this domain? [N]> n
```

```
There are currently 3 entries configured.
```

```
mail3.example.com> commit
```

```
Please enter some comments describing your changes:
```

```
[ ]> Throttled delivery to partner.com in the destconfig table
```

**表 3-94 destconfig の例 : 宛先制御テーブルの設定 (続き)**

Changes committed: Wed May 31 21:30:47 2006 GMT

## 例 : バウンス プロファイルと TLS 設定

この例では、ドメイン `newpartner.com` に新しい `destconfig` エントリを設定します。TLS 接続が必要です。また、この例では、ドメイン `bouncepr1` (「デフォルトのバウンス プロファイルの編集」(P.218) を参照) というバウンス プロファイルをドメイン `newpartner.com` へのすべての電子メール配信に使用されるように設定します。

**表 3-95 destconfig の例 : バウンス プロファイルと TLS 設定の指定**

```
mail3.example.com> destconfig
```

```
There is currently 1 entry configured.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.

**表 3-95 destconfig の例 : バウンス プロファイルと TLS 設定の指定 (続き)**

- IMPORT - Import tables from a file.

- EXPORT - Export tables to a file.

[> **new**

Enter the domain you wish to configure.

[> **newpartner.com**

Do you wish to configure a concurrency limit for newpartner.com? [Y]> **n**

Do you wish to apply a messages-per-connection limit to this domain? [N]> **n**

Do you wish to apply a recipient limit to this domain? [N]> **n**

Do you wish to apply a specific TLS setting for this domain? [N]> **y**

Do you want to use TLS support?

1. No
2. Preferred
3. Required
4. Preferred(Verify)

**表 3-95 destconfig の例 : バウンス プロファイルと TLS 設定の指定 (続き)**

5. Required(Verify)

[1]> 3

You have chosen to enable TLS. Please use the 'certconfig' command to ensure that there is a valid certificate configured.

Do you wish to apply a specific bounce verification address tagging setting for this domain? [N]> **y**

Perform bounce verification address tagging? [N]> **y**

Do you wish to apply a specific bounce profile to this domain? [N]> **y**

Please choose a bounce profile to apply:

1. Default
2. New Profile

[1]> 1

There are currently 2 entries configured.

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Change global settings.

**表 3-95 destconfig の例 : バウンス プロファイルと TLS 設定の指定 (続き)**

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- EXPORT - Export tables to a file.

[> **detail**

Domain	Rate Limiting	TLS	Bounce Verification	Bounce Profile
newpartner.com	Default	Req	On	Default
(Default)	On	Off	Off	(Default)

Enter the domain name to view, or enter DEFAULT to view details for the default, or enter ALL to view details for all:

[> **all**

**表 3-95**            **destconfig の例 : バウンス プロファイルと TLS 設定の指定 (続き)**

```
newpartner.com

Maximum messages per connection: Default

Rate Limiting: Default

TLS: Required

Bounce Verification Tagging: On

Bounce Profile: Default

Default

Rate Limiting:

500 concurrent connections

No recipient limit

Limits applied to entire domain, across all virtual gateways

TLS: Off

Bounce Verification Tagging: Off

There are currently 2 entries configured.

[]>

mail3.example.com> commit
```

**表 3-95 destconfig の例 : バウンス プロファイルと TLS 設定の指定 (続き)**

```
Please enter some comments describing your changes:

[ ]> enabled TLS for delivery to newpartner.com using demo certificate

Changes committed: Wed May 31 22:05:57 2006 GMT
```

## 例 : 着信「緩衝装置」

この例では、メールを内部グループウェア サーバ `exchange.example.com` にスロットリングする別の `destconfig` エントリを作成します。この内部サーバ用の「緩衝装置」エントリを指定することで、トラフィックが特に増大する時間帯には着信が内部グループウェア サーバにスロットリングされます。この例では、IronPort アプライアンスは、内部グループウェア サーバ `exchange.example.com` に対し、1 分間に 10 を超える同時接続を確立せず、1000 を超える受信者にメッセージを配信しません。バウンス プロファイルと TLS 設定は設定されません。

**表 3-96 destconfig の例 : 着信「緩衝装置」**

```
mail3.example.com> destconfig

There are currently 2 entries configured.

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
```

**表 3-96 destconfig の例 : 着信「緩衝装置」(続き)**

- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- CLEAR - Remove all entries.

```
[> new
```

```
Enter the domain you wish to configure.
```

```
[> exchange.example.com
```

```
Do you wish to configure a concurrency limit for exchange.example.com?
```

```
[Y]> y
```

```
Enter the max concurrency limit for "exchange.example.com".
```

```
[500]> 10
```

```
Do you wish to apply a recipient limit to this domain? [N]> y
```

```
Enter the number of minutes used to measure the recipient limit.
```

```
[60]> 1
```

**表 3-96 destconfig の例 : 着信「緩衝装置」(続き)**

Enter the max number of recipients per 1 minutes for "exchange.example.com".

```
[ ]> 1000
```

Select how you want to apply the limits for exchange.example.com:

1. One limit applies to the entire domain for exchange.example.com
2. Separate limit for each mail exchanger IP address

```
[1]> 1
```

Select how the limits will be enforced:

1. System Wide
2. Per Virtual Gateway(tm)

```
[1]> 1
```

Do you wish to apply a specific TLS setting for this domain? [N]> **n**

Do you wish to apply a specific bounce verification address tagging setting for this domain? [N]> **n**

Do you wish to apply a specific bounce profile to this domain? [N]> **n**

There are currently 3 entries configured.

**表 3-96 destconfig の例 : 着信「緩衝装置」(続き)**

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- CLEAR - Remove all entries.

[ ]>

mail3.example.com> **commit**

Please enter some comments describing your changes:

[ ]> **set up shock absorber for inbound mail**

Changes committed: Wed May 31 22:25:28 2006 GMT

mail3.example.com>

## 例：グローバル設定

この例では、TLS 接続の TLS アラートおよび証明書を設定します。

**表 3-97 destconfig : グローバル設定**

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- EXPORT - Export tables to a file.

```
[>> setup
```

The "Demo" certificate is currently configured. You may use "Demo", but this will not be secure.

1. partner.com
2. Demo

Please choose the certificate to apply:

**表 3-97**            **destconfig : グローバル設定 (続き)**

```
[1]> 1
```

```
Do you want to send an alert when a required TLS connection fails? [N]> n
```

## hostrate

### 説明

特定のホストのアクティビティをモニタします。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-98**            **hostrate**

```
mail3.example.com> hostrate
```

```
Recipient host:
```

```
[ ]> aol.com
```

```
Enter the number of seconds between displays.
```

```
[10]> 1
```

Time	Host	CrtCncOut	ActvRcp	ActvRcp	DlvRcp	HrdBncRcp	SftBncEvt
	Status			Delta	Delta	Delta	Delta
23:38:23	up	1	0	0	4	0	0
23:38:24	up	1	0	0	4	0	0
23:38:25	up	1	0	0	12	0	0

^C

hostrate コマンドを停止するには、Ctrl+C を使用します。

## hoststatus

### 説明

特定のホスト名のステータスを取得します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-99            hoststatus**

```
mail3.example.com> hoststatus

Recipient host:

[]> aol.com

Host mail status for: 'aol.com'

Status as of:            Fri Aug  8 11:12:00 2003

Host up/down:            up

Counters:

Queue

      Soft Bounced Events                            0

Completion

      Completed Recipients                            1
      Hard Bounced Recipients                        1
      DNS Hard Bounces                                0
      5XX Hard Bounces                                1
      Filter Hard Bounces                            0
      Expired Hard Bounces                            0
      Other Hard Bounces                             0
```

**表 3-99**            **hoststatus (続き)**

```
Delivered Recipients           0
Deleted Recipients            0

Gauges:

Queue

Active Recipients              0
Unattempted Recipients        0
Attempted Recipients          0

Connections

Current Outbound Connections  0
Pending Outbound Connections  0

Oldest Message                 No Messages
Last Activity                   Fri Aug  8 11:04:24 2003
Ordered IP addresses: (expiring at Fri Aug  8 11:34:24 2003)

Preference  IPs
15          64.12.137.121  64.12.138.89   64.12.138.120
15          64.12.137.89   64.12.138.152  152.163.224.122
15          64.12.137.184  64.12.137.89   64.12.136.57
15          64.12.138.57   64.12.136.153  205.188.156.122
15          64.12.138.57   64.12.137.152  64.12.136.89
```

**表 3-99**            **hoststatus (続き)**

15	64.12.138.89	205.188.156.154	64.12.138.152
15	64.12.136.121	152.163.224.26	64.12.137.184
15	64.12.138.120	64.12.137.152	64.12.137.121

MX Records:

Preference	TTL	Hostname
15	52m24s	mailin-01.mx.aol.com
15	52m24s	mailin-02.mx.aol.com
15	52m24s	mailin-03.mx.aol.com
15	52m24s	mailin-04.mx.aol.com

Last 5XX Error:

-----

550 REQUESTED ACTION NOT TAKEN: DNS FAILURE

(at Fri Aug 8 11:04:25 2003)

-----

Virtual gateway information:

=====

example.com (PublicNet\_017):

Host up/down:up

Last ActivityWed Nov 13 13:47:02 2003

**表 3-99**            **hoststatus (続き)**

```
Recipients0
=====
example.com (PublicNet_023):
Host up/down:up
Last ActivityWed Nov 13 13:45:01 2003
Recipients
```

## oldmessage

### 説明

システム上の最も古い非隔離メッセージの MID とヘッダーを表示します。

### 使用方法

**確定:** このコマンドに **commit** は必要ありません。

**クラスタ管理:** このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

次の例では、古いメッセージを表示します。

**表 3-100**            **oldmessage**

```
mail3.example.com> oldmessage

MID 9: 1 hour 5 mins 35 secs old
```

### 表 3-100 oldmessage (続き)

```
Received: from test02.com ([172.19.0.109])  
by test02.com with SMTP; 14 Feb 2007 22:11:37 -0800  
From: user123@test02.com  
To: 4031@example.com  
Subject: Testing  
Message-Id: <20070215061136.68297.16346@test02.com>
```

## rate

### 説明

メッセージのスループットをモニタします。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-101**      **rate**

```
mail3.example.com> rate
```

Enter the number of seconds between displays.

```
[10]> 1
```

Hit Ctrl-C to return to the main prompt.

Time	Connections		Recipients	Recipients			Queue
	In	Out	Received	Delta	Completed	Delta	K-Used
23:37:13	10	2	41708833	0	40842686	0	64
23:37:14	8	2	41708841	8	40842692	6	105
23:37:15	9	2	41708848	7	40842700	8	76
23:37:16	7	3	41708852	4	40842705	5	64
23:37:17	5	3	41708858	6	40842711	6	64
23:37:18	9	3	41708871	13	40842722	11	67
23:37:19	7	3	41708881	10	40842734	12	64
23:37:21	11	3	41708893	12	40842744	10	79

^C

# redirectrecipients

## 説明

すべてのメッセージを別のリレー ホストにリダイレクトします。



### 警告

---

メッセージを、`/dev/null` を宛先とする受信側ドメインにリダイレクトすると、メッセージが失われます。メールをこのようなドメインにリダイレクトしても、CLI に警告は表示されません。メッセージをリダイレクトする前に、受信側ドメインがあるかどうか SMTP ルートを確認してください。

---



### 警告

---

このホストから大量の SMTP メールを受信できるように準備されていないホストまたは IP アドレスに受信者をリダイレクトすると、メッセージがバウンスされ、メールが失われる可能性があります。

---

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式

`redirectrecipients` コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- すべてのメールを別のホスト名または IP アドレスにリダイレクトします。

```
redirectrecipients host <hostname>
```

## 例

次に、すべてのメールを `example2.com` ホストにリダイレクトする例を示します。

```
mail3.example.com> redirectrecipients
```

```
Please enter the hostname or IP address of the machine you want to  
send all mail to.
```

```
[ ]> example2.com
```

```
WARNING: redirecting recipients to a host or IP address that is not  
prepared to accept large volumes of SMTP mail from this host will  
cause messages to bounce and possibly result in the loss of mail.
```

```
Are you sure you want to redirect all mail in the queue to  
"example2.com"? [N]> y
```

```
Redirecting messages, please wait.
```

```
246 recipients redirected.
```

## resetcounters

### 説明

システム内のすべてのカウンタをリセットします。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-102**      **resetcounters**

```
mail3.example.com> resetcounters
```

```
Counters reset: Mon Jan 01 12:00:01 2003
```

## removemessage

### 説明

特定のメッセージ ID のメッセージを安全に削除します。

removemessage コマンドでは、作業キュー、再試行キュー、または宛先キュー内のメッセージのみを削除できます。システムの状態によっては、これらのキューに有効でアクティブなメッセージが含まれていない場合があります。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-103**      **removemessage**

```
example.com> removemessage 1

MID 1: 19 secs old

Received: from example2.com ([172.16.0.102])
    by test02.com with SMTP; 01 Mar 2007 19:50:41 -0800
From: user123@test02.com
To: 9526@example.com
Subject: Testing
Message-Id: <20070302035041.67424.53212@test02.com>

Remove this message? [N]> y
```

## showmessage

### 説明

指定されたメッセージ ID のメッセージとメッセージ本文を表示します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。  
**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-104**      **showmessage**

```
example.com> showmessage

MID 9: 1 hour 5 mins 35 secs old

Received: from example2.com([172.19.0.109])
    by test02.com with SMTP; 14 Feb 2007 22:11:37 -0800
From: user123@test02.com
To: 4031@example.com
Subject: Testing

Message-Id: <20070215061136.68297.16346@test02.com>

This is the message body.
```

## showrecipients

### 説明

キュー内のメッセージを受信者ホスト別または Envelope From アドレス別に表示するか、すべてのメッセージを表示します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式

`showrecipients` コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- 受信者ホスト名でのメッセージの検索

```
showrecipients host <hostname>
```

- **Envelope From** アドレスでのメッセージの検索

```
showrecipients [sender_options] <sender_email>
```

次の `sender_option` を使用できます。

`--match-case` アドレスのユーザ名部分の大文字と小文字を区別した一致。

- すべてのメッセージの検索

```
showrecipients all
```

## 例

次に、すべての受信者ホストへのキュー内のメッセージの例を示します。

```
mail3.example.com> showrecipients
```

```
Please select how you would like to show messages:
```

1. By recipient host.

2. By Envelope From address.

3. All.

[1]> 3

Showing messages, please wait.

MID/	Bytes/	Sender/	Subject
[RID]	[Atmps]	Recipient	
1527	1230	user123456@ironport.com	Testing
[0]	[0]	9554@example.com	
1522	1230	user123456@ironport.com	Testing
[0]	[0]	3059@example.com	
1529	1230	user123456@ironport.com	Testing
[0]	[0]	7284@example.com	
1530	1230	user123456@ironport.com	Testing
[0]	[0]	8243@example.com	
1532	1230	user123456@ironport.com	Testing
[0]	[0]	1820@example.com	

```
1531      1230      user123456@ironport.com Testing
[0]      [0]      9595@example.com

1518      1230      user123456@ironport.com Testing
[0]      [0]      8778@example.com

1535      1230      user123456@ironport.com Testing
[0]      [0]      1703@example.com

1533      1230      user123456@ironport.com Testing
[0]      [0]      3052@example.com

1536      1230      user123456@ironport.com Testing
[0]      [0]      511@example.com
```

## status

`status` コマンドは、IronPort アプライアンスのシステム ステータスを表示するために使用します。「`detail`」オプション（ステータスの詳細）を使用すると、追加情報が表示されます。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。



**表 3-105 status (続き)**

Messages Received	0	0	2
Recipients Received	0	0	2
Rejection			
Rejected Recipients	1	1	1
Dropped Messages	0	0	0
Queue			
Soft Bounced Events	0	0	0
Completion			
Completed Recipients	0	0	2
Current IDs			
Message ID (MID)			3
Injection Conn. ID (ICID)			1
Delivery Conn. ID (DCID)			1
Gauges:			
	Current		
Connections			
Current Inbound Conn.	0		
Current Outbound Conn.	0		
Queue			
Active Recipients	0		
Messages In Work Queue	0		

**表 3-105**      **status (続き)**

Messages In Quarantine	0
Kilobytes Used	0
Kilobytes In Quarantine	0
Kilobytes Free	39,845,888

## tophosts

### 説明

電子メール キューに関する現在の情報を取得し、特定の受信者ホストに配信の問題（キューの増大など）があるかどうかを判断するには、`tophosts` コマンドを使用します。`tophosts` コマンドは、キュー内の上位 20 の受信者のリストを返します。リストは、アクティブ受信者、発信接続、配信済み受信者、ソフトバウンス イベント、およびハードバウンスされた受信者など、さまざまな統計情報別にソートできます。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-106**      **tophosts**

```
mail3.example.com> tophosts

Sort results by:

1. Active Recipients
2. Connections Out
3. Delivered Recipients
4. Soft Bounced Events
5. Hard Bounced Recipients

[1]> 1

Status as of:            Mon Nov 18 22:22:23 2003

      Active Conn. Deliv. Soft    Hard
# Recipient Host Recip Out Recip. Bounced Bounced
1 aol.com 365 10 255 21 8
2 hotmail.com 290 7 198 28 13
3 yahoo.com 134 6 123 11 19
4 excite.com 98 3 84 9 4
5 msn.com 84 2 76 33 29

mail3.example.com>
```

# topin

## 説明

着信接続の数の順に上位のホストを表示します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。



**表 3-107**      **topin (続き)**

14	mail.remotedomain14.com	172.16.0.15	Incoming01	2
15	mail.remotedomain15.com	172.16.0.16	Incoming01	2
16	mail.remotedomain16.com	172.16.0.17	Incoming01	2
17	mail.remotedomain17.com	172.16.0.18	Incoming01	1
18	mail.remotedomain18.com	172.16.0.19	Incoming02	1
19	mail.remotedomain19.com	172.16.0.20	Incoming01	1
20	mail.remotedomain20.com	172.16.0.21	Incoming01	1

## unsubscribe

### 説明

グローバル配信停止リストを更新します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

この例では、アドレス `user@example.net` がグローバル配信停止リストに追加され、メッセージをハードバウンスするように機能が設定されます。このアドレスに送信されるメッセージはバウンスされます。配信の直前にメッセージがバウンスされます。

**表 3-108 unsubscribe**

```
mail3.example.com> unsubscribe
```

```
Global Unsubscribe is enabled. Action: drop.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new entry.
- IMPORT - Import entries from a file.
- SETUP - Configure general settings.

```
[> new
```

```
Enter the unsubscribe key to add. Partial addresses such as
```

```
"@example.com" or "user@" are allowed, as are IP addresses. Partial hostnames such as "@.example.com" are allowed.
```

```
[> user@example.net
```

```
Email Address 'user@example.net' added.
```

```
Global Unsubscribe is enabled.
```

### 表 3-108 unsubscribe (続き)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
- DELETE - Remove an entry.
- PRINT - Display all entries.
- IMPORT - Import entries from a file.
- EXPORT - Export all entries to a file.
- SETUP - Configure general settings.
- CLEAR - Remove all entries.

[> **setup**

Do you want to enable the Global Unsubscribe feature? [Y]> **y**

Would you like matching messages to be dropped or bounced?

1. Drop
2. Bounce

[1]> **2**

Global Unsubscribe is enabled. Action: bounce.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.

### 表 3-108 unsubscribe (続き)

- DELETE - Remove an entry.
- PRINT - Display all entries.
- IMPORT - Import entries from a file.
- EXPORT - Export all entries to a file.
- SETUP - Configure general settings.
- CLEAR - Remove all entries.

```
[ ]>
```

```
mail3.example.com> commit
```

```
Please enter some comments describing your changes:
```

```
[ ]> Added username "user@example.net" to global unsubscribe
```

```
Changes committed: Thu Mar 27 14:57:56 2003
```

## workqueue

### 説明

作業キューの一時停止ステータスを表示および変更します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。  
**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-109**      **workqueue** : 作業キューの手動での一時停止

```
mail3.example.com> workqueue

Status:   Operational

Messages: 1243

Manually pause work queue? This will only affect unprocessed messages.
[N]> y

Reason for pausing work queue:

[ ]> checking LDAP server

Status:   Paused by admin: checking LDAP server

Messages: 1243
```



**(注)** 理由の入力は任意です。理由を入力しない場合、理由を「operator paused」としてログが記録されます。

次の例では、作業キューが再開されます。

**表 3-110**      **workqueue : 一時停止されたキューの再開**

```
mail3.example.com> workqueue
```

```
Status:   Paused by admin: checking LDAP server
```

```
Messages: 1243
```

```
Resume the work queue?   [Y]> y
```

```
Status:   Operational
```

```
Messages: 1243
```

## ネットワーキング設定/ネットワーク ツール

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [etherconfig](#)
- [interfaceconfig](#)
- [netstat](#)
- [nslookup](#)
- [ping](#)
- [routeconfig](#)
- [setgateway](#)
- [sethostname](#)
- [smtproutes](#)
- [sslconfig](#)
- [telnet](#)

- [traceroute](#)

## etherconfig

### 説明

メディア設定、NIC ペアリング、VLAN 設定、DSR 設定などのイーサネット設定を行います。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## メディア設定の編集例

表 3-111 etherconfig : メディア設定の編集

```
mail3.example.com> etherconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- MEDIA - View and edit ethernet media settings.
- PAIRING - View and configure NIC Pairing.
- VLAN - View and configure VLANs.
- LOOPBACK - View and configure Loopback.

```
[> media
```

```
Ethernet interfaces:
```

1. Data 1 (Autoselect: <100baseTX full-duplex>) 00:06:5b:f3:ba:6d
2. Data 2 (Autoselect: <100baseTX full-duplex>) 00:06:5b:f3:ba:6e
3. Management (Autoselect: <100baseTX full-duplex>) 00:02:b3:c7:a2:da

```
Choose the operation you want to perform:
```

- EDIT - Edit an ethernet interface.

```
[> edit
```

```
Enter the name or number of the ethernet interface you wish to edit.
```

```
[> 2
```

**表 3-111 etherconfig : メディア設定の編集 (続き)**

Please choose the Ethernet media options for the Data 2 interface.

1. Autoselect
2. 10baseT/UTP half-duplex
3. 10baseT/UTP full-duplex
4. 100baseTX half-duplex
5. 100baseTX full-duplex
6. 1000baseTX half-duplex
7. 1000baseTX full-duplex

[1]> 5

Ethernet interfaces:

1. Data 1 (Autoselect: <100baseTX full-duplex>) 00:06:5b:f3:ba:6d
2. Data 2 (100baseTX full-duplex: <100baseTX full-duplex>) 00:06:5b:f3:ba:6e
3. Management (Autoselect: <100baseTX full-duplex>) 00:02:b3:c7:a2:da

Choose the operation you want to perform:

- EDIT - Edit an ethernet interface.

[ ]>

**表 3-111 etherconfig : メディア設定の編集 (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- MEDIA - View and edit ethernet media settings.
- PAIRING - View and configure NIC Pairing.
- VLAN - View and configure VLANs.
- LOOPBACK - View and configure Loopback.

[ ]>

## etherconfig コマンドを使った NIC ペアリングのイネーブル化

表 3-112 etherconfig : NIC ペアリングのイネーブル化

```
mail3.example.com> etherconfig

Choose the operation you want to perform:

- MEDIA - View and edit ethernet media settings.

- PAIRING - View and configure NIC Pairing.

- VLAN - View and configure VLANs.

- LOOPBACK - View and configure Loopback.

[]> pairing

Paired interfaces:

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new pairing.

[]> new

Please enter a name for this pair (Ex: "Pair 1"):

[]> Pair 1

1. Data 1

2. Data 2
```

### 表 3-112 etherconfig : NIC ペアリングのイネーブル化 (続き)

Enter the name or number of the primary ethernet interface you wish bind to.

```
[ ]> 1
```

Paired interfaces:

1. Pair 1:

Primary (Data 1) Active, Link is up

Backup (Data 2) Standby, Link is up

Choose the operation you want to perform:

- FAILOVER - Manually failover to other port.

- DELETE - Delete a pairing.

- STATUS - Refresh status.

```
[ ]>
```

## NIC ペアリングに対する failover サブコマンドの使用

この例では、手動のフェールオーバーを実行し、Data 2 インターフェイスを強制的にプライマリ インターフェイスにします。CLI で変更を確認するには、status サブコマンドを実行する必要があります。

### 表 3-113 etherconfig : 手動での failover コマンドの発行

```
mail3.example.com> etherconfig
```

Choose the operation you want to perform:

**表 3-113 etherconfig : 手動での failover コマンドの発行 (続き)**

- MEDIA - View and edit ethernet media settings.
- PAIRING - View and configure NIC Pairing.
- VLAN - View and configure VLANs.
- LOOPBACK - View and configure Loopback.

```
[> pairing
```

```
Paired interfaces:
```

```
1. Pair 1:
```

```
Primary (Data 1) Active, Link is up
```

```
Backup (Data 2) Standby, Link is up
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- FAILOVER - Manually failover to other port.
- DELETE - Delete a pairing.
- STATUS - Refresh status.

```
[> failover
```

```
Paired interfaces:
```

```
1. Pair 1:
```

```
Primary (Data 1) Active, Link is up
```

```
Backup (Data 2) Standby, Link is up
```

**表 3-113 etherconfig : 手動での failover コマンドの発行 (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- FAILOVER - Manually failover to other port.
- DELETE - Delete a pairing.
- STATUS - Refresh status.

[ ]> **status**

Paired interfaces:

1. Pair 1:

Primary (Data 1) Standby, Link is up

Backup (Data 2) Active, Link is up

Choose the operation you want to perform:

- FAILOVER - Manually failover to other port.
- DELETE - Delete a pairing.
- STATUS - Refresh status.

[ ]>

Choose the operation you want to perform:

- MEDIA - View and edit ethernet media settings.
- PAIRING - View and configure NIC Pairing.
- VLAN - View and configure VLANs.

**表 3-113 etherconfig : 手動での failover コマンドの発行 (続き)**

- LOOPBACK - View and configure Loopback.

[ ]>

## etherconfig コマンドによる新しい VLAN の作成

この例では、Data 1 ポート上に 2 つの VLAN (VLAN 31 と VLAN 34) を作成します。

**表 3-114 etherconfig : 新しい VLAN の作成**

```
mail3.example.com> etherconfig
```

Choose the operation you want to perform:

- MEDIA - View and edit ethernet media settings.

- PAIRING - View and configure NIC Pairing.

- VLAN - View and configure VLANs.

- LOOPBACK - View and configure Loopback.

[ ]> **vlan**

VLAN interfaces:

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new VLAN.

[ ]> **new**

VLAN tag ID for the interface (Ex: "34"):

**表 3-114 etherconfig : 新しい VLAN の作成 (続き)**

```
[> 34
```

```
Enter the name or number of the ethernet interface you wish bind to:
```

1. Data 1
2. Data 2
3. Management

```
[1]> 1
```

```
VLAN interfaces:
```

1. VLAN 34 (Data 1)

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new VLAN.
- EDIT - Edit a VLAN.
- DELETE - Delete a VLAN.

```
[> new
```

```
VLAN tag ID for the interface (Ex: "34"):
```

```
[> 31
```

```
Enter the name or number of the ethernet interface you wish bind to:
```

**表 3-114 etherconfig : 新しい VLAN の作成 (続き)**

1. Data 1
2. Data 2
3. Management

[1]> **1**

VLAN interfaces:

1. VLAN 31 (Data 1)
2. VLAN 34 (Data 1)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new VLAN.
- EDIT - Edit a VLAN.
- DELETE - Delete a VLAN.

[>

Choose the operation you want to perform:

- MEDIA - View and edit ethernet media settings.
- PAIRING - View and configure NIC Pairing.
- VLAN - View and configure VLANs.
- LOOPBACK - View and configure Loopback.

[>

## etherconfig コマンドによるループバック インターフェイスのイネーブル化

イネーブルになったループバック インターフェイスは、他のインターフェイス (Data 1 など) と同じように扱われます。

**表 3-115 etherconfig : ループバック インターフェイスのイネーブル化**

```
mail3.example.com> etherconfig

Choose the operation you want to perform:

- MEDIA - View and edit ethernet media settings.
- PAIRING - View and configure NIC Pairing.
- VLAN - View and configure VLANs.
- LOOPBACK - View and configure Loopback.

[]> loopback

Currently configured loopback interface:

Choose the operation you want to perform:

- ENABLE - Enable Loopback Interface.

[]> enable

Currently configured loopback interface:

1. Loopback

Choose the operation you want to perform:
```

**表 3-115 etherconfig : ループバック インターフェイスのイネーブル化 (続き)**

- DISABLE - Disable Loopback Interface.

[ ]>

Choose the operation you want to perform:

- MEDIA - View and edit ethernet media settings.

- PAIRING - View and configure NIC Pairing.

- VLAN - View and configure VLANs.

- LOOPBACK - View and configure Loopback.

[ ]>

## interfaceconfig

### 説明

インターフェイスを設定します。インターフェイスを作成、編集、削除できます。FTP をイネーブルにし、IP アドレスを変更し、イーサネット IP アドレスを設定できます。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式

interfaceconfig コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- 新しいインターフェイスの作成

```
interfaceconfig new <name>
```

```
    <ip address>
```

```
    <ethernet interface>
```

```
    <hostname>
```

```
    --ip=IPv4 Address/Netmask
```

```
    --ip6=IPv6 Address/Prefix Length
```

```
    [--ftp[=<port>]] (Note: only available on IPv4)
```

```
    [--telnet[=<port>]]
```

```
    [--ssh[=<port>]]
```

```
    [--http][=<port>]
```

```
    [--https][=<port>]]
```

```
    [--euq_http][=<port>]]
```

```
    [--euq_https][=<port>]]
```

- インターフェイスの削除

```
interfaceconfig delete <name>
```

## 例：インターフェイスの設定

表 3-116 interfaceconfig : インターフェイスの設定

```
mail3.example.com> interfaceconfig

Currently configured interfaces:

1. Data 1 (192.168.1.1/24 on Data1: mail3.example.com)
2. Data 2 (192.168.2.1/24 on Data2: mail3.example.com)
3. Management (192.168.42.42/24 on Management: mail3.example.com)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new interface.
- EDIT - Modify an interface.
- GROUPS - Define interface groups.
- DELETE - Remove an interface.

[ ]> edit

Enter the number of the interface you wish to edit.

[ ]> 1

IP interface name (Ex: "InternalNet"):

[Data 1]>
```

**表 3-116 interfaceconfig : インターフェイスの設定 (続き)**

```
Would you like to configure an IPv4 address for this interface (y/n)?  
[Y]>
```

```
IPv4 Address (Ex: 192.168.1.2 ):
```

```
[192.168.1.1]>
```

```
Netmask (Ex: "24", "255.255.255.0" or "0xffffffff"):
```

```
[0xffffffff00]>
```

```
Would you like to configure an IPv6 address for this interface (y/n)?  
[N]>
```

```
Ethernet interface:
```

1. Data 1
2. Data 2
3. Management

```
[1]>
```

```
Hostname:
```

```
[mail3.example.com]>
```

```
Do you want to enable Telnet on this interface? [Y]> n
```

**表 3-116**      **interfaceconfig : インターフェイスの設定 (続き)**

Do you want to enable SSH on this interface? [Y]> **n**

Do you want to enable FTP on this interface? [N]>

Do you want to enable HTTP on this interface? [Y]> **y**

Which port do you want to use for HTTP?

[80]> **80**

Do you want to enable HTTPS on this interface? [Y]> **y**

Which port do you want to use for HTTPS?

[443]> **443**

Do you want to enable Spam Quarantine HTTP on this interface? [N]

Do you want to enable Spam Quarantine HTTPS on this interface? [N]

Both HTTP and HTTPS are enabled for this interface, should HTTP requests redirect to the secure service? [Y]>

**表 3-116 interfaceconfig : インターフェイスの設定 (続き)**

Currently configured interfaces:

1. Data 1 (192.168.1.1/24 on Data 1: mail3.example.com)
2. Data 2 (192.168.2.1/24 on Data 2: mail3.example.com)
3. Management (192.168.42.42/24 on Management: mail3.example.com)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new interface.
- EDIT - Modify an interface.
- GROUPS - Define interface groups.
- DELETE - Remove an interface.

[ ]>

mail3.example.com> **commit**

Please enter some comments describing your changes:

[ ]> **enabled HTTP, HTTPS for Data 1**

Changes committed: Mon Jul 7 13:21:23 2003

mail3.example.com>

## 例 : IronPort スпам隔離 URL の変更

次に、IronPort スпам隔離 URL を変更する例を示します。

**表 3-117**      **IronPort スпам隔離 URL の変更**

```
mail3.example.com]>interfaceconfig

Currently configured interfaces:

1. Data 1 (192.168.1.1/24 on Data1: mail3.example.com)
2. Data 2 (192.168.2.1/24 on Data2: mail3.example.com)
3. Management (192.168.42.42/24 on Management: mail3.example.com)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new interface.
- EDIT - Modify an interface.
- GROUPS - Define interface groups.
- DELETE - Remove an interface.

[ ]> edit

Enter the number of the interface you wish to edit.

[ ]> 3

IP interface name (Ex: "InternalNet"):
```

[Management]>

**表 3-117 IronPort スпам隔離 URL の変更 (続き)**

[ ... ]

Do you want to enable IronPort Spam Quarantine HTTP on this interface?  
[Y]>

Which port do you want to use for IronPort Spam Quarantine HTTP?

[82]>

Do you want to enable IronPort Spam Quarantine HTTPS on this interface?  
[Y]>

Which port do you want to use for IronPort Spam Quarantine HTTPS?

[83]>

You have not entered an HTTPS certificate. To assure privacy, run "certconfig" first.

You may use the demo, but this will not be secure.

Do you really wish to use a demo certificate? [Y]>

Both HTTP and HTTPS are enabled for this interface, should HTTP requests redirect to the secure service? [Y]>

Both IronPort Spam Quarantine HTTP and IronPort Spam Quarantine HTTPS

### 表 3-117 IronPort スпам隔離 URL の変更 (続き)

```
are enabled for this interface, should IronPort Spam Quarantine HTTP
requests redirect to the secure service? [Y]>
```

```
Do you want Management as the default interface for IronPort Spam
Quarantine? [Y]>
```

```
Do you want to use a custom base URL in your IronPort Spam Quarantine
email notifications? [N]> y
```

```
Enter the custom base URL (Ex: "http://isq.example.url:81/")
```

```
[ ]> http://ISQ.example.com:82/
```

```
You have edited the interface you are currently logged into. Are you sure
you want to change it? [Y]> y
```

```
Currently configured interfaces:
```

1. Data 1 (192.168.1.1/24 on Data1: mail3.example.com)
2. Data 2 (192.168.2.1/24 on Data2: mail3.example.com)
3. Management (192.168.42.42/24 on Management: mail3.example.com)

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new interface.
```

**表 3-117** IronPort スпам隔離 URL の変更 (続き)

- EDIT - Modify an interface.
- GROUPS - Define interface groups.
- DELETE - Remove an interface.

## nslookup

### 説明

nslookup コマンドを使用すると、DNS の機能をテストできます。

nslookup コマンドでは、アプライアンスから動作している Domain Name Service (DNS; ドメイン ネーム サービス) サーバを使用してホスト名や IP アドレスを解決して到達できることを確認できます。

**表 3-118** nslookup コマンドのクエリー タイプ

クエリーの タイプ	説明
A	ホストのインターネット アドレス
CNAME	エイリアスの正規の名前
MX	メール エクスチェンジャ
NS	指定したゾーンのネーム サーバ
PTR	クエリーがインターネット アドレスの場合はホスト名、そうでない場合は他の情報に対するポインタ
SOA	ドメインの「start-of-authority (権威の開始)」情報
TXT	テキスト情報

# netstat

## 説明

netstat コマンドを使用すると、ネットワーク接続（着信および発信）、ルーティング テーブル、およびさまざまなネットワーク インターフェイス統計情報を表示できます。このバージョンではすべての引数がサポートされるわけではないことに注意してください。使用できない引数は、**-a**、**-A**、**-g**、**-m**、**-M**、**-N**、**-s** です。このコマンドはインタラクティブ モードでの実行を目的としているため、**netstat** を入力した後でレポートの対象を 5 つのオプションから選択できます。また、リッスンするインターフェイスと表示の間隔も指定できます。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-119 netstat**

```
example.com> netstat
```

```
Choose the information you want to display:
```

1. List of active sockets.
2. State of network interfaces.
3. Contents of routing tables.
4. Size of the listen queues.
5. Packet traffic information.

```
[1]> 2
```

```
Select the ethernet interface whose state you wish to display:
```

1. Data 1
2. Data 2
3. Management
4. ALL

```
[> 1
```

```
Show the number of bytes in and out? [N]>
```

```
Show the number of dropped packets? [N]> y
```

Name	Mtu	Network	Address	Ipkts	Ierrs	Opkts	Oerrs	Coll	Drop
Data 1	1500	197.19.1/24	example.com	30536	-	5	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 3-119 netstat (続き)

```
example.com>
```

## ping

### 説明

ping コマンドを使用すると、アプライアンスからネットワーク ホストへの接続をテストできます。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト（ユーザがログインしたマシン）でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-120 ping**

```
mail3.example.com> ping
```

```
Which interface do you want to send the pings from?
```

1. Auto
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)

```
[1]> 1
```

```
Please enter the host you wish to ping.
```

```
[> anotherhost.example.com
```

```
Press Ctrl-C to stop.
```

```
PING anotherhost.example.com (x.x.x.x): 56 data bytes
```

```
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=0 ttl=64 time=1.421 ms
```

```
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.126 ms
```

```
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.118 ms
```

```
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.115 ms
```

```
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=4 ttl=64 time=0.139 ms
```

**表 3-120** ping (続き)

```
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=5 ttl=64 time=0.125 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=6 ttl=64 time=0.124 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=7 ttl=64 time=0.122 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=8 ttl=64 time=0.126 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=9 ttl=64 time=0.133 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=10 ttl=64 time=0.115 ms
^C
--- anotherhost.example.com ping statistics ---
11 packets transmitted, 11 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max/stddev = 0.115/0.242/1.421/0.373 ms
^C
```



(注)

ping コマンドを終了するには、Ctrl+C を使用します。

## routeconfig

### 説明

routeconfig コマンドを使用すると、TCP/IP トラフィックのスタティック ルートを作成、編集、削除できます。デフォルトでは、トラフィックは setgateway コマンドで設定されたデフォルト ゲートウェイ経由でルーティングされます。ただし、IronPort AsyncOS では特定の宛先へのルーティングも可能です。

ルートは、ニックネーム (参照用)、宛先、およびゲートウェイで構成されます。ゲートウェイ (ネクスト ホップ) は、10.1.1.2 などの IP アドレスです。宛先は次のいずれかになります。

- IP アドレス (192.168.14.32 など)
- CIDR 表記法によるサブネット たとえば、192.168.5.0/24 は 192.168.5.0 から 192.168.5.255 までのクラス C ネットワーク全体を意味します。

IPv6 アドレスの場合は、次の形式を使用できます。

- 2620:101:2004:4202::0-2620:101:2004:4202::ff
- 2620:101:2004:4202::
- 2620:101:2004:4202::23
- 2620:101:2004:4202::/64

このコマンドでは、現在設定されている TCP/IP ルートのリストが表示されるので、そこからルートを選択して edit および delete サブコマンドを使用できます。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式

smtproutes コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。ルートに IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのどちらかを使用するかを選択できます。

- スタティック ルートの作成：

```
routeconfig new 4|6 <name> <destination_address> <gateway_ip>
```

**表 3-121 routeconfig の引数**

引数	説明
<b>4   6</b>	このコマンドを適用する IP のバージョン (IPv4 または IPv6)。clear を指定した場合および print を指定した場合、このオプションは省略可能で、コマンドは両方のバージョンに適用されます。
<b>name</b>	ルートの名前。
<b>destination_address</b>	発信 IP トラフィックの場合に照合する IP アドレスまたは CIDR アドレス。
<b>gateway_ip</b>	このトラフィックの送信先とする IP アドレス。

- スタティック ルートの編集 :

```
routeconfig edit 4|6 <name> <new_name> <destination_address>
<gateway_ip>
```

- スタティック ルートの削除 :

```
routeconfig delete 4|6 <name>
```

- すべてのスタティック ルートの削除 :

```
routeconfig clear [4|6]
```

- スタティック ルートの一覧出力 :

```
routeconfig print [4|6]
```

## 例

```
mail3.example.com> routeconfig
```

Configure routes for:

1. IPv4

2. IPv6

```
[1]>
```

Currently configured routes:

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new route.

```
[ ]> new
```

Please create a name for the route:

```
[ ]> EuropeNet
```

Please enter the destination IPv4 address to match on.

CIDR addresses such as 192.168.42.0/24 are also allowed.

```
[ ]> 192.168.12.0/24
```

Please enter the gateway IP address for traffic to 192.168.12.0/24:

```
[ ]> 192.168.14.4
```

Currently configured routes:

1. EuropeNet Destination: 192.168.12.0/24 Gateway: 192.168.14.4

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new route.
- EDIT - Modify a route.
- DELETE - Remove a route.
- CLEAR - Clear all entries.

```
[ ]>
```

```
mail3.example.com> routeconfig
```

Configure routes for:

1. IPv4

2. IPv6

[1]> 2

Currently configured routes:

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new route.

[ ]> **new**

Please create a name for the route:

[ ]> **EuropeIPv6Net**

Please enter the destination IPv6 address to match on.

CIDR addresses such as 2001:db8::/32 are also allowed.

[ ]> **2620:101:2004:4202::/6**

Please enter the gateway IP address for traffic to  
2620:101:2004:4202::/6:

[ ]> **2620:101:2004:4202::23**

```
Currently configured routes:
```

```
1. EuropeIPv6Net Destination: 2620:101:2004:4202::/6 Gateway:
```

```
2620:101:2004:4202::23
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new route.
```

```
- EDIT - Modify a route.
```

```
- DELETE - Remove a route.
```

```
- CLEAR - Clear all entries.
```

```
[ ]>
```

```
mail3.example.com> commit
```

## setgateway

### 説明

setgateway コマンドでは、パケットをルーティングするときに経由するデフォルトのネクスト ホップを設定します。代替（デフォルトではない）ゲートウェイは、routeconfig コマンドを使用して設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-122**      **setgateway**

```
mail3.example.com> setgateway
```

```
Warning: setting an incorrect default gateway may cause the current  
connection to be interrupted when the changes are committed.
```

```
Enter new default gateway:
```

```
[10.1.1.1]> 192.168.20.1
```

```
mail3.example.com> commit
```

```
Please enter some comments describing your changes:
```

```
[ ]> changed default gateway to 192.168.20.1
```

```
Changes committed: Mon Jan 01 12:00:01 2003
```

## sethostname

### 説明

ホスト名は、CLI プロンプトでシステムを識別する際に使用されます。完全修飾ホスト名を入力する必要があります。sethostname コマンドは、IronPort アプリアンスの名前を設定します。新規ホスト名は、commit コマンドを発行して初めて有効になります。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-123**      **sethostname**

```
oldname.example.com> sethostname  
  
[oldname.example.com]> mail3.example.com  
  
oldname.example.com>
```

ホスト名の変更を有効にするには、`commit` コマンドを入力する必要があります。ホスト名の変更を確定すると、CLI プロンプトに新しいホスト名が表示されま

**表 3-124**

```
oldname.example.com> commit  
  
Please enter some comments describing your changes:  
  
[> Changed System Hostname  
  
Changes committed: Mon Apr 18 12:00:01 2003
```

次のように新しいホスト名がプロンプトに表示されます。

```
mail3.example.com>
```

## smtproutes

### 説明

永続的なドメイン転送を設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式

smtproutes コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- 新しい SMTP ルートの作成

```
smtproutes new <source> <destination> [destination] [destination] [...]
```

- 既存の SMTP ルートの削除

```
smtproutes delete <source>
```

- SMTP ルートのリストのクリア

```
smtproutes clear
```

- SMTP ルートのリストの出力

```
smtproutes print
```

- SMTP ルートのリストのインポート

```
smtproutes import <filenames>
```

- SMTP ルートのリストのエクスポート

```
smtproutes export <filenames>
```

## 例

次の例では、smtproutes コマンドを使用して、ドメイン example.com の relay1.example.com、relay2.example.com、および backup-relay.example.com へのルート（マッピング）を作成します。宛先のプライオリティを指定するには、/pri=# を使用します。# には 0 ～ 65535 の値を指定します。値が大きいほどプライオリティは低くなります。プライオリティを指定しない場合、デフォルトの 0 に設定されます。

(systemsetup コマンドの実行時、InboundMail パブリック リスナーを設定するときに同じマッピングを作成している場合があることに注意してください)。

**表 3-125**      **smtproutes**

```
mail3.example.com> smtproutes
```

```
There are no routes configured.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new route.
- IMPORT - Import new routes from a file.

**表 3-125      smtproutes (続き)**

```
[> new
```

Enter the domain for which you want to set up a permanent route.

Partial hostnames such as ".example.com" are allowed.

Use "ALL" for the default route.

```
[> example.com
```

Enter the destination hosts, separated by commas, which you want mail for example.com to be delivered.

Enter USEDNS by itself to use normal DNS resolution for this route.

Enter /dev/null by itself if you wish to discard the mail.

Enclose in square brackets to force resolution via address (A) records, ignoring any MX records.

```
[> relay1.example.com/pri=10, relay2.example.com,  
backup-relay.example.com
```

Mapping for example.com to relay1.example.com, relay2.example.com, backup-relay.example.com/pri=10 created.

There are currently 1 routes configured.

Choose the operation you want to perform:

**表 3-125**      **smtproutes (続き)**

```
- NEW - Create a new route.  
  
- EDIT - Edit destinations of an existing route.  
  
- DELETE - Remove a route.  
  
- PRINT - Display all routes.  
  
- IMPORT - Import new routes from a file.  
  
- EXPORT - Export all routes to a file.  
  
- CLEAR - Remove all routes.  
  
[]>
```

**SMTP ルートのドメインを変更するには、smtproutes -> EDIT を使用します。**

## sslconfig

### 説明

アプライアンスの SSL 設定を指定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail3.example.com> sslconfig
```

```
sslconfig settings:
```

```
GUI HTTPS method:  sslv3tlsv1
```

```
GUI HTTPS ciphers: RC4-SHA:RC4-MD5:ALL
```

```
Inbound SMTP method:  sslv3tlsv1
```

```
Inbound SMTP ciphers: RC4-SHA:RC4-MD5:ALL
```

```
Outbound SMTP method:  sslv3tlsv1
```

```
Outbound SMTP ciphers: RC4-SHA:RC4-MD5:ALL
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- GUI - Edit GUI HTTPS ssl settings.
- INBOUND - Edit Inbound SMTP ssl settings.
- OUTBOUND - Edit Outbound SMTP ssl settings.
- VERIFY - Verify and show ssl cipher list.

```
[> gui
```

```
Enter the GUI HTTPS ssl method you want to use.
```

1. SSL v2.
2. SSL v3
3. TLS v1

4. SSL v2 and v3
  5. SSL v3 and TLS v1
  6. SSL v2, v3 and TLS v1
- [5]> 6

Enter the GUI HTTPS ssl cipher you want to use.

[RC4-SHA:RC4-MD5:ALL]>

sslconfig settings:

GUI HTTPS method: sslv2sslv3tlsv1

GUI HTTPS ciphers: RC4-SHA:RC4-MD5:ALL

Inbound SMTP method: sslv3tlsv1

Inbound SMTP ciphers: RC4-SHA:RC4-MD5:ALL

Outbound SMTP method: sslv3tlsv1

Outbound SMTP ciphers: RC4-SHA:RC4-MD5:ALL

Choose the operation you want to perform:

- GUI - Edit GUI HTTPS ssl settings.
- INBOUND - Edit Inbound SMTP ssl settings.
- OUTBOUND - Edit Outbound SMTP ssl settings.
- VERIFY - Verify and show ssl cipher list.

[ ]> inbound

Enter the inbound SMTP ssl method you want to use.

1. SSL v2.
2. SSL v3
3. TLS v1
4. SSL v2 and v3
5. SSL v3 and TLS v1
6. SSL v2, v3 and TLS v1

[5]> 6

Enter the inbound SMTP ssl cipher you want to use.

[RC4-SHA:RC4-MD5:ALL]>

sslconfig settings:

GUI HTTPS method: sslv2sslv3tlsv1

GUI HTTPS ciphers: RC4-SHA:RC4-MD5:ALL

Inbound SMTP method: sslv2sslv3tlsv1

Inbound SMTP ciphers: RC4-SHA:RC4-MD5:ALL

Outbound SMTP method: sslv3tlsv1

Outbound SMTP ciphers: RC4-SHA:RC4-MD5:ALL

Choose the operation you want to perform:

```
- GUI - Edit GUI HTTPS ssl settings.  
  
- INBOUND - Edit Inbound SMTP ssl settings.  
  
- OUTBOUND - Edit Outbound SMTP ssl settings.  
  
- VERIFY - Verify and show ssl cipher list.  
  
[]>
```

## telnet

### 説明

リモート ホストに接続します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト（ユーザがログインしたマシン）でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-126**      **telnet**

```
mail3.example.com> telnet

Please select which interface you want to telnet from.

1. Auto
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)

[1]> 3

Enter the remote hostname or IP.

[ ]> 193.168.1.1

Enter the remote port.

[25]> 25

Trying 193.168.1.1...

Connected to 193.168.1.1.

Escape character is '^]'.
```

# traceroute

## 説明

traceroute コマンドを使用すると、アプライアンスからネットワーク ホストへの接続をテストして、ネットワークのホップに関するルーティングの問題をデバッグできます。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト（ユーザがログインしたマシン）でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-127**      **traceroutes**

```
mail3.example.com> traceroute

Which interface do you want to trace from?

1. Auto
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)

[1]> 1

Please enter the host to which you want to trace the route.

[>] 10.1.1.1

Press Ctrl-C to stop.

traceroute to 10.1.1.1 (10.1.1.1), 64 hops max, 44 byte packets

 1  gateway (192.168.0.1)  0.202 ms  0.173 ms  0.161 ms
 2  hostname (10.1.1.1)  0.298 ms  0.302 ms  0.291 ms

mail3.example.com>
```

## Outbreak フィルタ

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [outbreakconfig](#)
- [outbreakflush](#)
- [outbreakstatus](#)
- [outbreakstatus](#)

## outbreakconfig

### 説明

`outbreakconfig` コマンドを使用すると、感染フィルタ機能を CLI で設定できます。設定には、感染フィルタ機能のイネーブル化、しきい値の設定、感染フィルタ機能の電子メール アラートを受信するかどうかの選択があります。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-128 vofconfig**

```
mail3.example.com> vofconfig
```

```
VOF: enabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Change VOF settings.
```

```
[ ]> setup
```

```
Do you want to enable the Virus Outbreak Filters? [Y]> y
```

```
Virus Outbreak Filters enabled. The current threshold is 4.
```

```
Suspicious messages with a threat level that meet or exceed this  
threshold will be quarantined.
```

```
Enter your threshold value. This is a number between 1 and 5, where 1 is  
a very low tolerance for risk, and 5 is extremely high:
```

```
[4]> 2
```

```
Virus Outbreak Filters enabled. The current threshold is 2.
```

```
Suspicious messages with a threat level that meet or exceed this  
threshold will be quarantined.
```

### 表 3-128 vofconfig (続き)

VOF Alerts are sent when filetypes cross the threshold (go above or back down below), meaning that new messages of certain types could be quarantined or will no longer be quarantined, respectively.

```
Would you like to receive VOF alerts? [Y]> y
```

The Virus Outbreak Filters (VOF) feature is now globally enabled on the system. You must use the 'policyconfig' command in the CLI or the Email Security Manager in the GUI to enable VOF for the desired Incoming and Outgoing Mail Policies.

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Change VOF settings.
```

```
[1]>
```

```
mail3.example.com> commit
```

## outbreakflush

### 説明

キャッシュされている発生ルールをクリアします。

### 使用方法

コミット：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-129**      **vofflush**

```
mail3.example.com> outbreakflush
```

```
Cached Outbreak Rules have been cleared.
```

```
mail3.example.com>
```

## outbreakstatus

### 説明

`outbreakstatus` コマンドは、感染フィルタ機能をイネーブルにするかどうか、発生ルール、現在のしきい値など、感染フィルタ機能の現在の設定を表示します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-130 outbreakstatus**

```
mail3.example.com> vofstatus
```

```
Virus Outbreak Filters: enabled
```

Component	Last Update	Version
Virus Outbreak Rules	Tue May 03 11:17:42	20050422_231148
CASE - Core	Never	1.0.0-017
CASE - Tools	Tue May 03 13:33:30	1.0.0-013

```
Last download attempt made on Wed May 04 10:35:35
```

Threat	Outbreak	
Level	Rule Name	Rule Description
-----		
5	OUTBREAK_0002187_03	A reported a MyDoom.BB outbreak.
5	OUTBREAK_0005678_00	This configuration file was generated by...
3	OUTBREAK_0000578_00	This virus is distributed in pictures of...

```
Virus Outbreak Filter Rules with higher threat levels pose greater risks. (5 = highest threat, 1 = lowest threat)
```

## 表 3-130 outbreakstatus (続き)

```
Last update: Tue May 3 11:17:46 2005
```

```
Current Virus Outbreak Filters threshold: 3 (use "vofconfig" to change)
```

```
mail3.example.com>
```

# outbreakupdate

## 説明

CASE ルールおよびエンジン コアの即時更新を要求します。

## 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

表 3-131 **outbreakupdate**

```
elroy.run> outbreakupdate
```

```
Requesting check for new CASE definitions
```

## ポリシーの実施

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [dictionaryconfig](#)
- [exceptionconfig](#)
- [filters](#)
- [policyconfig](#)
- [quarantineconfig](#)
- [scanconfig](#)
- [stripheaders](#)
- [textconfig](#)

## dictionaryconfig

### 説明

コンテンツ ディクショナリを設定します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
dictionaryconfig -> new を使用してディクショナリを作成し、  
dictionaryconfig -> delete を使用してディクショナリを削除します。
```

**表 3-132 dictionaryconfig : ディクショナリ 1 の作成**

```
example.com> dictionaryconfig
```

```
No content dictionaries have been defined.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new content dictionary.
```

```
[> new
```

```
Enter a name for this content dictionary.
```

```
[> HRWords
```

```
Do you wish to specify a file for import? [N]>
```

```
Enter new words or regular expressions, enter a blank line to finish.
```

**表 3-132 dictionaryconfig : ディクショナリ 1 の作成 (続き)**

*<list of words typed here>*

Currently configured content dictionaries:

1. HRWords

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.

[> **delete**

Enter the number of the dictionary you want to delete:

1. HRWords

[> **1**

Content dictionary "HRWords" deleted.

No content dictionaries have been defined.

Choose the operation you want to perform:

**表 3-132 dictionaryconfig : ディクショナリ 1 の作成 (続き)**

- NEW - Create a new content dictionary.

[ ]>

この例では、「secret\_words」という名前の新しいディクショナリを作成し、「codename」という用語を登録します。このディクショナリを入力した後は、edit -> settings サブコマンドを使用して、大文字と小文字の区別および単語の区切りの検出方法をこのディクショナリに定義します。

**表 3-133 dictionaryconfig : ディクショナリ 2 の作成**

```
mail3.example.com> dictionaryconfig
```

```
No content dictionaries have been defined.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new content dictionary.

```
[ ]> new
```

```
Enter a name for this content dictionary.
```

```
[ ]> secret_words
```

```
Do you wish to specify a file for import? [N]>
```

```
Enter new words or regular expressions, enter a blank line to finish.
```

```
codename
```

**表 3-133 dictionaryconfig : ディクショナリ 2 の作成 (続き)**

```
Currently configured content dictionaries:
```

```
1. secret_words
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.

```
[> edit
```

```
Enter the number of the dictionary you want to edit:
```

```
1. secret_words
```

```
[> 1
```

```
Choose the operation you want to perform on dictionary 'secret_words':
```

- NEW - Create new entries in this dictionary.
- IMPORT - Replace all of the words in this dictionary.
- EXPORT - Export the words in this dictionary.
- DELETE - Remove an entry in this dictionary.
- PRINT - List the entries in this dictionary.
- SETTINGS - Change settings for this dictionary.

**表 3-133 dictionaryconfig : ディクショナリ 2 の作成 (続き)**

```
[ ]> settings
```

```
Do you want to ignore case when matching using this dictionary? [Y]>
```

```
Do you want strings in this dictionary to only match complete words? [Y]>
```

```
Enter the default encoding to be used for exporting this dictionary:
```

1. US-ASCII
2. Unicode (UTF-8)
3. Unicode (UTF-16)
4. Western European/Latin-1 (ISO 8859-1)
5. Western European/Latin-1 (Windows CP1252)
6. Traditional Chinese (Big 5)
7. Simplified Chinese (GB 2312)
8. Simplified Chinese (HZ GB 2312)
9. Korean (ISO 2022-KR)
10. Korean (KS-C-5601/EUC-KR)
11. Japanese (Shift-JIS (X0123))
12. Japanese (ISO-2022-JP)
13. Japanese (EUC)

```
[2]>
```

**表 3-133 dictionaryconfig : ディクショナリ 2 の作成 (続き)**

Choose the operation you want to perform on dictionary 'secret\_words':

- NEW - Create new entries in this dictionary.
- IMPORT - Replace all of the words in this dictionary.
- EXPORT - Export the words in this dictionary.
- DELETE - Remove an entry in this dictionary.
- PRINT - List the entries in this dictionary.
- SETTINGS - Change settings for this dictionary.

[ ]>

Currently configured content dictionaries:

1. secret\_words

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.

[ ]>

mail3.example.com> **commit**

**表 3-133 dictionaryconfig : ディクショナリ 2 の作成 (続き)**

Please enter some comments describing your changes:

```
[> Added new dictionary: secret_words
```

Changes committed: Thu Feb 03 13:00:19 2005 PST

```
mail3.example.com>
```

## ディクショナリのインポート

次の例では、`dictionaryconfig` コマンドを使用して、`profanity.txt` テキストファイル内の 84 個の用語を Unicode (UTF-8) としてディクショナリ `profanity` にインポートします。

**表 3-134 dictionaryconfig : ディクショナリのインポート**

```
mail3.example.com> dictionaryconfig
```

No content dictionaries have been defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new content dictionary.

```
[> new
```

Enter a name for this content dictionary.

```
[> profanity
```

**表 3-134 dictionaryconfig : ディクショナリのインポート (続き)**

```
Do you wish to specify a file for import? [N]> y
```

```
Enter the name of the file to import:
```

```
[ ]> profanity.txt
```

```
Enter the encoding to use for the imported file:
```

1. US-ASCII
2. Unicode (UTF-8)
3. Unicode (UTF-16)
4. Western European/Latin-1 (ISO 8859-1)
5. Western European/Latin-1 (Windows CP1252)
6. Traditional Chinese (Big 5)
7. Simplified Chinese (GB 2312)
8. Simplified Chinese (HZ GB 2312)
9. Korean (ISO 2022-KR)
10. Korean (KS-C-5601/EUC-KR)
11. Japanese (Shift-JIS (X0123))
12. Japanese (ISO-2022-JP)
13. Japanese (EUC)

```
[2]>
```

**表 3-134 dictionaryconfig : ディクショナリのインポート (続き)**

```
84 entries imported successfully.

Currently configured content dictionaries:

1. profanity

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.

[]>

mail3.example.com> commit
```

## ディクショナリのエクスポート

次の例では、dictionaryconfig コマンドを使用して、secret\_words ディクショナリをテキスト ファイル secret\_words\_export.txt にエクスポートします。

**表 3-135 dictionaryconfig : ディクショナリのエクスポート**

```
mail3.example.com> dictionaryconfig

Currently configured content dictionaries:

1. secret_words
```

**表 3-135 dictionaryconfig : ディクショナリのエクスポート (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.

```
[> edit
```

Enter the number of the dictionary you want to edit:

1. secret\_words

```
[> 1
```

Choose the operation you want to perform on dictionary 'secret\_words':

- NEW - Create new entries in this dictionary.
- IMPORT - Replace all of the words in this dictionary.
- EXPORT - Export the words in this dictionary.
- DELETE - Remove an entry in this dictionary.
- PRINT - List the entries in this dictionary.
- SETTINGS - Change settings for this dictionary.

```
[> export
```

**表 3-135 dictionaryconfig : ディクショナリのエクスポート (続き)**

Enter a name for the exported file:

```
[> secret_words_export.txt
```

```
mail3.example.com> dictionaryconfig
```

Currently configured content dictionaries:

```
1. secret_words
```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.

```
[> edit
```

Enter the number of the dictionary you want to edit:

```
1. secret_words
```

```
[> 1
```

**表 3-135 dictionaryconfig : ディクショナリのエクスポート (続き)**

```
Choose the operation you want to perform on dictionary 'secret_words':  
  
- NEW - Create new entries in this dictionary.  
  
- IMPORT - Replace all of the words in this dictionary.  
  
- EXPORT - Export the words in this dictionary.  
  
- DELETE - Remove an entry in this dictionary.  
  
- PRINT - List the entries in this dictionary.  
  
- SETTINGS - Change settings for this dictionary.  
  
[> export  
  
Enter a name for the exported file:  
  
[> secret_words_export.txt
```

## exceptionconfig

### 説明

exceptionconfig コマンドを CLI で使用することにより、ドメイン例外テーブルを作成できます。この例では、電子メール アドレス「admin@zzzaazz.com」をドメイン例外テーブルに追加し、ポリシーを「Allow」に設定します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-136**      **exceptionconfig**

```
mail3.example.com> exceptionconfig
```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new domain exception table entry

```
[> new
```

Enter a domain, sub-domain, user, or email address for which you wish to provide an exception:

```
[> mail.partner.com
```

Any of the following passes:

- @[IP address]

Matches any email address with this IP address.

- @domain

Matches any email address with this domain.

- @.partial.domain

Matches any email address domain ending in this domain.

- user@

Matches any email address beginning with user@.

- user@domain

**表 3-136      exceptionconfig (続き)**

Matches entire email address.

Enter a domain, sub-domain, user, or email address for which you wish to provide an exception:

```
[ ]> admin@zzzaazzz.com
```

Choose a policy for this domain exception:

1. Allow
2. Reject

```
[1]> 1
```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new domain exception table entry
- EDIT - Edit a domain exception table entry
- DELETE - Delete a domain exception table entry
- PRINT - Print all domain exception table entries
- SEARCH - Search domain exception table
- CLEAR - Clear all domain exception entries

```
[ ]>
```

# filters

## 説明

メッセージ処理オプションを設定します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

この例では、`filter` コマンドを使用して 3 つの新しいフィルタを作成します。

- 最初のフィルタの名前は、**big\_messages** です。これは `body-size` ルールを使用して、**10 MB** より大きいメッセージをドロップします。
- 2 番目のフィルタの名前は、**no\_mp3s** です。これは `attachment-filename` ルールを使用して、`.mp3` ファイル拡張子が付いた添付ファイルを含むメッセージをドロップします。
- 3 番目のフィルタの名前は、**mailfrompm** です。これは `mail-from` ルールを使用して、`postmaster@example.com` からのメールをすべて調べ、`administrator@example.com` のブラインド カーボン コピーを作成します。

`filter -> list` サブコマンドを使用し、フィルタのリストを表示して、フィルタがアクティブで有効であることを確認します。次に、`move` サブコマンドを使用して、最初と最後のフィルタの位置を入れ替えます。最後に、変更を確定してフィルタを有効にします。

**表 3-137**          **filters**

```
mail3.example.com> filters
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

### 表 3-137 filters (続き)

```
- NEW - Create a new filter.
- IMPORT - Import a filter script from a file.

[ ]> new

Enter filter script. Enter '.' on its own line to end.

big_messages:

    if (body-size >= 10M) {
        drop();
    }
.

1 filters added.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new filter.
- DELETE - Remove a filter.
- IMPORT - Import a filter script from a file.
- EXPORT - Export filters to a file
- MOVE - Move a filter to a different position.
- SET - Set a filter attribute.
- LIST - List the filters.
- DETAIL - Get detailed information on the filters.
```

- LOGCONFIG - Configure log subscriptions used by filters.

- ROLLOVERNOW - Roll over a filter log file.

[> **new**

Enter filter script. Enter '.' on its own line to end.

**no\_mp3s:**

```
    if (attachment-filename == '\\.mp3$') {  
        drop();  
    }
```

.

1 filters added.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new filter.

- DELETE - Remove a filter.

- IMPORT - Import a filter script from a file.

- EXPORT - Export filters to a file

- MOVE - Move a filter to a different position.

- SET - Set a filter attribute.

- LIST - List the filters.

- DETAIL - Get detailed information on the filters.

- LOGCONFIG - Configure log subscriptions used by filters.

### 表 3-137 filters (続き)

- ROLLOVERNOW - Roll over a filter log file.

```
[> new
```

Enter filter script. Enter '.' on its own line to end.

```
mailfrompm:
```

```
    if (mail-from == "^postmaster$")
        { bcc ("administrator@example.com");}
```

```
.
```

```
1 filters added.
```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new filter.
- DELETE - Remove a filter.
- IMPORT - Import a filter script from a file.
- EXPORT - Export filters to a file
- MOVE - Move a filter to a different position.
- SET - Set a filter attribute.
- LIST - List the filters.
- DETAIL - Get detailed information on the filters.
- LOGCONFIG - Configure log subscriptions used by filters.
- ROLLOVERNOW - Roll over a filter log file.

表 3-137 filters (続き)

```
[ ]> list
```

## policyconfig

### 説明

受信者単位または送信者ベースのポリシーを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

この例では、`policyconfig -> edit -> antis spam` サブコマンドを使用して、デフォルトの着信メール ポリシーの **IronPort Anti-Spam** 設定を編集します。（これと同じ設定が電子メール セキュリティ マネージャ機能の GUI にもあります）。

- まず、スパムとして陽性判定されたメッセージはアーカイブの対象から除外され、ドロップされます。
- スパムの疑いがあるメッセージはアーカイブ対象となります。このようなメッセージは、`quarantine.example.com` というサーバにインストールされた **IronPort** スпам隔離にも送信されます。件名行の先頭にテキスト `[quarantined: possible spam]` が追加され、このような疑わしいメッセージには `x-quarantined: true` という特別なヘッダーが追加されます。このシナリオでは、管理者およびエンドユーザは隔離でないかどうかを確認でき、管理者は必要に応じて疑わしいスパムのしきい値を調整できます。
- 不要なマーケティング メッセージは、件名行の先頭にテキスト `[MARKETING]` が追加された状態で配信されます。

最後に、変更を確定します。



(注)

発信メールポリシーで DLP ポリシーをイネーブルにする例については、[表 3-144 \(P.3-414\)](#) を参照してください。

### 表 3-138 policyconfig : デフォルトの Anti-Spam 設定の編集

```
mail3.example.com> policyconfig
```

```
Would you like to configure Incoming or Outgoing Mail Policies?
```

```
1. Incoming
```

```
2. Outgoing
```

```
[1]> 1
```

```
Incoming Mail Policy Configuration
```

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Content Filter:	VOF:
-----	-----	-----	-----	-----
DEFAULT	IronPort	McAfee	Off	Enabled

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new policy
```

```
- EDIT - Edit an existing policy
```

```
- PRINT - Print all policies
```

**表 3-138**      **policyconfig : デフォルトの Anti-Spam 設定の編集 (続き)**

```
- FILTERS - Edit content filters

[> edit

Name:           Anti-Spam:      Anti-Virus: Content Filter: VOF:
-----
1. DEFAULT      IronPort      McAfee      Off          Enabled

Enter the name or number of the entry you wish to edit:

[> 1

Policy Summaries:

Anti-Spam: IronPort - Deliver, Prepend "[SPAM] " to Subject
Suspect-Spam: IronPort - Deliver, Prepend "[SUSPECTED SPAM] " to Subject
Anti-Virus: McAfee - Scan and Clean
Content Filters: Off (No content filters have been created)
Virus Outbreak Filters: Enabled. No bypass extensions.

Choose the operation you want to perform:

- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
```

**表 3-138      policyconfig : デフォルトの Anti-Spam 設定の編集 (続き)**

- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- VOF - Modify Virus Outbreak Filters policy

```
[> antispam
```

Choose the operation you want to perform:

- EDIT - Edit Anti-Spam policy
- DISABLE - Disable Anti-Spam policy (Disables all policy-related actions)

```
[> edit
```

Begin Anti-Spam configuration

Some messages will be positively identified as spam. Some messages will be

identified as suspected spam. You can set the IronPort Anti-Spam Suspected Spam Threshold below.

The following configuration options apply to messages POSITIVELY identified as spam:

What score would you like to set for the IronPort Anti-Spam spam threshold?

```
[90]> 90
```

1. DELIVER

**表 3-138**      **policyconfig : デフォルトの Anti-Spam 設定の編集 (続き)**

2. DROP

3. BOUNCE

4. IRONPORT QUARANTINE

What do you want to do with messages identified as spam?

[1]> **2**

Do you want to archive messages identified as spam? [N]>

Do you want to enable special treatment of suspected spam? [Y]> **y**

What score would you like to set for the IronPort Anti-Spam suspect spam threshold?

[50]> **50**

The following configuration options apply to messages identified as SUSPECTED spam:

1. DELIVER

2. DROP

3. BOUNCE

4. IRONPORT QUARANTINE

What do you want to do with messages identified as SUSPECTED spam?

[1]> **4**

**表 3-138**      **policyconfig : デフォルトの Anti-Spam 設定の編集 (続き)**

```
Do you want to archive messages identified as SUSPECTED spam? [N]> y
```

```
1. PREPEND
```

```
2. APPEND
```

```
3. NONE
```

```
Do you want to add text to the subject of messages identified as  
SUSPECTED spam?
```

```
[1]> 1
```

```
What text do you want to prepend to the subject?
```

```
[[SUSPECTED SPAM] ]> [quarantined: possible spam]
```

```
Do you want to add a custom header to messages identified as SUSPECTED  
spam? [N]> y
```

```
Enter the name of the header:
```

```
[ ]> X-quarantined
```

```
Enter the text for the content of the header:
```

```
[ ]> true
```

**表 3-138 policyconfig : デフォルトの Anti-Spam 設定の編集 (続き)**

```
Marketing email is normally legitimate email but sometimes undesirable.  
Do you want to enable special treatment of marketing messages? [N]> y
```

The following configuration options apply to messages identified as marketing messages:

1. DELIVER
2. DROP
3. BOUNCE
4. IRONPORT QUARANTINE

What do you want to do with messages identified as marketing messages?

```
[1]> 1
```

Do you want to archive messages identified as marketing messages? [N]>

1. PREPEND
2. APPEND
3. NONE

Do you want to add text to the subject of messages identified as marketing messages?

```
[1]> 1
```

What text do you want to prepend to the subject?

```
[[MARKETING] ]> [MARKETING]
```

**表 3-138      policyconfig : デフォルトの Anti-Spam 設定の編集 (続き)**

```
Do you want marketing messages sent to an external quarantine or  
alternate destination host? [N]> n
```

```
Do you want to add a custom header to messages identified as marketing  
messages? [N]> n
```

```
Do you want marketing messages sent to an alternate envelope recipient?  
[N]> n
```

```
Anti-Spam configuration complete
```

```
Policy Summaries:
```

```
Anti-Spam: IronPort - Drop
```

```
Suspect-Spam: IronPort - Quarantine - Archiving copies of the original  
message.
```

```
Marketing-Messages: IronPort - Deliver, Prepend "[MARKETING]" to Subject
```

```
Anti-Virus: McAfee - Scan and Clean
```

```
Content Filters: Off (No content filters have been created)
```

```
Virus Outbreak Filters: Enabled. No bypass extensions.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

**表 3-138**      **policyconfig : デフォルトの Anti-Spam 設定の編集 (続き)**

- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- VOF - Modify Virus Outbreak Filters policy

[ ]>

Incoming Mail Policy Configuration

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Content Filter:	VOF:
-----	-----	-----	-----	-----
DEFAULT	IronPort	McAfee	Off	Enabled

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- PRINT - Print all policies
- FILTERS - Edit content filters

[ ]>

mail3.example.com> **commit**

Please enter some comments describing your changes:

**表 3-138 policyconfig : デフォルトの Anti-Spam 設定の編集 (続き)**

```
[> configured anti-spam for Incoming Default Policy
```

```
Changes committed: Tue Nov 17 22:00:35 2009 GMT
```

次に、new サブコマンドを使用して、販売部とエンジニアリング部のユーザを対象として 2 つの新しいポリシーを追加し、それぞれに異なる電子メールセキュリティ設定を指定します。CLI では、ポリシーを作成するときにデフォルトとは異なる設定を指定できます。

まず、販売チームのポリシーを作成し、より厳しい Anti-Spam 設定を指定します。

**表 3-139 policyconfig : 販売チームのポリシーの作成**

```
Incoming Mail Policy Configuration
```

```
Name:           Anti-Spam:      Anti-Virus: Content Filter: VOF:
-----          -
DEFAULT         IronPort       McAfee         Off            Enabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- PRINT - Print all policies
- FILTERS - Edit content filters

```
[> new
```

**表 3-139 policyconfig : 販売チームのポリシーの作成 (続き)**

Enter the name for this policy:

```
[ ]> sales_team
```

Begin entering policy members. The following types of entries are allowed:

Username entries such as joe@, domain entries such as @example.com, sub-domain

entries such as @.example.com, LDAP group memberships such as ldap(Engineers)

Enter a member for this policy:

```
[ ]> ldap(sales)
```

Please select an LDAP group query:

1. PublicLDAP.ldapgroup

```
[1]> 1
```

Is this entry a recipient or a sender?

1. Recipient

2. Sender

```
[1]> 1
```

Add another member? [Y]> n

**表 3-139**      **policyconfig : 販売チームのポリシーの作成 (続き)**

Would you like to enable Anti-Spam support? [Y]> **y**

Use the policy table default? [Y]> **n**

Begin Anti-Spam configuration

Some messages will be positively identified as spam. Some messages will be

identified as suspected spam. You can set the IronPort Anti-Spam Suspected Spam Threshold below.

The following configuration options apply to messages POSITIVELY identified as spam:

What score would you like to set for the IronPort Anti-Spam spam threshold?

[90]> **90**

1. DELIVER
2. DROP
3. BOUNCE
4. IRONPORT QUARANTINE

What do you want to do with messages identified as spam?

[1]> **2**

**表 3-139**      **policyconfig : 販売チームのポリシーの作成 (続き)**

```
Do you want to archive messages identified as spam? [N]> n
```

```
Do you want to enable special treatment of suspected spam? [Y]> y
```

```
What score would you like to set for the IronPort Anti-Spam suspect spam  
threshold?
```

```
[50]> 50
```

```
The following configuration options apply to messages identified as  
SUSPECTED
```

```
spam:
```

1. DELIVER
2. DROP
3. BOUNCE
4. IRONPORT QUARANTINE

```
What do you want to do with messages identified as SUSPECTED spam?
```

```
[1]> 4
```

```
Do you want to archive messages identified as SUSPECTED spam? [N]> n
```

**表 3-139**      **policyconfig : 販売チームのポリシーの作成 (続き)**

1. PREPEND

2. APPEND

3. NONE

Do you want to add text to the subject of messages identified as  
SUSPECTED

spam?

[1]> **3**

Do you want to add a custom header to messages identified as SUSPECTED  
spam? [N]> **n**

Marketing email is normally legitimate email but sometimes undesirable.  
Do you

want to enable special treatment of marketing messages? [N]> **n**

Anti-Spam configuration complete

Would you like to enable Anti-Virus support? [Y]> **y**

Use the policy table default? [Y]> **y**

Would you like to enable Virus Outbreak Filters for this policy? [Y]> **y**

**表 3-139**      **policyconfig : 販売チームのポリシーの作成 (続き)**

Use the policy table default? [Y]> **y**

Incoming Mail Policy Configuration

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Content Filter:	VOF:
-----	-----	-----	-----	-----
sales_team	IronPort	Default	Default	Default
DEFAULT	IronPort	McAfee	Off	Enabled

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies

[ ]>

次に、エンジニアリング チーム（3 人の電子メール受信者）のポリシーを作成し、.dwg ファイルをウイルス感染フィルタ スキャンの対象外に指定します。

**表 3-140 policyconfig : エンジニアリング チームのポリシーの作成**

Incoming Mail Policy Configuration

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Content Filter:	VOF:
-----	-----	-----	-----	-----
sales_team	IronPort	Default	Default	Default
DEFAULT	IronPort	McAfee	Off	Enabled

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies

[> **new**

Enter the name for this policy:

[> **engineering**

**表 3-140**      **policyconfig : エンジニアリング チームのポリシーの作成 (続き)**

Begin entering policy members. The following types of entries are allowed:

Username entries such as joe@, domain entries such as @example.com,  
sub-domain entries such as @.example.com, LDAP group memberships such as  
ldap(Engineers)

Enter a member for this policy:

```
[> bob@example.com
```

Is this entry a recipient or a sender?

1. Recipient
2. Sender

```
[1]> 1
```

Add another member? [Y]> y

Enter a member for this policy:

```
[> fred@example.com
```

Is this entry a recipient or a sender?

1. Recipient
2. Sender

```
[1]> 1
```

**表 3-140**      **policyconfig : エンジニアリング チームのポリシーの作成 (続き)**

```
Add another member? [Y]> y
```

```
Enter a member for this policy:
```

```
[ ]> joe@example.com
```

```
Is this entry a recipient or a sender?
```

```
1. Recipient
```

```
2. Sender
```

```
[1]> 1
```

```
Add another member? [Y]> n
```

```
Would you like to enable Anti-Spam support? [Y]> y
```

```
Use the policy table default? [Y]> y
```

```
Would you like to enable Anti-Virus support? [Y]> y
```

```
Use the policy table default? [Y]> y
```

**表 3-140**      **policyconfig : エンジニアリング チームのポリシーの作成 (続き)**

```
Would you like to enable Virus Outbreak Filters for this policy? [Y]> y
```

```
Use the policy table default? [Y]> n
```

```
Would you like to modify the list of file extensions that bypass
```

```
Virus Outbreak Filters? [N]> y
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Add a file extension
```

```
[ ]> new
```

```
Enter a file extension:
```

```
[ ]> dwg
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Add a file extension
```

```
- DELETE - Delete a file extension
```

```
- PRINT - Display all file extensions
```

```
- CLEAR - Clear all file extensions
```

**表 3-140**      **policyconfig : エンジニアリング チームのポリシーの作成 (続き)**

```
[ ]> print
```

```
The following file extensions will bypass Virus Outbreak Filter processing:
```

```
dwg
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a file extension
- DELETE - Delete a file extension
- PRINT - Display all file extensions
- CLEAR - Clear all file extensions

```
[ ]>
```

```
Incoming Mail Policy Configuration
```

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Content Filter:	VOF:
-----	-----	-----	-----	-----
sales_team	IronPort	Default	Default	Default
engineering	Default	Default	Default	Enabled
DEFAULT	IronPort	McAfee	Off	Enabled

**表 3-140**      **policyconfig : エンジニアリング チームのポリシーの作成 (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
  - EDIT - Edit an existing policy
  - DELETE - Remove a policy
  - PRINT - Print all policies
  - SEARCH - Search for a policy by member
  - MOVE - Move the position of a policy
  - FILTERS - Edit content filters
  - CLEAR - Clear all policies
- [ ]>

次に、[受信メール概要ポリシー (Incoming Mail Overview policy) ] テーブルで使用する 3 つの新しいコンテンツ フィルタを作成します。

CLI では、policyconfig コマンドの filters サブコマンドは [受信コンテンツ フィルタ (Incoming Content Filters) ] GUI ページと同じ機能を持ちます。CLI でコンテンツ フィルタを作成するときには、save サブコマンドを使用してフィルタを保存し、policyconfig コマンドに戻る必要があります。

まず、scan\_for\_confidential コンテンツ フィルタを作成します。

**表 3-141**      **policyconfig : scan\_for\_confidential コンテンツ フィルタの作成**

Incoming Mail Policy Configuration

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Content Filter:	VOF:
-----	-----	-----	-----	-----
sales_team	IronPort	Default	Default	Default
engineering	Default	Default	Default	Enabled

**表 3-141**      **policyconfig : scan\_for\_confidential** コンテンツ フィルタの作成

DEFAULT	IronPort	McAfee	Off	Enabled
---------	----------	--------	-----	---------

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- MOVE - Move the position of a policy
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies

```
[> filters
```

No filters defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new filter

```
[> new
```

Enter a name for this filter:

**表 3-141**      **policyconfig : scan\_for\_confidential** コンテンツ フィルタの作成

```
[> scan_for_confidential
```

```
Enter a description or comment for this filter (optional):
```

```
[> scan all incoming mail for the string 'confidential'
```

```
Filter Name: scan_for_confidential
```

```
Conditions:
```

```
Always Run
```

```
Actions:
```

```
No actions defined yet.
```

```
Description:
```

```
scan all incoming mail for the string 'confidential'
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action

```
[> add
```

**表 3-141**      **policyconfig : scan\_for\_confidential コンテンツ フィルタの作成**

1. Condition

2. Action

[1]> **1**

1. Message Body Contains

2. Only Body Contains (Attachments are not scanned)

3. Message Body Size

4. Subject Header

5. Other Header

6. Attachment Contains

7. Attachment File Type

8. Attachment Name

9. Attachment MIME Type

10. Attachment Protected

11. Attachment Unprotected

12. Envelope Recipient Address

13. Envelope Recipient in LDAP Group

14. Envelope Sender Address

15. Envelope Sender in LDAP Group

16. Reputation Score

**表 3-141**      **policyconfig : scan\_for\_confidential** コンテンツ フィルタの作成

17. Remote IP

18. DKIM authentication result

19. SPF verification result

```
[1]> 1
```

Enter regular expression or smart identifier to search message contents for:

```
[> confidential
```

Threshold required for match:

```
[1]> 1
```

Filter Name: scan\_for\_confidential

Conditions:

```
body-contains("confidential", 1)
```

Actions:

No actions defined yet.

Description:

**表 3-141**      **policyconfig : scan\_for\_confidential コンテンツ フィルタの作成**

```
scan all incoming mail for the string 'confidential'
```

Choose the operation you want to perform:

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action

```
[> add
```

1. Condition
2. Action

```
[1]> 2
```

1. Bcc
2. Notify
3. Redirect To Alternate Email Address
4. Redirect To Alternate Host
5. Insert A Custom Header
6. Insert A Message Tag
7. Strip A Header
8. Send From Specific IP Interface

**表 3-141**      **policyconfig : scan\_for\_confidential** コンテンツ フィルタの作成

9. Drop Attachments By Content
  10. Drop Attachments By Name
  11. Drop Attachments By MIME Type
  12. Drop Attachments By File Type
  13. Drop Attachments By Size
  14. Send To System Quarantine
  15. Duplicate And Send To System Quarantine
  16. Add Log Entry
  17. Drop (Final Action)
  18. Bounce (Final Action)
  19. Skip Remaining Content Filters (Final Action)
  20. Encrypt (Final Action)
  21. Encrypt on Delivery
  22. Skip Virus Outbreak Filters check
- [1]> **1**

Enter the email address(es) to send the Bcc message to:

[ ]> **hr@example.com**

Do you want to edit the subject line used on the Bcc message? [N]> **y**

**表 3-141          policyconfig : scan\_for\_confidential コンテンツ フィルタの作成**

Enter the subject to use:

```
[$Subject]> [message matched confidential filter]
```

Do you want to edit the return path of the Bcc message? [N]> n

Filter Name: scan\_for\_confidential

Conditions:

```
body-contains("confidential", 1)
```

Actions:

```
bcc ("hr@example.com", "[message matched confidential filter]")
```

Description:

```
scan all incoming mail for the string 'confidential'
```

Choose the operation you want to perform:

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action

**表 3-141**      **policyconfig : scan\_for\_confidential** コンテンツ フィルタの作成

- SAVE - Save filter

```
[> add
```

```
1. Condition
```

```
2. Action
```

```
[1]> 2
```

```
1. Bcc
```

```
2. Notify
```

```
3. Redirect To Alternate Email Address
```

```
4. Redirect To Alternate Host
```

```
5. Insert A Custom Header
```

```
6. Insert A Message Tag
```

```
7. Strip A Header
```

```
8. Send From Specific IP Interface
```

```
9. Drop Attachments By Content
```

```
10. Drop Attachments By Name
```

```
11. Drop Attachments By MIME Type
```

```
12. Drop Attachments By File Type
```

```
13. Drop Attachments By Size
```

```
14. Send To System Quarantine
```

**表 3-141          policyconfig : scan\_for\_confidential コンテンツ フィルタの作成**

```
15. Duplicate And Send To System Quarantine
16. Add Log Entry
17. Drop (Final Action)
18. Bounce (Final Action)
19. Skip Remaining Content Filters (Final Action)
20. Encrypt (Final Action)
21. Encrypt on Delivery
22. Skip Virus Outbreak Filters check

[1]> 14
```

```
1. Policy
```

```
[1]> 1
```

```
Filter Name: scan_for_confidential
```

```
Conditions:
```

```
body-contains("confidential", 1)
```

```
Actions:
```

```
bcc ("hr@example.com", "[message matched confidential filter]")
```

```
quarantine ("Policy")
```

**表 3-141**      **policyconfig : scan\_for\_confidential** コンテンツ フィルタの作成

Description:

```
scan all incoming mail for the string 'confidential'
```

Choose the operation you want to perform:

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action
- MOVE - Reorder the conditions or actions
- SAVE - Save filter

```
[ ]> save
```

Defined filters:

```
1. scan_for_confidential: scan all incoming mail for the string  
'confidential'
```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new filter
- EDIT - Edit an existing filter
- DELETE - Delete a filter

**表 3-141**            **policyconfig : scan\_for\_confidential コンテンツ フィルタの作成**

```
- PRINT - Print all filters  
  
- RENAME - Rename a filter  
  
[]>
```

コード例 3-142 に、次の 2 つのコンテンツ フィルタの作成方法を示します。  
(CLI ではエンベロープ送信者およびエンベロープ受信者の変数を指定できない  
ことに注意してください)。

**表 3-142**            **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成**

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new filter  
  
- EDIT - Edit an existing filter  
  
- DELETE - Delete a filter  
  
- PRINT - Print all filters  
  
- RENAME - Rename a filter
```

```
[]> new
```

```
Enter a name for this filter:
```

```
[]> no_mp3s
```

```
Enter a description or comment for this filter (optional):
```

```
[]> strip all MP3 attachments
```

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

Filter Name: no\_mp3s

Conditions:

Always Run

Actions:

No actions defined yet.

Description:

strip all MP3 attachments

Choose the operation you want to perform:

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action

[ ]> **add**

1. Condition

2. Action

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

[1]> 2

1. Bcc
2. Notify
3. Redirect To Alternate Email Address
4. Redirect To Alternate Host
5. Insert A Custom Header
6. Insert A Message Tag
7. Strip A Header
8. Send From Specific IP Interface
9. Drop Attachments By Content
10. Drop Attachments By Name
11. Drop Attachments By MIME Type
12. Drop Attachments By File Type
13. Drop Attachments By Size
14. Send To System Quarantine
15. Duplicate And Send To System Quarantine
16. Add Log Entry
17. Drop (Final Action)
18. Bounce (Final Action)

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

19. Skip Remaining Content Filters (Final Action)

20. Encrypt (Final Action)

21. Encrypt on Delivery

22. Skip Virus Outbreak Filters check

[1]> **12**

Enter the file type to strip:

[ ]> **mp3**

Do you want to enter specific text to use in place of any stripped  
attachments?[N]> **n**

Filter Name: no\_mp3s

Conditions:

Always Run

Actions:

drop-attachments-by-filetype("mp3")

Description:

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

```
strip all MP3 attachments
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- SAVE - Save filter

```
[ ]> save
```

```
Defined filters:
```

1. scan\_for\_confidential: scan all incoming mail for the string 'confidential'
2. no\_mp3s: strip all MP3 attachments

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new filter
- EDIT - Edit an existing filter
- DELETE - Delete a filter
- PRINT - Print all filters
- MOVE - Reorder a filter
- RENAME - Rename a filter

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

```
[> new
```

```
Enter a name for this filter:
```

```
[> ex_employee
```

```
Enter a description or comment for this filter (optional):
```

```
[> bounce messages intended for Doug
```

```
Filter Name:  ex_employee
```

```
Conditions:
```

```
Always Run
```

```
Actions:
```

```
No actions defined yet.
```

```
Description:
```

```
bounce messages intended for Doug
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action

```
[>> add
```

```
1. Condition
```

```
2. Action
```

```
[1]> 1
```

```
1. Message Body Contains
```

```
2. Only Body Contains (Attachments are not scanned)
```

```
3. Message Body Size
```

```
4. Subject Header
```

```
5. Other Header
```

```
6. Attachment Contains
```

```
7. Attachment File Type
```

```
8. Attachment Name
```

```
9. Attachment MIME Type
```

```
10. Attachment Protected
```

```
11. Attachment Unprotected
```

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

- 12. Envelope Recipient Address
- 13. Envelope Recipient in LDAP Group
- 14. Envelope Sender Address
- 15. Envelope Sender in LDAP Group
- 16. Reputation Score
- 17. Remote IP
- 18. DKIM authentication result
- 19. SPF verification result

```
[1]> 12
```

```
Enter regular expression to search Recipient address for:
```

```
[> doug
```

```
Filter Name:  ex_employee
```

```
Conditions:
```

```
rcpt-to == "doug"
```

```
Actions:
```

```
No actions defined yet.
```

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

Description:

bounce messages intended for Doug

Choose the operation you want to perform:

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action

[ ]> **add**

1. Condition

2. Action

[1]> **2**

1. Bcc

2. Notify

3. Redirect To Alternate Email Address

4. Redirect To Alternate Host

5. Insert A Custom Header

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

```
6. Insert A Message Tag
7. Strip A Header
8. Send From Specific IP Interface
9. Drop Attachments By Content
10. Drop Attachments By Name
11. Drop Attachments By MIME Type
12. Drop Attachments By File Type
13. Drop Attachments By Size
14. Send To System Quarantine
15. Duplicate And Send To System Quarantine
16. Add Log Entry
17. Drop (Final Action)
18. Bounce (Final Action)
19. Skip Remaining Content Filters (Final Action)
20. Encrypt (Final Action)
21. Encrypt on Delivery
22. Skip Virus Outbreak Filters check

[1]> 2
```

```
Enter the email address(es) to send the notification to:
```

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

```
[> joe@example.com
```

```
Do you want to edit the subject line used on the notification? [N]> y
```

```
Enter the subject to use:
```

```
[> message bounced for ex-employee of example.com
```

```
Do you want to edit the return path of the notification? [N]> n
```

```
Do you want to include a copy of the original message as an attachment to the
```

```
notification? [N]> y
```

```
Filter Name:  ex_employee
```

```
Conditions:
```

```
rcpt-to == "doug"
```

```
Actions:
```

```
notify-copy ("joe@example.com", "message bounced for ex-employee of  
example.com")
```

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

Description:

bounce messages intended for Doug

Choose the operation you want to perform:

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action
- SAVE - Save filter

[> **add**

1. Condition

2. Action

[1]> **2**

1. Bcc

2. Notify

3. Redirect To Alternate Email Address

4. Redirect To Alternate Host

**表 3-142      policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

5. Insert A Custom Header
  6. Insert A Message Tag
  7. Strip A Header
  8. Send From Specific IP Interface
  9. Drop Attachments By Content
  10. Drop Attachments By Name
  11. Drop Attachments By MIME Type
  12. Drop Attachments By File Type
  13. Drop Attachments By Size
  14. Send To System Quarantine
  15. Duplicate And Send To System Quarantine
  16. Add Log Entry
  17. Drop (Final Action)
  18. Bounce (Final Action)
  19. Skip Remaining Content Filters (Final Action)
  20. Encrypt (Final Action)
  21. Encrypt on Delivery
  22. Skip Virus Outbreak Filters check
- [1]> **18**

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee  
の作成 (続き)**

Filter Name: ex\_employee

Conditions:

```
rcpt-to == "doug"
```

Actions:

```
notify-copy ("joe@example.com", "message bounced for ex-employee of  
example.com")
```

```
bounce ()
```

Description:

```
bounce messages intended for Doug
```

Choose the operation you want to perform:

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action
- SAVE - Save filter

```
[ ]> save
```

**表 3-142**      **policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee の作成 (続き)**

Defined filters:

1. scan\_for\_confidential: scan all incoming mail for the string 'confidential'
2. no\_mp3s: strip all MP3 attachments
3. ex\_employee: bounce messages intended for Doug

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new filter
  - EDIT - Edit an existing filter
  - DELETE - Delete a filter
  - PRINT - Print all filters
  - MOVE - Reorder a filter
  - RENAME - Rename a filter
- [ ]>

Incoming Mail Policy Configuration

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Content Filter:	VOF:
-----	-----	-----	-----	-----
sales_team	IronPort	Default	Default	Default
engineering	Default	Default	Default	Enabled

**表 3-142 policyconfig : コンテンツ フィルタ no\_mp3s および ex\_employee の作成 (続き)**

```
DEFAULT          IronPort          McAfee           Off              Enabled
```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- MOVE - Move the position of a policy
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies

[ ]>

コード例 3-143 に、もう一度ポリシーをイネーブルにして一部のポリシーのコンテンツ フィルタだけをイネーブルにする方法を示します。

**表 3-143 policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化**

Incoming Mail Policy Configuration

```
Name:           Anti-Spam:      Anti-Virus: Content Filter: VOF:
-----
sales_team      IronPort       Default       Default       Default
```

**表 3-143 policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (続き)**

engineering	Default	Default	Default	Enabled
DEFAULT	IronPort	McAfee	Off	Enabled

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- MOVE - Move the position of a policy
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies

[ ]> edit

Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Content Filter: VOF:

-----

1. sales_team	IronPort	Default	Default	Default
2. engineering	Default	Default	Default	Enabled

**表 3-143**      **policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (続き)**

```
3. DEFAULT            IronPort            McAfee            Off            Enabled
```

```
Enter the name or number of the entry you wish to edit:
```

```
[> 3
```

```
Policy Summaries:
```

```
Anti-Spam: IronPort - Drop
```

```
Suspect-Spam: IronPort - Quarantine - Archiving copies of the original message.
```

```
Marketing-Messages: IronPort - Deliver, Prepend "[MARKETING]" to Subject
```

```
Anti-Virus: McAfee - Scan and Clean
```

```
Content Filters: Off
```

```
Virus Outbreak Filters: Enabled. No bypass extensions.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- VOF - Modify Virus Outbreak Filters policy
- FILTERS - Modify filters

```
[> filters
```

**表 3-143**      **policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- ENABLE - Enable Content Filters policy

[> enable

1.            scan\_for\_confidential

2.            no\_mp3s

3.            ex\_employee

Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:

[> 1

1. Active scan\_for\_confidential

2.            no\_mp3s

3.            ex\_employee

Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:

[> 2

1. Active scan\_for\_confidential

2. Active no\_mp3s

**表 3-143**      **policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (続き)**

3.            ex\_employee

Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:

[ ]> 3

1. Active scan\_for\_confidential

2. Active no\_mp3s

3. Active ex\_employee

Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:

[ ]>

Policy Summaries:

Anti-Spam: IronPort - Drop

Suspect-Spam: IronPort - Quarantine - Archiving copies of the original message.

Marketing-Messages: IronPort - Deliver, Prepend "[MARKETING]" to Subject

Anti-Virus: McAfee - Scan and Clean

Content Filters: Enabled. Filters: scan\_for\_confidential, no\_mp3s, ex\_employee

Virus Outbreak Filters: Enabled. No bypass extensions.

Choose the operation you want to perform:

**表 3-143**      **policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (続き)**

- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- VOF - Modify Virus Outbreak Filters policy
- FILTERS - Modify filters

[1]>

Incoming Mail Policy Configuration

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Content Filter:	VOF:
-----	-----	-----	-----	-----
sales_team	IronPort	Default	Default	Default
engineering	Default	Default	Default	Enabled
DEFAULT	IronPort	McAfee	Enabled	Enabled

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member

**表 3-143**      **policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (続き)**

```
- MOVE - Move the position of a policy

- FILTERS - Edit content filters

- CLEAR - Clear all policies

[> edit

      Name:           Anti-Spam:      Anti-Virus: Content Filter: VOF:
      -----
1. sales_team      IronPort      Default      Default      Default
2. engineering     Default      Default      Default      Enabled
3. DEFAULT         IronPort      McAfee       Enabled      Enabled

Enter the name or number of the entry you wish to edit:

[> 2

Policy Summaries:

Anti-Spam: Default

Anti-Virus: Default

Content Filters: Default
```

**表 3-143**      **policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (続き)**

```
Virus Outbreak Filters: Enabled. Bypass extensions: dwg
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NAME - Change name of policy
- NEW - Add a new member
- DELETE - Remove a member
- PRINT - Print policy members
- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- VOF - Modify Virus Outbreak Filters policy
- FILTERS - Modify filters

```
[> filters
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- DISABLE - Disable Content Filters policy (Disables all policy-related actions)
- ENABLE - Enable Content Filters policy

```
[> enable
```

**表 3-143**            **policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (続き)**

```
1.          scan_for_confidential
```

```
2.          no_mp3s
```

```
3.          ex_employee
```

```
Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:
```

```
[ ]> 1
```

```
1. Active scan_for_confidential
```

```
2.          no_mp3s
```

```
3.          ex_employee
```

```
Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:
```

```
[ ]> 3
```

```
1. Active scan_for_confidential
```

```
2.          no_mp3s
```

```
3. Active ex_employee
```

```
Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:
```

```
[ ]>
```

```
Policy Summaries:
```

**表 3-143**      **policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (続き)**

```
Anti-Spam: Default

Anti-Virus: Default

Content Filters: Enabled. Filters: scan_for_confidential, ex_employee

Virus Outbreak Filters: Enabled. Bypass extensions: dwg

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change name of policy

- NEW - Add a new member

- DELETE - Remove a member

- PRINT - Print policy members

- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy

- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy

- VOF - Modify Virus Outbreak Filters policy

- FILTERS - Modify filters

[]>

Incoming Mail Policy Configuration

Name:           Anti-Spam:       Anti-Virus: Content Filter: VOF:
-----
sales_team      IronPort           Default       Default       Default
```

**表 3-143**      **policyconfig 0 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (続き)**

engineering	Default	Default	Enabled	Enabled
DEFAULT	IronPort	McAfee	Enabled	Enabled

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- MOVE - Move the position of a policy
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies

[1]>



**(注)**

この CLI には、個々のポリシーに新しいコンテンツ フィルタを追加する機能はありません。filters サブコマンドでは、policyconfig コマンドの 1 つのサブセクションからすべてのコンテンツ フィルタを管理することになります。そのため、この例では drop\_large\_attachments の追加を省略しています。

表 3-144 に、デフォルトの発信ポリシーで DLP ポリシーをイネーブルにする方法を示します。

**表 3-144**      **デフォルトの発信ポリシーの DLP ポリシー**

```
mail3.example.com> policyconfig
```

```
Would you like to configure Incoming or Outgoing Mail Policies?
```

```
1. Incoming
```

```
2. Outgoing
```

```
[1]> 2
```

```
Outgoing Mail Policy Configuration
```

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Content Filter:	VOF:	DLP:
-----	-----	-----	-----	-----	-----
DEFAULT	Off	Off	Off	Off	Off

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new policy
```

```
- EDIT - Edit an existing policy
```

```
- PRINT - Print all policies
```

```
- FILTERS - Edit content filters
```

```
[> edit
```

**表 3-144**      **デフォルトの発信ポリシーの DLP ポリシー (続き)**

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Content Filter:	VOF:	DLP:
-----					
1. DEFAULT	Off	Off	Off	Off	Off

Enter the name or number of the entry you wish to edit:

[ ]> 1

Policy Summaries:

Anti-Spam: Off

Anti-Virus: Off

Content Filters: Off (No content filters have been created)

Virus Outbreak Filters: Off

DLP: Off

Choose the operation you want to perform:

- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- VOF - Modify Virus Outbreak Filters policy

**表 3-144**      **デフォルトの発信ポリシーの DLP ポリシー (続き)**

- DLP - Modify DLP policy

```
[> dlp
```

Choose the operation you want to perform:

- ENABLE - Enable DLP policy

```
[> enable
```

1.            California AB-1298
2.            Suspicious Transmission - Zip Files
3.            Restricted Files

Enter the policy to toggle on/off, or press enter to finish:

```
[> 1
```

1. Active California AB-1298
2.            Suspicious Transmission - Zip Files
3.            Restricted Files

Enter the policy to toggle on/off, or press enter to finish:

```
[> 2
```

1. Active California AB-1298

**表 3-144**      **デフォルトの発信ポリシーの DLP ポリシー (続き)**

2. Active Suspicious Transmission - Zip Files

3.            Restricted Files

Enter the policy to toggle on/off, or press enter to finish:

[ ]> 3

1. Active California AB-1298

2. Active Suspicious Transmission - Zip Files

3. Active Restricted Files

Enter the policy to toggle on/off, or press enter to finish:

[ ]>

Policy Summaries:

Anti-Spam: Off

Anti-Virus: Off

Content Filters: Off (No content filters have been created)

Virus Outbreak Filters: Off

DLP: Enabled. Policies: California AB-1298, Suspicious Transmission - Zip  
Files, Restricted Files

Choose the operation you want to perform:

**表 3-144**      **デフォルトの発信ポリシーの DLP ポリシー (続き)**

- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- VOF - Modify Virus Outbreak Filters policy
- DLP - Modify DLP policy

[ ]>

## quarantineconfig

### 説明

システムの隔離を設定します。

### 使用方法

**コミット:** このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-145 quarantineconfig**

```
mail3.example.com> quarantineconfig
```

```
Currently configured quarantines:
```

#	Quarantine Name	Size (MB)	% full	Messages	Retention	Policy
1	Outbreak	3,072	0.0	1	12h	Release
2	Policy	1,024	0.1	497	10d	Delete
3	Virus	2,048	empty	0	30d	Delete

```
2,048 MB available for quarantine allocation.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new quarantine.
- EDIT - Modify a quarantine.
- DELETE - Remove a quarantine.
- VOFMANAGE - Manage the Virus Outbreak Filters quarantine.

```
[> new
```

```
Please enter the name for this quarantine:
```

```
[> HRQuarantine
```

**表 3-145 quarantineconfig (続き)**

Please enter the maximum size for this quarantine in MB:

```
[ ]> 1024
```

Retention period for this quarantine. (Use 'd' for days or 'h' for hours.):

```
[ ]> 15 d
```

1. Delete

2. Release

Enter default action for quarantine:

```
[1]> 2
```

Do you want to modify the subject of messages that are released because "HRQuarantine" becomes full? [N]>

Do you want to give any users in the Operators/Guests groups access to this quarantine? [N]> **y**

No users in the Operators/Guests groups have access to "HRQuarantine"

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new user.

**表 3-145 quarantineconfig (続き)**

```
[> new
```

```
1. hrquar
```

```
Select a user name or number
```

```
[> 1
```

```
Users in the Operators/Guests groups with access to "HRQuarantine":
```

```
1. hrquar
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- DELETE - Delete a user.
```

```
[>
```

```
Currently configured quarantines:
```

#	Quarantine Name	Size (MB)	% full	Messages	Retention	Policy
1	HRQuarantine	1,024	N/A	N/A	15d	Release
2	Outbreak	3,072	0.0	1	12h	Release
3	Policy	1,024	0.1	497	10d	Delete
4	Virus	2,048	empty	0	30d	Delete

### 表 3-145 quarantineconfig (続き)

(N/A: Quarantine contents is not available at this time.)

1,024 MB available for quarantine allocation.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new quarantine.
- EDIT - Modify a quarantine.
- DELETE - Remove a quarantine.
- VOFMANAGE - Manage the Virus Outbreak Filters quarantine.

[ ]>

mail3.example.com> **commit**

## ユーザと隔離

ユーザの追加に関する質問に「y」つまり「はい」と答えると、ユーザ管理が開始され、ユーザリストを管理できます。これにより、隔離設定に関する他の質問に答えなくても隔離に対して複数のユーザを追加または削除できます。ユーザ管理セクションから出て隔離の設定を続行するには、空のプロンプト ([ ]>) で Enter を押します。



(注)

---

システム上にゲスト ユーザまたはオペレータ ユーザが作成されている場合は、ユーザへの隔離に対するアクセスの付与だけが要求されます。

---

隔離のユーザ リストには、Operators グループまたは Guests グループに属するユーザだけが含まれます。Administrators グループ内のユーザは、常に隔離に対してすべてのアクセス権限を持ちます。ユーザ リストを管理するときには、す

すべてのオペレータ/ゲストユーザがすでに隔離のユーザリストに含まれている場合、NEW コマンドは使用不可となります。同様に、削除の対象となるユーザが存在しない場合、DELETE コマンドは使用不可となります。

## scanconfig

### 説明

添付ファイルのスキャン ポリシーを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### 例

この例では、scanconfig コマンドで以下のパラメータを設定します。

- video/\*、audio/\*、image/\* の MIME タイプはスキップされます（コンテンツはスキャンされません）。
- ネストされた（再帰的な）アーカイブ添付ファイルは、最大 10 レベルまでスキャンされます。（デフォルトは 5 レベル）。
- スキャンされる添付ファイルの最大サイズは、25 MB です。これより大きいファイルはすべてスキップされます。（デフォルトは 5 MB）。
- ドキュメントのメタデータがスキャンされます。
- 添付ファイルのスキャンのタイムアウトは、180 秒に設定されます。
- スキャンされなかった添付ファイルは、検索パターンに一致しないと見なされます。（デフォルトの動作）。
- プレーン テキストの本文や MIME タイプの plain/text または plain/html 部分に何も指定されていない場合は、ASCII エンコードが使用されます。



(注)

---

[assume the attachment matches the search pattern] を「Y」に設定すると、スキャンできないメッセージはメッセージフィルタ ルールによって true と評価されます。これにより、ディクショナリに一致しないメッセージの隔離など、予想外の動作が発生することがあります。このようなメッセージは、コンテンツが正しくスキャンできないという理由で隔離されていました。この設定は RSA Email DLP スキャンには適用されません。

---

### 表 3-146 Scan Config : スキャン動作の設定

```
mail3.example.com> scanconfig
```

```
There are currently 5 attachment type mappings configured to be SKIPPED.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new entry.
- DELETE - Remove an entry.
- SETUP - Configure scanning behavior.
- IMPORT - Load mappings from a file.
- EXPORT - Save mappings to a file.
- PRINT - Display the list.
- CLEAR - Remove all entries.
- SMIME - Configure S/MIME unpacking.

```
[ ]> setup
```

1. Scan only attachments with MIME types or fingerprints in the list.
2. Skip attachments with MIME types or fingerprints in the list.

```
Choose one:
```

```
[2]> 2
```

**表 3-146 Scan Config : スキャン動作の設定 (続き)**

Enter the maximum depth of attachment recursion to scan:

[5]> **10**

Enter the maximum size of attachment to scan:

[5242880]> **10m**

Do you want to scan attachment metadata? [Y]> **y**

Enter the attachment scanning timeout (in seconds):

[30]> **180**

If a message has attachments that were not scanned for any reason (e.g. because of size, depth limits, or scanning timeout), assume the attachment matches the search pattern? [N]> **n**

If a message could not be deconstructed into its component parts in order to remove specified attachments, the system should:

1. Deliver
2. Bounce
3. Drop

**表 3-146**      **Scan Config : スキャン動作の設定 (続き)**

[1]>

Configure encoding to use when none is specified for plain body text or anything with MIME type plain/text or plain/html.

1. US-ASCII
2. Unicode (UTF-8)
3. Unicode (UTF-16)
4. Western European/Latin-1 (ISO 8859-1)
5. Western European/Latin-1 (Windows CP1252)
6. Traditional Chinese (Big 5)
7. Simplified Chinese (GB 2312)
8. Simplified Chinese (HZ GB 2312)
9. Korean (ISO 2022-KR)
10. Korean (KS-C-5601/EUC-KR)
11. Japanese (Shift-JIS (X0123))
12. Japanese (ISO-2022-JP)
13. Japanese (EUC)

[1]> **1**

Scan behavior changed.

### 表 3-146 Scan Config : スキャン動作の設定 (続き)

There are currently 5 attachment type mappings configured to be SKIPPED.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new entry.
- DELETE - Remove an entry.
- SETUP - Configure scanning behavior.
- IMPORT - Load mappings from a file.
- EXPORT - Save mappings to a file.
- PRINT - Display the list.
- CLEAR - Remove all entries.
- SMIME - Configure S/MIME unpacking.

```
[>> print
```

1. Fingerprint Image
2. Fingerprint Media
3. MIME Type audio/\*
4. MIME Type image/\*
5. MIME Type video/\*

```
>
```

# stripheaders

## 説明

削除するメッセージヘッダーのリストを定義します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-147 stripheaders**

```
mail3.example.com> stripheaders
```

```
Not currently stripping any headers.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Set message headers to remove.
```

```
[> setup
```

```
Enter the list of headers you wish to strip from the messages before they  
are delivered. Separate multiple headers with commas.
```

```
[> Delivered-To
```

### 表 3-147 stripheaders (続き)

```
Currently stripping headers: Delivered-To
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Set message headers to remove.
```

```
[1]>
```

```
mail3.example.com>
```

## textconfig

### 説明

DLP、バウンス、暗号化通知を含め、アンチウイルス アラート テンプレート、メッセージ免責事項、通知テンプレートなどのテキスト リソースを設定します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

textconfig -> NEW を使用してテキスト リソースを作成し、textconfig > delete を使用してテキスト リソースを削除します。

**表 3-148 textconfig : テキスト リソースの作成**

```
mail3.example.com> textconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new text resource.
- IMPORT - Import a text resource from a file.

```
[ ]> new
```

```
What kind of text resource would you like to create?
```

1. Anti-Virus Container Template
2. Anti-Virus Notification Template
3. DLP Notification Template
4. Bounce and Encryption Failure Notification Template
5. Message Disclaimer
6. Encryption Notification Template (HTML)
7. Encryption Notification Template (text)
8. Notification Template

```
[1]> 5
```

**表 3-148 textconfig : テキスト リソースの作成 (続き)**

Please create a name for the message disclaimer:

```
[ ]> disclaimer 1
```

Enter the encoding for the message disclaimer:

1. US-ASCII
2. Unicode (UTF-8)
3. Unicode (UTF-16)
4. Western European/Latin-1 (ISO 8859-1)
5. Western European/Latin-1 (Windows CP1252)
6. Traditional Chinese (Big 5)
7. Simplified Chinese (GB 2312)
8. Simplified Chinese (HZ GB 2312)
9. Korean (ISO 2022-KR)
10. Korean (KS-C-5601/EUC-KR)
11. Japanese (Shift-JIS (X0123))
12. Japanese (ISO-2022-JP)
13. Japanese (EUC)

```
[1]>
```

Enter or paste the message disclaimer here. Enter '.' on a blank line to end.

**表 3-148 textconfig : テキストリソースの作成 (続き)**

```
This message was sent from an IronPort(tm) Email Security appliance.
```

```
.
```

```
Message disclaimer "disclaimer 1" created.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new text resource.
- IMPORT - Import a text resource from a file.
- EXPORT - Export text resource to a file.
- PRINT - Display the content of a resource.
- EDIT - Modify a resource.
- DELETE - Remove a resource from the system.
- LIST - List configured resources.

```
[> delete
```

```
Please enter the name or number of the resource to delete:
```

```
[> 1
```

```
Message disclaimer "disclaimer 1" has been deleted.
```

**表 3-148**      **textconfig : テキスト リソースの作成 (続き)**

```
Choose the operation you want to perform:  
  
- NEW - Create a new text resource.  
  
- IMPORT - Import a text resource from a file.  
  
[]>
```

textconfig -> EDIT を使用して既存のテキスト リソースを変更します。エンコードを変更したり、選択したテキスト リソースのテキストを置換したりできます。

## テキスト リソースのインポート

テキスト ファイルをテキスト リソースとしてインポートするには、textconfig -> IMPORT を使用します。インポートするテキスト ファイルは、アプライアンス上の configuration ディレクトリに存在する必要があります。

**表 3-149**      **textconfig : テキスト リソースとしてのテキスト ファイルのインポート**

```
mail3.example.com> textconfig  
  
Current Text Resources:  
  
1. footer,2.message (Message Footer)  
  
Choose the operation you want to perform:  
  
- NEW - Create a new text resource.  
  
- IMPORT - Import a text resource from a file.
```

**表 3-149 textconfig : テキスト リソースとしてのテキスト ファイルのインポート (続き)**

- EXPORT - Export text resource to a file.
- PRINT - Display the content of a resource.
- EDIT - Modify a resource.
- DELETE - Remove a resource from the system.
- LIST - List configured resources.

```
[> import
```

What kind of text resource would you like to create?

1. Anti-Virus Container Template
2. Anti-Virus Notification Template
3. DLP Notification Template
4. Bounce and Encryption Failure Notification Template
5. Message Disclaimer
6. Encryption Notification Template (HTML)
7. Encryption Notification Template (text)
8. Notification Template

```
[1]> 8
```

Please create a name for the notification template:

```
[> strip.mp3files
```

**表 3-149**      **textconfig : テキスト リソースとしてのテキスト ファイルのインポート (続き)**

Enter the name of the file to import:

```
[ ]> strip.mp3.txt
```

Enter the encoding to use for the imported file:

1. US-ASCII

```
[ list of encodings ]
```

```
[1]>
```

Notification template "strip.mp3files" created.

Current Text Resources:

1. disclaimer.2.message (Message Disclaimer)

2. strip.mp3files (Notification Template)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new text resource.
- IMPORT - Import a text resource from a file.
- EXPORT - Export text resource to a file.
- PRINT - Display the content of a resource.

**表 3-149 textconfig : テキスト リソースとしてのテキスト ファイルのインポート (続き)**

```
- EDIT - Modify a resource.  
  
- DELETE - Remove a resource from the system.  
  
- LIST - List configured resources.  
  
[]>
```

## テキスト リソースのエクスポート

テキスト リソースをテキスト ファイルとしてエクスポートするには、`textconfig -> EXPORT` を使用します。テキスト ファイルは、アプライアンス上の `configuration` ディレクトリに作成されます。

**表 3-150 textconfig : テキスト リソースのテキスト ファイルへのエクスポート**

```
mail3.example.com> textconfig  
  
Current Text Resources:  
  
1. footer.2.message (Message Footer)  
2. strip.mp3 (Notification Template)  
  
Choose the operation you want to perform:  
  
- NEW - Create a new text resource.  
  
- IMPORT - Import a text resource from a file.  
  
- EXPORT - Export text resource to a file.  
  
- PRINT - Display the content of a resource.
```

**表 3-150 textconfig : テキスト リソースのテキスト ファイルへのエクスポート (続き)**

- EDIT - Modify a resource.
- DELETE - Remove a resource from the system.
- LIST - List configured resources.

```
[ ]> export
```

Please enter the name or number of the resource to export:

```
[ ]> 2
```

Enter the name of the file to export:

```
[strip.mp3]> strip.mp3.txt
```

Enter the encoding to use for the exported file:

1. US-ASCII

[ list of encoding types ]

```
[1]>
```

File written on machine "mail3.example.com" using us-ascii encoding.

Current Text Resources:

1. footer.2.message (Message Footer)

**表 3-150**      **textconfig : テキスト リソースのテキスト ファイルへのエクスポート (続き)**

2. strip.mp3 (Notification Template)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new text resource.
- IMPORT - Import a text resource from a file.
- EXPORT - Export text resource to a file.
- PRINT - Display the content of a resource.
- EDIT - Modify a resource.
- DELETE - Remove a resource from the system.
- LIST - List configured resources.

[ ]>

## ロギングとアラート

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [alertconfig](#)
- [grep](#)
- [logconfig](#)
- [rollovernow](#)
- [snmpconfig](#)
- [tail](#)

# alertconfig

## 説明

電子メール アラートを設定します。

## 使用方法

**コミット** : このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## CLI による新しいアラートおよびアラート受信者の作成

この例では、新しいアラート受信者 (alertadmin@example.com) を作成し、重大度が **Critical** である、システム、ハードウェア、およびディレクトリ ハーベスト攻撃のアラートを受け取るように設定します。重複したアラートを送信するまでの時間を 360 秒に設定し、電子メールの From: アドレスを Alerts@example.com に設定します。

**表 3-151 alertconfig : 新しいアラートおよびアラート受信者の作成**

```
mail3.example.com> alertconfig

Sending alerts to:

joe@example.com

Class: All - Severities: All

Seconds to wait before sending a duplicate alert (seconds): 300
```

**表 3-151 alertconfig : 新しいアラートおよびアラート受信者の作成 (続き)**

Alerts will be sent using the system-default From Address.

IronPort AutoSupport: Enabled

You will receive a copy of the weekly AutoSupport reports.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new email address to send alerts.
- EDIT - Modify an email address.
- DELETE - Remove an email address.
- CLEAR - Remove all email addresses (disable alerts).
- SETUP - Configure alert settings.
- FROM - Configure the From Address of alert emails.

[ ]> **new**

Please enter a new email address to send alerts.

(Ex: "administrator@example.com")

[ ]> **alertadmin@example.com**

Choose the Alert Classes. Separate multiple choices with commas.

1. All
2. System

**表 3-151 alertconfig : 新しいアラートおよびアラート受信者の作成 (続き)**

3. Hardware

4. Virus Outbreak Filters

5. Anti-Virus

6. Anti-Spam

7. Directory Harvest Attack Prevention

[1]> **2,3,7**

Select a Severity Level. Separate multiple choices with commas.

1. All

2. Critical

3. Warning

4. Information

[1]> **2**

Sending alerts to:

joe@example.com

Class: All - Severities: All

alertadmin@example.com

Class: Hardware - Severities: Critical

Class: Directory Harvest Attack Prevention - Severities: Critical

Class: System - Severities: Critical

**表 3-151 alertconfig : 新しいアラートおよびアラート受信者の作成 (続き)**

```
Seconds to wait before sending a duplicate alert (seconds): 300
```

```
Alerts will be sent using the system-default From Address.
```

```
IronPort AutoSupport: Enabled
```

```
You will receive a copy of the weekly AutoSupport reports.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new email address to send alerts.
- EDIT - Modify an email address.
- DELETE - Remove an email address.
- CLEAR - Remove all email addresses (disable alerts).
- SETUP - Configure alert settings.
- FROM - Configure the From Address of alert emails.

```
[>] setup
```

```
Seconds to wait before sending a duplicate alert (seconds):
```

```
[300]> 360
```

```
Would you like to enable IronPort AutoSupport, which automatically emails
```

**表 3-151 alertconfig : 新しいアラートおよびアラート受信者の作成 (続き)**

```
system alerts and weekly status reports directly to IronPort Customer  
Care?
```

```
(Enabling AutoSupport is recommended.) [Y]>
```

```
Would you like to receive a copy of the weekly AutoSupport reports? [Y]>
```

```
Sending alerts to:
```

```
joe@example.com
```

```
Class: All - Severities: All
```

```
alertadmin@example.com
```

```
Class: Hardware - Severities: Critical
```

```
Class: Directory Harvest Attack Prevention - Severities: Critical
```

```
Class: System - Severities: Critical
```

```
Seconds to wait before sending a duplicate alert (seconds): 360
```

```
Alerts will be sent using the system-default From Address.
```

```
IronPort AutoSupport: Enabled
```

```
You will receive a copy of the weekly AutoSupport reports.
```

**表 3-151 alertconfig : 新しいアラートおよびアラート受信者の作成 (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new email address to send alerts.
- EDIT - Modify an email address.
- DELETE - Remove an email address.
- CLEAR - Remove all email addresses (disable alerts).
- SETUP - Configure alert settings.
- FROM - Configure the From Address of alert emails.

[> **from**

Alerts will be sent using the system-default From Address.

Choose the operation you want to perform:

- EDIT - Edit the From Address.

[> **edit**

Please enter the From Address to use for alerts.

[> **Alerts@example.com**

Sending alerts to:

joe@example.com

Class: All - Severities: All

**表 3-151 alertconfig : 新しいアラートおよびアラート受信者の作成 (続き)**

```
alertadmin@example.com

Class: Hardware - Severities: Critical

Class: Directory Harvest Attack Prevention - Severities: Critical

Class: System - Severities: Critical

Seconds to wait before sending a duplicate alert (seconds): 360

Alerts will be sent using this configured From Address:
Alerts@example.com

IronPort AutoSupport: Enabled

You will receive a copy of the weekly AutoSupport reports.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a new email address to send alerts.

- EDIT - Modify an email address.

- DELETE - Remove an email address.

- CLEAR - Remove all email addresses (disable alerts).

- SETUP - Configure alert settings.

- FROM - Configure the From Address of alert emails.

[]>
```

表 3-151 alertconfig : 新しいアラートおよびアラート受信者の作成 (続き)

```
mail3.example.com>
```

## grep

### 説明

ログ ファイル内のテキストを検索します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

grep コマンドを使用すると、ログ内の文字列を検索できます。grep コマンドを実行するときには、次の構文を使用します。

```
grep [-C count] [-e regex] [-i] [-p] [-t] [regex] log_name
```



(注)

結果を返すには、`-e regex` または `regex` を入力する必要があります。

grep コマンドを実行するときには、次のオプションを使用します。

**表 3-152** grep コマンドのオプション

オプション	説明
-C	見つかった grep パターンのコンテキストを示す周辺の行を表示します。表示する行数を入力します。
-e	正規表現を入力します。
-i	大文字と小文字の区別を無視します。
-p	出力に改ページを追加します。
-t	grep コマンドをログ ファイルの末尾まで実行します。
regex	正規表現を入力します。

## grep の例

次に、アンチウイルス ログの中で文字列「clean」または「viral」を検索する例を示します。この grep コマンドには regex 表現が含まれています。

**表 3-153** grep : ログ ファイル内のテキストの検索

```
mail3.example.com> grep "CLEAN\\|VIRAL" antivirus

Fri Jun  9 21:50:25 2006 Info: sophos antivirus - MID 1 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun  9 21:53:15 2006 Info: sophos antivirus - MID 2 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun  9 22:47:41 2006 Info: sophos antivirus - MID 3 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun  9 22:47:41 2006 Info: sophos antivirus - MID 4 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun  9 22:47:41 2006 Info: sophos antivirus - MID 5 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun  9 22:47:41 2006 Info: sophos antivirus - MID 6 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun  9 22:47:42 2006 Info: sophos antivirus - MID 12 - Result 'CLEAN' ()
```

**表 3-153**      **grep : ログ ファイル内のテキストの検索 (続き)**

```
Fri Jun 9 22:53:04 2006 Info: sophos antivirus - MID 18 - Result 'VIRAL' ()
Fri Jun 9 22:53:05 2006 Info: sophos antivirus - MID 16 - Result 'VIRAL' ()
Fri Jun 9 22:53:06 2006 Info: sophos antivirus - MID 19 - Result 'VIRAL' ()
Fri Jun 9 22:53:07 2006 Info: sophos antivirus - MID 21 - Result 'VIRAL' ()
Fri Jun 9 22:53:08 2006 Info: sophos antivirus - MID 20 - Result 'VIRAL' ()
Fri Jun 9 22:53:08 2006 Info: sophos antivirus - MID 22 - Result 'VIRAL' ()

mail3.example.com>
```

## logconfig

### 説明

ログ ファイルへのアクセスを設定します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理** : このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## FTP プッシュ ログ サブスクリプションの例

次の例では、`logconfig` コマンドを使用して、`myDeliveryLogs` と呼ばれる新しい配信ログを設定します。次に、ログが FTP によってリモート ホストにプッシュされるように設定します。

**表 3-154**      **logconfig : 新しい配信ログの設定**

```
mail3.example.com> logconfig
```

```
Currently configured logs:
```

1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli\_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euqgui\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd\_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui\_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll

**表 3-154 logconfig : 新しい配信ログの設定 (続き)**

- 15. "reportd\_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll
- 16. "reportqueryd\_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
- 17. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll
- 18. "slbld\_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
- 19. "sntpd\_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
- 20. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll
- 21. "system\_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
- 22. "trackerd\_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
- 23. "updater\_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new log.
- EDIT - Modify a log subscription.
- DELETE - Remove a log subscription.
- SETUP - General settings.
- LOGHEADERS - Configure headers to log.
- HOSTKEYCONFIG - Configure SSH host keys.

[> **new**

Choose the log file type for this subscription:

**表 3-154 logconfig : 新しい配信ログの設定 (続き)**

1. IronPort Text Mail Logs
2. gmail Format Mail Logs
3. Delivery Logs
4. Bounce Logs
5. Status Logs
6. Domain Debug Logs
7. Injection Debug Logs
8. SMTP Conversation Logs
9. System Logs
10. CLI Audit Logs
11. FTP Server Logs
12. HTTP Logs
13. NTP logs
14. LDAP Debug Logs
15. Anti-Spam Logs
16. Anti-Spam Archive
17. Anti-Virus Logs
18. Anti-Virus Archive
19. Scanning Logs
20. IronPort Spam Quarantine Logs
21. IronPort Spam Quarantine GUI Logs
22. Reporting Logs
23. Reporting Query Logs
24. Updater Logs
25. Tracking Logs
26. Safe/Block Lists Logs
27. Authentication Logs

[1]> 8

Please enter the name for the log:

[> **myDeliveryLogs**

Choose the method to retrieve the logs.

1. FTP Poll
2. FTP Push

**表 3-154**      **logconfig : 新しい配信ログの設定 (続き)**

- 3. SCP Push
- 4. Syslog Push

```
[1]> 2
```

```
Hostname to deliver the logs:
```

```
[> yourhost.example.com
```

```
Username on the remote host:
```

```
[> yourusername
```

```
Password for youruser:
```

```
[> thepassword
```

```
Directory on remote host to place logs:
```

```
[> /logs
```

```
Filename to use for log files:
```

```
[conversation.text]>
```

```
Maximum time to wait before transferring:
```

**表 3-154**      **logconfig : 新しい配信ログの設定 (続き)**

```
[3600]>
```

```
Maximum filesize before transferring:
```

```
[10485760]>
```

```
Currently configured logs:
```

1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli\_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euggui\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd\_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui\_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll

### 表 3-154 logconfig : 新しい配信ログの設定 (続き)

15. "myDeliveryLogs" Type: "SMTP Conversation Logs" Retrieval: FTP Push - Host

yourhost.example.com

16. "reportd\_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll

17. "reportqueryd\_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll

18. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll

19. "slbld\_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll

20. "sntpd\_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll

21. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll

22. "system\_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll

23. "trackerd\_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll

24. "updater\_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll

## SCP プッシュ ログ サブスクリプションの例

次の例では、logconfig コマンドを使用して、LogPush と呼ばれる新しい配信ログを設定します。このログは、SCP によって IP アドレスが 10.1.1.1 のリモートホストにユーザ logger としてプッシュされ、ディレクトリ /tmp に保存されるように設定します。ログ取得方法が SCP プッシュである場合は logconfig コマンドから自動的に sshconfig コマンドが呼び出されることに注意してください。(ホスト キーの詳細については、『*IronPort AsyncOS Advanced User Guide*』の

「Configuring Host Keys」を参照してください。ユーザ キーの詳細については、『*IronPort AsyncOS User Guide*』の「Managing Secure Shell (SSH) Keys」を参照してください。また、ホスト名のプロンプトでは IP アドレスを使用できません。

**表 3-155 logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成**

```
mail3.example.com> logconfig
```

```
Currently configured logs:
```

1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli\_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euqgui\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd\_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui\_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
15. "reportd\_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll

**表 3-155 logconfig : SCP 「ブッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

16. "reportqueryd\_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
17. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll
18. "slbld\_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
19. "sntpd\_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
20. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll
21. "system\_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
22. "trackerd\_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
23. "updater\_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new log.
- EDIT - Modify a log subscription.
- DELETE - Remove a log subscription.
- SETUP - General settings.
- LOGHEADERS - Configure headers to log.
- HOSTKEYCONFIG - Configure SSH host keys.

[> **new**

Choose the log file type for this subscription:

**表 3-155**      **logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

1. IronPort Text Mail Logs
2. gmail Format Mail Logs
3. Delivery Logs
4. Bounce Logs
5. Status Logs
6. Domain Debug Logs
7. Injection Debug Logs
8. SMTP Conversation Logs
9. System Logs
10. CLI Audit Logs
11. FTP Server Logs
12. HTTP Logs
13. NTP logs
14. LDAP Debug Logs
15. Anti-Spam Logs
16. Anti-Spam Archive
17. Anti-Virus Logs
18. Anti-Virus Archive
19. Scanning Logs
20. IronPort Spam Quarantine Logs
21. IronPort Spam Quarantine GUI Logs
22. Reporting Logs
23. Reporting Query Logs
24. Updater Logs
25. Tracking Logs
26. Safe/Block Lists Logs
27. Authentication Logs

[1]> 3

Please enter the name for the log:

[> **LogPush**

Choose the method to retrieve the logs.

1. FTP Poll
2. FTP Push

**表 3-155**      **logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

3. SCP Push

```
[1]> 3
```

Hostname to deliver the logs:

```
[ ]> 10.1.1.1
```

Port to connect to on the remote host:

```
[22]>
```

Username on the remote host:

```
[ ]> logger
```

Directory on remote host to place logs:

```
[ ]> /tmp
```

Filename to use for log files:

```
[delivery.log]>
```

Maximum time to wait before transferring:

```
[3600]>
```

**表 3-155**      **logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

```
Maximum filesize before transferring:
```

```
[10485760]>
```

```
Protocol:
```

```
1. SSH1
```

```
2. SSH2
```

```
[2]> 2
```

```
Do you want to enable host key checking? [N]> y
```

```
Do you want to automatically scan the host for its SSH key, or enter it manually?
```

```
1. Automatically scan.
```

```
2. Enter manually.
```

```
[1]> 1
```

```
SSH2:dsa
```

**表 3-155**      **logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

```
10.1.1.1 ssh-dss
AAAAB3NzaC1kc3MAAACBALwGi4I1WLDVndbIwEsArt9LVE2ts5yE9JBTSdUwLvoq0G3FRqifrc
ce92zgyHtc/ZWyXavUTIM3XdlbpiEcsMp2XKpSnPPx2ly8bqkpJsSCQcM8zZMDjnOPm8ghiw
HXYh7oNEUJCCPnPxAy44rlJ5Yz4x9eIoALp0dHU0GR+j1NAAAAFQDQi5GY/X9P1DM3fPMvEx7
wc0edlwAAAIb9cgMTEFP1WTAGrlRtbowZP5zWZtVDTxLhdXzjlo4+bb4hBR7DKuc80+naAFnT
hyH/J8R3WLJVF79M5geKJbXzuJGDK3Zw13UYefPqBqXp2O1zLRQSJYx1WhwYz/rooopN1BnF4
sh12mtq3tde1176bQgtwaQA4wK015k3zOWsPwAAAIaicRYat3y+Blv/V6wde6BBk+oULv3eK3
8gafuip4WMBxkG9GO6EQi8nss82oznwWBy/pITRQfh4MBmlxTF4VEY00sARr1ZtuUJC1QGQvc
gh7Nd3YNais2CSbEKBEaIOTF6+SX2RNpcUF3Wg5ygw92xtqQPkMcZeLtK2ZJRkhC+Vw==
```

```
Add the preceding host key(s) for 10.1.1.1? [Y]> y
```

```
Currently installed host keys:
```

1. 10.1.1.1 1024 35 12260642076447444117847407996206675325...3520565607
2. 10.1.1.1 ssh-dss AAAAB3NzaC1kc3MAAACBALwGi4I1WLDVndbIwE...JRkhC+Vw==

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new key.
- EDIT - Modify a key.
- DELETE - Remove a key.
- SCAN - Automatically download a host key.
- PRINT - Display a key.
- HOST - Display this machine's host keys.

```
[ ]>
```

```
Maximum filesize before transferring:
```

**表 3-155**      **logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

```
[10485760]>
```

```
Protocol:
```

```
1. SSH1
```

```
2. SSH2
```

```
[2]> 2
```

```
Do you want to enable host key checking? [N]> y
```

```
Currently installed host keys:
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Add a new key.
```

```
- SCAN - Automatically download a host key.
```

```
- HOST - Display this machine's host keys.
```

```
[ ]> scan
```

```
Choose the ssh protocol type:
```

```
1. SSH1:rsa
```

```
2. SSH2:rsa
```

```
3. SSH2:dsa
```

**表 3-155**            **logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

```
4. All
```

```
[4]> 4
```

```
SSH1:rsa
```

```
10.1.1.1 1024 35
1226064207644744411784740799620667532592786826489658706901294960654304244
6301345729479898062782982803379315222644869451431621827281445398693161250
8282328008815740072109975632356478532128816187806830746328234327778100131
1281766726662445111917837479658980008559470224846920794666977073739488715
54575173520565607
```

## Syslog プッシュ ログ サブスクリプションの例

次の例では、`logconfig` コマンドを使用して、`MailLogSyslogPush` と呼ばれる新しい配信ログを設定します。このログは、UPD を使用して IP アドレスが 10.1.1.2 のリモート `syslog` サーバに「メール」ファシリティでプッシュされ、所定のディレクトリに保存されるように設定します。

**表 3-156**            **logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成**

```
mail3.example.com> logconfig
```

```
Currently configured logs:
```

1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll

**表 3-156**      **logconfig : SCP 「ブッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli\_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euqgui\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd\_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui\_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
15. "reportd\_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll
16. "reportqueryd\_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
17. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll
18. "slbld\_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
19. "sntpd\_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
20. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll
21. "system\_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
22. "trackerd\_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
23. "updater\_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new log.

**表 3-156**      **logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

- EDIT - Modify a log subscription.
- DELETE - Remove a log subscription.
- SETUP - General settings.
- LOGHEADERS - Configure headers to log.
- HOSTKEYCONFIG - Configure SSH host keys.

[ ]> **new**

Choose the log file type for this subscription:

1. IronPort Text Mail Logs
2. gmail Format Mail Logs
3. Delivery Logs
4. Bounce Logs
5. Status Logs
6. Domain Debug Logs
7. Injection Debug Logs
8. SMTP Conversation Logs
9. System Logs
10. CLI Audit Logs
11. FTP Server Logs
12. HTTP Logs
13. NTP logs
14. LDAP Debug Logs
15. Anti-Spam Logs
16. Anti-Spam Archive
17. Anti-Virus Logs
18. Anti-Virus Archive
19. Scanning Logs
20. IronPort Spam Quarantine Logs
21. IronPort Spam Quarantine GUI Logs
22. Reporting Logs
23. Reporting Query Logs
24. Updater Logs
25. Tracking Logs
26. Safe/Block Lists Logs
27. Authentication Logs

[1]> **1**

**表 3-156**      **logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

Please enter the name for the log:

```
[ ]> MailLogSyslogPush
```

Log level:

1. Critical
2. Warning
3. Information
4. Debug
5. Trace

```
[3]> 2
```

Choose the method to retrieve the logs.

1. FTP Poll
2. FTP Push
3. SCP Push
4. Syslog Push

```
[1]> 4
```

Hostname to deliver the logs:

```
[ ]> 10.1.1.2
```

Which protocol do you want to use to transfer the log data?

1. UDP
2. TCP

**表 3-156**      **logconfig : SCP 「プッシュ」 配信ログの作成 (続き)**

```
[1]> 1

Which facility do you want the log data to be sent as?
1. auth
2. authpriv
3. console
4. daemon
5. ftp
6. local0
7. local1
8. local2
9. local3
10. local4
11. local5
12. local6
13. local7
14. mail
15. ntp
16. security
17. user
[14]> 14

Currently configured logs:
1. "MailLogSyslogPush" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: Syslog
Push -
Host 10.1.1.2
```

## rollovernow

### 説明

ログ ファイルをロール オーバーします。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

---

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

表 3-157 rollovernow

```
mail3.example.com> rollovernow
```

Currently configured logs:

1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli\_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euqgui\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd\_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui\_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
15. "reportd\_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll

**表 3-157 rollovernow (続き)**

```
16. "reportqueryd_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
17. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll
18. "slbld_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
19. "sntpd_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
20. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll
21. "system_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
22. "trackerd_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
23. "updater_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll
24. All Logs

Which log would you like to roll over?

[]> 2

Log files successfully rolled over.

mail3.example.com>
```

## snmpconfig

### 説明

SNMP を設定します。

### 使用方法

**コミット:** このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次の例では、`snmpconfig` コマンドを使用して、ポート 161 の「PublicNet」インターフェイスで **SNMP** をイネーブルにしています。バージョン 3 のパスフレーズが入力され、確認のために再入力されています。システムは、バージョン 1 および 2 要求を処理するように設定されており、これらのバージョン 1 および 2 からの **GET** 要求に対してコミュニティ ストリング `public` が入力されています。トラップ ターゲット `snmp-monitor.example.com` が入力されています。最後に、システムの場所と連絡先情報が入力されています。

**表 3-158**            **snmpconfig**

```
mail3.example.com> snmpconfig

Current SNMP settings:

SNMP Disabled.

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Configure SNMP.

[]> setup

Do you want to enable SNMP? [N]> y

Please choose an IP interface for SNMP requests.

1. Data 1 (192.168.1.1/24: buttercup.run)
```

**表 3-158      snmpconfig (続き)**

2. Data 2 (192.168.2.1/24: buttercup.run)

3. Management (192.168.44.44/24: buttercup.run)

[1]>

Enter the SNMPv3 passphrase.

>

Please enter the SNMPv3 passphrase again to confirm.

>

Which port shall the SNMP daemon listen on?

[161]>

Service SNMP V1/V2c requests? [N]> **y**

Enter the SNMP V1/V2c community string.

[>] **public**

From which network shall SNMP V1/V2c requests be allowed?

[192.168.2.0/24]>

Enter the Trap target (IP address). Enter "None" to disable traps.

[None]> **snmp-monitor.example.com**

**表 3-158**      **snmpconfig (続き)**

Enterprise Trap Status

1. RAIDStatusChange	Enabled
2. fanFailure	Enabled
3. highTemperature	Enabled
4. keyExpiration	Enabled
5. linkDown	Enabled
6. linkUp	Enabled
7. powerSupplyStatusChange	Enabled
8. resourceConservationMode	Enabled
9. updateFailure	Enabled

Do you want to change any of these settings? [N]> **y**

Do you want to disable any of these traps? [Y]>

Enter number or numbers of traps to disable. Separate multiple numbers with commas.

[ ]> **1,8**

Enterprise Trap Status

1. RAIDStatusChange	Disabled
---------------------	----------

**表 3-158 snmpconfig (続き)**

2. fanFailure	Enabled
3. highTemperature	Enabled
4. keyExpiration	Enabled
5. linkDown	Enabled
6. linkUp	Enabled
7. powerSupplyStatusChange	Enabled
8. resourceConservationMode	Disabled
9. updateFailure	Enabled

Do you want to change any of these settings? [N]>

Enter the System Location string.

```
[Unknown: Not Yet Configured]> Network Operations Center - west; rack #31, position 2
```

Enter the System Contact string.

```
[snmp@localhost]> Joe Administrator, x8888
```

Current SNMP settings:

Listening on interface "Data 1" 192.168.2.1/24 port 161.

SNMP v3: Enabled.

SNMP v1/v2: Enabled, accepting requests from subnet 192.168.2.0/24.

### 表 3-158 snmpconfig (続き)

```
SNMP v1/v2 Community String: public

Trap target: snmp-monitor.example.com

Location: Network Operations Center - west; rack #31, position 2

System Contact: Joe Administrator, x8888

mail3.example.com>
```

## tail

### 説明

ログ ファイルの最新部分を継続的に表示します。tail コマンドには、表示するログの名前または番号をパラメータ tail 9 または tail mail\_logs として指定することもできます。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-159**      **tail**

```
mail3.example.com> tail
```

```
Currently configured logs:
```

1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli\_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euqgui\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd\_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui\_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
15. "reportd\_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll
16. "reportqueryd\_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
17. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll

**表 3-159 tail (続き)**

- 18. "slbld\_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
- 19. "sntpd\_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
- 20. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll
- 21. "system\_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
- 22. "trackerd\_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
- 23. "updater\_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll

Enter the number of the log you wish to tail.

[ ]> **19**

Press Ctrl-C to stop.

Sat May 15 12:25:10 2008 Info: PID 274: User system commit changes:  
Automated Update for Quarantine Delivery Host

Sat May 15 23:18:10 2008 Info: PID 19626: User admin commit changes:

Sat May 15 23:18:10 2008 Info: PID 274: User system commit changes:  
Updated filter logs config

Sat May 15 23:46:06 2008 Info: PID 25696: User admin commit changes:  
Receiving suspended.

Sat May 15 23:46:06 2008 Info: PID 25696: User admin commit changes:  
Suspended receiving.

Sat May 15 23:46:35 2008 Info: PID 25696: User admin commit changes:  
Receiving resumed.

Sat May 15 23:46:35 2008 Info: PID 25696: User admin commit changes:  
Receiving resumed.

Sat May 15 23:48:17 2008 Info: PID 25696: User admin commit changes:

**表 3-159** tail (続き)

```
Sun May 16 00:00:00 2008 Info: Generated report: name b, start time Sun
May 16 00:00:00 2004, size 2154 bytes
```

```
^Cmail3.example.com>
```

## レポーティング

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- 「reportingconfig」

## reportingconfig

### reportingconfig コマンドの使用

reportingconfig サブメニューでは、以下のサブコマンドを使用できます。

**表 3-160** reportingconfig サブコマンド

構文	説明	アベイラビリティ
filters	セキュリティ管理アプライアンスのフィルタを設定します。	M-Series のみ
alert_timeout	レポート データを取得できなかった場合にアラートを受け取るまでの時間を設定します。	M-Series のみ
domain	ドメイン レポート設定を指定します。	M-Series のみ
mode	セキュリティ管理アプライアンスで中央集中型レポーティングをイネーブルにします。電子メールセキュリティアプライアンスの中央集中型またはローカルレポーティングをイネーブルにします。	C-Series、 M-Series
mailsetup	電子メールセキュリティアプライアンスのレポーティングを設定します。	C-Series のみ

---

## 使用方法

コミット：このコマンドはコミット操作が必要です。

## 例：レポートフィルタのイネーブル化（M-Series のみ）

表 3-161 reportingconfig：レポートフィルタのイネーブル化

```
mail3.example.com> reportingconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT\_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get reporting data
- DOMAIN - Configure domain report settings.
- MODE - Enable/disable centralized reporting.

```
[> filters
```

```
Filters remove specific sets of centralized reporting data from the "last year" reports. Data from the reporting groups selected below will not be recorded.
```

```
All filtering has been disabled.
```

1. No Filtering enabled
2. IP Connection Level Detail.
3. User Detail.
4. Mail Traffic Detail.

**表 3-161 reportingconfig : レポート フィルタのイネーブル化 (続き)**

Choose which groups to filter, you can specify multiple filters by entering a comma separated list:

```
[> 2, 3
```

Choose the operation you want to perform:

- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT\_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get

reporting data

- DOMAIN - Configure domain report settings.
- MODE - Enable/disable centralized reporting.

```
[>
```

## ドメイン レポートの HAT REJECT 情報のイネーブル化 (M-Series のみ)

表 3-162 reportingconfig : ドメイン レポートの HAT REJECT 情報のイネーブル化

```
mail3.example.com> reportingconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT\_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get reporting data
- DOMAIN - Configure domain report settings.
- MODE - Enable/disable centralized reporting.

```
[ ]> domain
```

```
If you have configured HAT REJECT policy on all remote appliances providing reporting data to this appliance to occur at the message recipient level then of domain reports.
```

```
Use message recipient HAT REJECT information for domain reports? [N]> y
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT\_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get reporting data
- DOMAIN - Configure domain report settings.

**表 3-162**      **reportingconfig** : ドメイン レポートの HAT REJECT 情報のイネーブル化 (続き)

- MODE - Enable/disable centralized reporting.

[ ]>

## タイムアウトアラートのイネーブル化（M-Seriesのみ）

表 3-163 reportingconfig : タイムアウトアラートのイネーブル化

```
mail3.example.com> reportingconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT\_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get reporting data
- DOMAIN - Configure domain report settings.
- MODE - Enable/disable centralized reporting.

```
[>] alert_timeout
```

```
An alert will be sent if reporting data has not been fetched from an appliance after 360 minutes.
```

```
Would you like timeout alerts to be enabled? [Y]> y
```

```
After how many minutes should an alert be sent?
```

```
[360]> 240
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- FILTERS - Configure filtering for the SMA.

**表 3-163**      **reportingconfig : タイムアウト アラートのイネーブル化 (続き)**

- ALERT\_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get reporting data

- DOMAIN - Configure domain report settings.

- MODE - Enable/disable centralized reporting.

[ ]>

## 電子メールセキュリティ アプライアンスでの中央集中型レポーティングのイネーブル化

表 3-164 reportingconfig : 中央集中型レポーティングのイネーブル化

```
mail3.example.com> reportingconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- MAILSETUP - Configure reporting for the ESA.
- MODE - Enable centralized or local reporting for the ESA.

```
[> mode
```

```
Centralized reporting: Local reporting only.
```

```
Do you want to enable centralized reporting? [N]> y
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- MAILSETUP - Configure reporting for the ESA.
- MODE - Enable centralized or local reporting for the ESA.

```
[>
```

## レポートデータに対する記憶域の制限の設定 (C-Series のみ)

表 3-165 reportingconfig : 中央集中型レポートデータに対する記憶域の制限の設定

```
esa01-vmw1-tpub.qa> reportingconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- MAILSETUP - Configure reporting for the ESA.
- MODE - Enable centralized or local reporting for the ESA.

```
[ ]> mailsetup
```

```
SenderBase timeout used by the web interface: 5 seconds
```

```
Sender Reputation Multiplier: 3
```

```
The current level of reporting data recording is: unlimited
```

```
No custom second level domains are defined.
```

```
Legacy mailflow report: Disabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- SENDERBASE - Configure SenderBase timeout for the web interface.
- MULTIPLIER - Configure Sender Reputation Multiplier.
- COUNTERS - Limit counters recorded by the reporting system.

**表 3-165 reportingconfig : 中央集中型レポーティング データに対する記憶域の制限の設定 (続き)**

- THROTTLING - Limit unique hosts tracked for rejected connection reporting.
- TLD - Add customer specific domains for reporting rollup.
- STORAGE - How long centralized reporting data will be stored on the C-series before being overwritten.
- LEGACY - Configure legacy mailflow report.

[ ]> **storage**

While in centralized mode the C-series will store reporting data for the M-series to collect. If the M-series does not collect that data then eventually the C-series will begin to overwrite the oldest data with new data.

A maximum of 24 hours of reporting data will be stored.

How many hours of reporting data should be stored before data loss?

[24]> **48**

SenderBase timeout used by the web interface: 5 seconds

Sender Reputation Multiplier: 3

The current level of reporting data recording is: unlimited

No custom second level domains are defined.

Legacy mailflow report: Disabled

**表 3-165**      **reportingconfig : 中央集中型レポーティング データに対する記憶域の制限の設定 (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- SENDERBASE - Configure SenderBase timeout for the web interface.
  - MULTIPLIER - Configure Sender Reputation Multiplier.
  - COUNTERS - Limit counters recorded by the reporting system.
  - THROTTLING - Limit unique hosts tracked for rejected connection reporting.
  - TLD - Add customer specific domains for reporting rollup.
  - STORAGE - How long centralized reporting data will be stored on the C-series before being overwritten.
  - LEGACY - Configure legacy mailflow report.
- [ ]>

## SenderBase

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [sbstatus](#)
- [senderbaseconfig](#)

## sbstatus

### 説明

SenderBase クエリーのステータスを表示します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-166 sbstatus : 成功**

```
mail3.example.com> sbstatus
```

```
SenderBase host status
```

```
Status as of: Tue Oct 21 10:55:04 2003
```

```
Host up/down: up
```

IronPort アプライアンスが SenderBase 評価サービスに接続できない場合、つまりこのサービスへの接続が成功しなかった場合は、次のように表示されます。

**表 3-167 sbstatus : 失敗**

```
mail3.example.com> sbstatus
```

```
SenderBase host status
```

```
Host up/down: Unknown (never contacted)
```

# senderbaseconfig

## 説明

SenderBase の接続設定を指定します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-168**      **senderbaseconfig**

```
ail3.example.com> senderbaseconfig

Share statistics with SenderBase Information Service: Enabled

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Configure SenderBase Network Participation settings

[ ]> setup

Do you want to share statistical data with the SenderBase Information
Service (recommended)? [Y]>

Share statistics with SenderBase Information Service: Enabled

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Configure SenderBase Network Participation settings

[ ]>
```

## SMTP サービスの設定

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [listenerconfig](#)
- [localeconfig](#)

- [smtpauthconfig](#)

## listenerconfig

### 説明

listenerconfig コマンドでは、リスナーを作成、編集、削除できます。IronPort AsyncOS では、メッセージを受信し、受信ホストやネットワークの内部またはインターネット上の外部の受信者のいずれかにリレーするための条件を指定する必要があります。

これらの対象となる条件はリスナーで定義されます。これらの条件が一括されてメールフローポリシーが定義され、適用されます。リスナーでは、IronPort アプライアンスで電子メールを送信するシステムと通信する方法も定義されます。

**表 3-169 listenerconfig コマンド**

<b>名前</b>	リスナーには、簡単に参照できるように一意の名前を付けてください。リスナー用に定義する名前では、大文字と小文字が区別されます。AsyncOS では、複数のリスナーに同一の名前を付けることはできません。
<b>IP インターフェイス</b>	リスナーは IP インターフェイスに割り当てられます。リスナーを作成し割り当てる前に、systemstartup コマンドまたは interfaceconfig コマンドを使用して、すべての IP インターフェイスを設定する必要があります。
<b>メール プロトコル</b>	電子メールの受信に使用されるメール プロトコルであり、ESMTP と QMQP のいずれかです。
<b>IP ポート</b>	リスナーへの接続で使用する特定の IP ポート。デフォルトでは、SMTP ではポート 25 を使用し、QMQP ではポート 628 を使用します。

表 3-169 listenerconfig コマンド

リスナー タイプ:	パブリック	パブリック リスナーおよびプライベート リスナーは、ほとんどの設定に使用されます。一般的に、プライベート リスナーはプライベート (内部) ネットワークに使用されま す。パブリック リスナーには、インター ネット経由の電子メールの受信のためのデ フォルトの特性があります。
	プライベート	
	ブラックホール	テストまたはトラブルシューティングの目 的で、「ブラックホール」リスナーを使用で きます。ブラックホール リスナーの作成時 に、メッセージを削除する前にそのメッ ッセージをディスクに書き込むかどうかを選 択します。(詳細については、『 <i>AsyncOS Advanced User Guide</i> 』の「第 9 章 Testing and Troubleshooting」を参照してくださ い)。

## 使用方法

**コミット:** このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式: 一般的な listenerconfig

listenerconfig コマンドのバッチ形式を使用すると、特定のインターフェイスに対してリスナーを追加および削除できます。listenerconfig コマンドのバッチ形式では、リスナーの HAT および RAT を設定することもできます。

- 新しいリスナーの追加:

```
listenerconfig new <name> <public|private|blackhole|blackholequeueing>
<interface_name> <smtp|qmqp>
```

- リスナーの削除 :

```
listenerconfig delete <name>
```

## バッチ形式 : HAT

次に、`listenerconfig` のバッチ形式を使用して HAT 関連の各種作業を実行する例を示します。引数の詳細については、表 3-170 「`listenerconfig` 引数値 : HAT」(P.496) を参照してください。

- HAT への新しい送信者グループの追加

```
listenerconfig edit <name> hostaccess new sendergroup <name>  
<host_list> <behavior> [options [--comments]
```

- HAT への新しいポリシーの追加

```
listenerconfig edit <name> hostaccess new policy <name> <behavior>  
[options]
```

- 送信者グループへの新しいホスト リストの追加

```
listenerconfig edit sendergroup <name> hostaccess edit sendergroup  
<name> new <host_list>
```

- 送信者グループからのホストの削除

```
listenerconfig edit sendergroup <name> hostaccess edit sendergroup  
<name> delete <host>
```

- 送信者グループ リストでのホストの移動

```
listenerconfig edit sendergroup <name> hostaccess edit sendergroup  
<name> move <host> <host-to-insert-before>
```

- 送信者グループのポリシーの変更

```
listenerconfig edit sendergroup <name> hostaccess edit sendergroup  
<name> policy <behavior> [options]
```

- 送信者グループ リストの出力

```
listenerconfig edit <name> hostaccess edit sendergroup <name> print
```

- 送信者グループ名の変更

```
listenerconfig edit sendergroup <name> hostaccess edit sendergroup  
<name> rename <name>
```

- HAT のポリシーの編集

```
listenerconfig edit <name> hostaccess edit policy <name> <behavior>  
[options]
```

- HAT からの送信者グループの削除

```
listenerconfig edit <name> hostaccess delete sendergroup <name>
```

- ポリシーの削除

```
listenerconfig edit <name> hostaccess delete policy <name>
```

- HAT での送信者グループの移動

```
listenerconfig edit <name> hostaccess move <group>  
<group-to-insert-before>
```

- HAT デフォルト オプションの変更

```
listenerconfig edit <name> hostaccess default [options]
```

- ホスト アクセス テーブルの出力

```
listenerconfig edit <name> hostaccess print
```

- HAT のローカル コピーのインポート

```
listenerconfig edit <name> hostaccess import <filename>
```

- IronPort アプライアンスからの HAT のエクスポート

```
listenerconfig edit <name> hostaccess export <filename>
```

- HAT からユーザ定義のすべての送信者グループおよびポリシーを削除

```
listenerconfig edit <name> hostaccess clear
```

**表 3-170 listenerconfig 引数値 : HAT**

引数	説明
<b>&lt;behavior&gt;</b>	「Accept」、「Relay」、「Reject」、「TCP Refuse」、または「Continue」。送信者グループで使用する動作を選択するときは、「Policy: FOO」（「FOO」はポリシー名）という形式で追加の動作も選択できます。
<b>&lt;filename&gt;</b>	ホスト アクセス テーブルのインポートおよびエクスポートで使用するファイル名。
<b>&lt;group&gt;</b>	送信者グループの <name>。
<b>&lt;host&gt;</b>	<host_list> の 1 つのエンティティ。

表 3-170 listenerconfig 引数値 : HAT (続き)

<b>&lt;host_list&gt;</b>	<p>追加するホストを入力します。ホストは次の形式で指定します。</p> <p>CIDR アドレス (10.1.1.0/24)</p> <p>IP アドレス範囲 (10.1.1.10 ~ 20)</p> <p>IP サブネット (10.2.3)</p> <p>ホスト名 (crm.example.com)</p> <p>部分ホスト名 (.example.com)</p> <p>SenderBase 評価スコア範囲 (7.5:10.0)</p> <p>SenderBase ネットワーク オーナー IDS (SBO:12345)</p> <p>リモート ブラックリスト クエリー (dnslist[query.blacklist.example])</p> <p><b>(注)</b> 複数のホストを指定する場合は、カンマで区切ります。</p>
<b>&lt;name&gt;</b>	<p>送信者グループまたはポリシーの名前。HAT ラベルは、文字または下線で開始する必要があります、その後任意の数の文字、数字、下線、またはハイフンを追加します。</p>

表 3-170 listenerconfig 引数値 : HAT (続き)

--max_size	最大メッセージ サイズ。最後に、単位がキロバイトの場合は <b>k</b> 、メガバイトの場合は <b>M</b> を追加します。単位がバイトの場合、末尾の文字は不要です。
--max_conn	1 つのホストから確立できる接続の最大数。
--max_msgs	接続あたりの最大メッセージ数。
--max_rcpt	メッセージあたりの最大受信者数。
--override	SMTP バナーのホスト名を上書きします。「No」または SMTP バナー文字列。
--cust_acc	カスタム SMTP 受け入れ応答を指定します。「No」または SMTP 受け入れ応答文字列。
--acc_code	カスタム SMTP 受け入れ応答コード。デフォルトは 220 です。
--cust_rej	カスタム SMTP 拒否応答を指定します。「No」または SMTP 拒否応答文字列。
--rej_code	カスタム SMTP 拒否応答コード。デフォルトは 554 です。
--rate_lim	ホスト単位のレート制限をイネーブルにします。「No」、「default」、またはホストごとの受信者の 1 時間あたり最大数を指定します。
--cust_lim	カスタム SMTP 制限超過応答メッセージを指定します。「No」または SMTP 拒否応答文字列。デフォルトは「No」です。
--lim_code	カスタム SMTP 制限超過応答コード。デフォルトは 452 です。
--use_sb	デフォルトでフロー制御に SenderBase を使用します。「Yes」、「No」、または「default」。
--as_scan	anti-spam スキャンをイネーブルにします。「Yes」、「No」、または「Default」。
--av_scan	アンチウイルス スキャンをイネーブルにします。「Yes」、「No」、または「Default」。
<b>[options]</b>	

**表 3-170 listenerconfig 引数値 : HAT (続き)**

	<code>--dhap</code>	ディレクトリ ハーベスト攻撃防止 「No」、 「default」、またはリモート ホストからの無効 な受信者の 1 時間あたり最大数を指定しま す。
	<code>--tls</code>	サポートされていません。TLS を設定するに は、メニュー システムを使用します。
	<code>--sig_bits</code>	IP アドレスの有意ビット数。0 ~ 32、「No」、 または「default」。

## バッチ形式 : RAT

次に、`listenerconfig` のバッチ形式を使用して RAT 関連の各種作業を実行する例を示します。引数の詳細については、表 3-171 「`listenerconfig` 引数値 : RAT」(P.500) を参照してください。

- RAT への新しい受信者の追加

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess new <rat_addr> [options]
```

- RAT 内の受信者の編集

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess edit <rat_addr> [options]
```

- RAT からの受信者の削除

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess delete <rat_addr>
```

- RAT のコピーの出力

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess print
```

- ローカル RAT の IronPort アプライアンスへのインポート

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess import <filename>
```

- RAT のエクスポート

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess export <filename>
```

- デフォルト アクセスのクリア

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess clear <default_access>
```

表 3-171 listenerconfig 引数値 : RAT

引数	説明
<rat_addr>	追加するホストを入力します。ホストは次の形式で指定します。 CIDR アドレス (10.1.1.0/24) ホスト名 (crm.example.com) 部分ホスト名 (.example.com) ユーザ名 (postmaster@) 完全な電子メール アドレス (joe@example.com, joe@[1.2.3.4]) <b>(注)</b> 複数のホストを指定する場合は、カンマで区切ります。
<options>	
	--action アドレスに適用するアクション。「Accept」または「Reject」。デフォルトは「Accept」です。
	--cust_resp カスタム SMTP 応答を指定します。「No」または SMTP 受け入れ応答文字列。
	--resp_code カスタム SMTP 応答コード。「Accept」の場合は 250 がデフォルト、「Reject」の場合は 550 がデフォルトです。

**表 3-171 listenerconfig 引数値 : RAT (続き)**

	--bypass_rc	受信制御をバイパスします。デフォルトは「No」です。
	--bypass_la	LDAP 承認クエリーをバイパスします。「Yes」または「No」。

## 例 : リスナーの追加

次の例では、`listenerconfig` コマンドを使用して、エンタープライズ ゲートウェイ構成に必要な B リスナーに使用できる、**OutboundMail** と呼ばれる新しいプライベート リスナーを作成します。(注 : このプライベート リスナーは、GUI の **System Setup Wizard** または CLI の `systemsetup` コマンドを実行するときに追加することもできます)。

プライベート リスナー タイプを選択し、名前を **OutboundMail** に設定します。このリスナーは、**PrivateNet IP** インターフェイス上でポート 25 の SMTP プロトコルを使用して動作するように指定します。このリスナーのホスト アクセス ポリシーのデフォルト値が受け入れられます。

**表 3-172 listenerconfig : リスナーの追加**

```
mail3.example.com> listenerconfig

Currently configured listeners:

1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP TCP Port 25 Public

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.

[]> new
```

**表 3-172 listenerconfig : リスナーの追加 (続き)**

Please select the type of listener you want to create.

1. Private
2. Public
3. Blackhole

[2]> **1**

Please create a name for this listener (Ex: "OutboundMail"):

[ ]> **OutboundMail**

Please choose an IP interface for this Listener.

1. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
2. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
3. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)

[1]> **2**

Choose a protocol.

1. SMTP
2. QMQP

[1]> **1**

**表 3-172 listenerconfig : リスナーの追加 (続き)**

Please enter the TCP port for this listener.

[25]> 25

Please specify the systems allowed to relay email through the IronPort C60.

Hostnames such as "example.com" are allowed.

Partial hostnames such as ".example.com" are allowed.

IP addresses, IP address ranges, and partial IP addresses are allowed.

Separate multiple entries with commas.

[ ]> .example.com

Do you want to enable rate limiting for this listener? (Rate limiting defines the maximum number of recipients per hour you are willing to receive from a remote domain.) [N]> n

Default Policy Parameters

=====

Maximum Message Size: 100M

Maximum Number Of Connections From A Single IP: 600

Maximum Number Of Messages Per Connection: 10,000

Maximum Number Of Recipients Per Message: 100,000

Maximum Number Of Recipients Per Hour: Disabled

Use SenderBase for Flow Control: No

**表 3-172 listenerconfig : リスナーの追加 (続き)**

```
Spam Detection Enabled: No

Virus Detection Enabled: Yes

Allow TLS Connections: No

Allow SMTP Authentication: No

Require TLS To Offer SMTP authentication: No

Would you like to change the default host access policy? [N]> n

Listener OutboundMail created.

Defaults have been set for a Private listener.

Use the listenerconfig->EDIT command to customize the listener.

Currently configured listeners:

1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP TCP Port 25 Public
2. OutboundMail (on PrivateNet, 192.168.1.1) SMTP TCP Port 25 Private

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new listener.

- EDIT - Modify a listener.

- DELETE - Remove a listener.

- SETUP - Change global settings.

[]>
```

## 例：エクスポートおよびインポートによるリスナーのホスト アクセス テーブル (HAT) のカスタマイズ

`listenerconfig` コマンドのサブコマンドの多くでは、データのインポートとエクスポートによって大規模な設定変更ができるため、CLI にデータを少しずつ入力する必要がありません。

この手順では、CLI を使用して、ファイルをエクスポートし、変更を加えてインポートすることにより、リスナーのホスト アクセス テーブル (HAT) を変更します。HAT CLI エディタまたは GUI を使用してリスナーの HAT をカスタマイズすることもできます。詳細については、『*IronPort AsyncOS User Guide*』の「Configuring the Gateway to Receive Mail」および「Using Mail Flow Monitor」の章を参照してください。

エクスポートとインポートによって定義した、リスナーの HAT をカスタマイズするには：

---

**ステップ 1** `listenerconfig` の `hostaccess -> export` サブコマンドを使用して、デフォルトの HAT をファイルにエクスポートします。

次の例では、パブリック リスナー `InboundMail` の HAT を出力し、さらに `inbound.HAT.txt` というファイルにエクスポートします。

**表 3-173** `listenerconfig` : HAT のエクスポート

```
mail3.example.com> listenerconfig
```

```
Currently configured listeners:
```

1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP TCP Port 25 Public
2. OutboundMail (on PrivateNet, 192.168.1.1) SMTP TCP Port 25 Private

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new listener.
```

**表 3-173 listenerconfig : HAT のエクスポート (続き)**

- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.

```
[> edit
```

```
Enter the name or number of the listener you wish to edit.
```

```
[> 1
```

```
Name: InboundMail
```

```
Type: Public
```

```
Interface: PublicNet (192.168.2.1/24) TCP Port 25
```

```
Protocol: SMTP
```

```
Default Domain:
```

```
Max Concurrency: 1000 (TCP Queue: 50)
```

```
Domain map: disabled
```

```
TLS: No
```

```
SMTP Authentication: Disabled
```

```
Bounce Profile: Default
```

```
Use SenderBase For Reputation Filters and IP Profiling: Yes
```

```
Footer: None
```

```
LDAP: off
```

**表 3-173 listenerconfig : HAT のエクスポート (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
- DOMAINMAP - Configure domain mappings.

[ ]> **hostaccess**

Default Policy Parameters

=====

**表 3-173 listenerconfig : HAT のエクスポート (続き)**

```
Maximum Message Size: 10M
Maximum Number Of Concurrent Connections From A Single IP: 10
Maximum Number Of Messages Per Connection: 10
Maximum Number Of Recipients Per Message: 50
Directory Harvest Attack Prevention: Enabled
Maximum Number Of Invalid Recipients Per Hour: 25
Maximum Number Of Recipients Per Hour: Disabled
Use SenderBase for Flow Control: Yes
Spam Detection Enabled: Yes
Virus Detection Enabled: Yes
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
DKIM/DomainKeys Signing Enabled: No
DKIM Verification Enabled: No
SPF/SIDF Verification Enabled: No
Envelope Sender DNS Verification Enabled: No
Domain Exception Table Enabled: No
Accept untagged bounces: No
```

There are currently 4 policies defined.

There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.

**表 3-173 listenerconfig : HAT のエクスポート (続き)**

- EXPORT - Export the table to a file.

- CLEAR - Remove all entries.

```
[> print
```

```
$BLOCKED
```

```
    REJECT {}
```

```
$TRUSTED
```

```
    ACCEPT {
```

```
        tls = "off"
```

```
        dhap_limit = 0
```

```
        max_rcpts_per_hour = -1
```

```
        virus_check = "on"
```

```
        max_msgs_per_session = 5000
```

```
        spam_check = "off"
```

```
        use_sb = "off"
```

```
        max_message_size = 104857600
```

```
        max_rcpts_per_msg = 5000
```

```
        max_concurrency = 600
```

```
    }
```

```
$ACCEPTED
```

```
    ACCEPT {}
```

**表 3-173** listenerconfig : HAT のエクスポート (続き)

```
$THROTTLED

ACCEPT {

    tls = "off"

    dhap_limit = 0

    max_rcpts_per_hour = 1

    virus_check = "on"

    max_msgs_per_session = 10

    spam_check = "on"

    use_sb = "on"

    max_message_size = 1048576

    max_rcpts_per_msg = 25

    max_concurrency = 10

}

WHITELIST:

    $TRUSTED (My trusted senders have no anti-spam or rate limiting)

BLACKLIST:

    $BLOCKED (Spammers are rejected)

SUSPECTLIST:

    $THROTTLED (Suspicious senders are throttled)
```

**表 3-173**      **listenerconfig : HAT のエクスポート (続き)**

UNKNOWNLIST:

    \$ACCEPTED (Reviewed but undecided, continue normal acceptance)

ALL

    \$ACCEPTED (Everyone else)

Default Policy Parameters

=====

Allow TLS Connections: No

Allow SMTP Authentication: No

Require TLS To Offer SMTP authentication: No

Maximum Concurrency Per IP: 1,000

Maximum Message Size: 100M

Maximum Messages Per Connection: 1,000

Maximum Recipients Per Message: 1,000

Maximum Recipients Per Hour: Disabled

Use SenderBase For Flow Control: Yes

Spam Detection Enabled: Yes

Virus Detection Enabled: Yes

**表 3-173 listenerconfig : HAT のエクスポート (続き)**

There are currently 4 policies defined.

There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.

```
[> export
```

Enter a name for the exported file:

```
[> inbound.HAT.txt
```

File written on machine "mail3.example.com".

**ステップ 2** コマンドライン インターフェイス (CLI) の外部で、ファイル `inbound.HAT.txt` を取得します。

**ステップ 3** テキスト エディタを使用して、このファイルに新しい HAT エントリを作成します。

この例では、HAT 内の ALL エントリの上に以下のエントリを追加します。

```
spamdomain.com REJECT
.spamdomain.com REJECT
251.192.1. TCPREFUSE
169.254.10.10 RELAY
```

- 最初の 2 つのエントリは、ドメイン `spamdomain.com` および `spamdomain.com` のサブドメイン内のリモート ホストからの接続をすべて拒否します。
- 3 つ目のエントリは、IP アドレスが `251.192.1.x` であるホストからの接続を拒否します。
- 4 つ目のエントリによって、IP アドレスが `169.254.10.10` であるリモート ホストは、インターネットへのすべての発信電子メールについて IronPort アプライアンスを SMTP リレーとして使用できます。



**(注)** HAT 内でのルールの順序は重要な意味を持ちます。リスナーに接続しようとするホストごとに、HAT は上から下へ順番に読み込まれます。接続元ホストにルールが一致する場合、その接続に対してすぐにアクションが実行されます。HAT では、すべてのカスタム エントリを ALL ホスト定義より上に配置する必要があります。HAT CLI エディタまたは GUI を使用してリスナーの HAT をカスタマイズすることもできます。詳細については、『*IronPort AsyncOS User Guide*』の「Configuring the Gateway to Receive Mail」および「Using Mail Flow Monitor」の章を参照してください。

**ステップ 4** ファイルを保存してインターフェイスの `configuration` ディレクトリに配置し、インポートできるようにします。(詳細については、付録 B 「Accessing the Appliance」を参照してください)。

**ステップ 5** `listenerconfig` の `hostaccess -> import` サブコマンドを使用して、編集済みのホスト アクセス テーブル ファイルをインポートします。

次の例では、編集済みのファイル `inbound.HAT.txt` を **InboundMail** リスナーの **HAT** にインポートします。 `print` サブコマンドを使用して新しいエントリを出力します。

**表 3-174**            **listenerconfig : HAT のインポート**

```
mail3.example.com> listenerconfig
```

```
Currently configured listeners:
```

1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP TCP Port 25 Public
2. OutboundMail (on PrivateNet, 192.168.1.1) SMTP TCP Port 25 Private

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.

```
[> edit
```

```
Enter the name or number of the listener you wish to edit.
```

```
[> 1
```

```
Name: InboundMail
```

```
Type: Public
```

**表 3-174 listnerconfig : HAT のインポート (続き)**

Interface: PublicNet (192.168.2.1/24) TCP Port 25

Protocol: SMTP

Default Domain:

Max Concurrency: 1000 (TCP Queue: 50)

Domain Map: Disabled

TLS: No

SMTP Authentication: Disabled

Bounce Profile: Default

Use SenderBase For Reputation Filters and IP Profiling: Yes

Footer: None

LDAP: Off

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.

**表 3-174 listnerconfig : HAT のインポート (続き)**

- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.

- DOMAINMAP - Configure domain mappings.

[> **hostaccess**

Default Policy Parameters

=====

Allow TLS Connections: No

Allow SMTP Authentication: No

Require TLS To Offer SMTP authentication: No

Maximum Concurrency Per IP: 1,000

Maximum Message Size: 100M

Maximum Messages Per Connection: 1,000

Maximum Recipients Per Message: 1,000

Maximum Recipients Per Hour: Disabled

Use SenderBase For Flow Control: Yes

Spam Detection Enabled: Yes

Virus Detection Enabled: Yes

There are currently 4 policies defined.

There are currently 5 sender groups.

**表 3-174 listnerconfig : HAT のインポート (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.

```
[> import
```

Enter the name of the file to import:

```
[> inbound.HAT.txt
```

9 entries imported successfully.

Default Policy Parameters

=====

Allow TLS Connections: No

Allow SMTP Authentication: No

**表 3-174 listnerconfig : HAT のインポート (続き)**

Require TLS To Offer SMTP authentication: No

Maximum Concurrency Per IP: 1,000

Maximum Message Size: 100M

Maximum Messages Per Connection: 1,000

Maximum Recipients Per Message: 1,000

Maximum Recipients Per Hour: Disabled

Use SenderBase For Flow Control: Yes

Spam Detection Enabled: Yes

Virus Detection Enabled: Yes

There are currently 4 policies defined.

There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.

**表 3-174 listnerconfig : HAT のインポート (続き)**

- EXPORT - Export the table to a file.

- CLEAR - Remove all entries.

```
[> print
```

```
$ACCEPTED
```

```
ACCEPT
```

```
$THROTTLED
```

```
ACCEPT {
```

```
    spam_check = "on"
```

```
    max_msgs_per_session = 10
```

```
    max_concurrency = 10
```

```
    max_rcpts_per_msg = 25
```

```
    max_rcpts_per_hour = 1
```

```
    dhap_limit = 0
```

```
    virus_check = "on"
```

```
    max_message_size = 1048576
```

```
    use_sb = "on"
```

```
    tls = "off"
```

```
}
```

```
$TRUSTED
```

```
ACCEPT {
```

**表 3-174**      **listenerconfig : HAT のインポート (続き)**

```
spam_check = "off"

max_msgs_per_session = 5000

max_concurrency = 600

max_rcpts_per_msg = 5000

max_rcpts_per_hour = -1

dhap_limit = 0

virus_check = "on"

max_message_size = 104857600

use_sb = "off"

tls = "off"

}

$BLOCKED

REJECT

WHITELIST:

    $TRUSTED (My trusted senders have no anti-spam scanning or rate
limiting)

BLACKLIST:

    $BLOCKED (Spammers are rejected)
```

**表 3-174 listnerconfig : HAT のインポート (続き)**

SUSPECTLIST:

\$THROTTLED (Suspicious senders are throttled)

UNKNOWNLIST:

\$ACCEPTED (Reviewed but undecided, continue normal acceptance)

spamdomain.com

REJECT (reject the domain "spamdomain.com")

.spamdomain.com

REJECT (reject all subdomains of ".spamdomain.com")

251.192.1.

TCPREFUSE (TCPREFUSE the IP addresses in "251.192.1")

169.254.10.10

RELAY (RELAY the address 169.254.10.10)

ALL

\$ACCEPTED (Everyone else)

**表 3-174 listnerconfig : HAT のインポート (続き)**

```
Default Policy Parameters
=====

Allow TLS Connections: No

Allow SMTP Authentication: No

Require TLS To Offer SMTP authentication: No

Maximum Concurrency Per IP: 1,000

Maximum Message Size: 100M

Maximum Messages Per Connection: 1,000

Maximum Recipients Per Message: 1,000

Maximum Recipients Per Hour: Disabled

Use SenderBase For Flow Control: Yes

Spam Detection Enabled: Yes

Virus Detection Enabled: Yes

There are currently 4 policies defined.

There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
```

**表 3-174** listenerconfig : HAT のインポート (続き)

```
- EDIT - Modify an entry.  
  
- DELETE - Remove an entry.  
  
- MOVE - Move an entry.  
  
- DEFAULT - Set the defaults.  
  
- PRINT - Display the table.  
  
- IMPORT - Import a table from a file.  
  
- EXPORT - Export the table to a file.  
  
- CLEAR - Remove all entries.  
  
[]>
```

インポート後には、設定変更を有効にするために、必ず commit コマンドを発行します。

## 例 : HAT の詳細パラメータ

表 3-175 では、HAT の詳細パラメータの構文を定義しています。次の値は数値であり、後に **k** を追加してキロバイトで表すか、後に **M** を追加してメガバイトで表すことができます。文字のない値はバイトと見なされます。アスタリスクが付いたパラメータは、表 3-175 に示す変数構文をサポートしています。

**表 3-175** HAT 詳細パラメータの構文

パラメータ	構文	値	値の例
Maximum messages per connection	max_msgs_per_session	番号	1000
Maximum recipients per message	max_rcpts_per_msg	番号	10000 1k
Maximum message size	max_message_size	番号	1048576 20M

表 3-175 HAT 詳細パラメータの構文 (続き)

パラメータ	構文	値	値の例
リスナーへの最大同時接続数	max_concurrency	番号	1000
SMTP バナー コード	smtp_banner_code	番号	220
SMTP バナー テキスト (*)	smtp_banner_text	文字列	Accepted
SMTP 拒否バナー コード	smtp_banner_code	番号	550
SMTP 拒否バナー テキスト (*)	smtp_banner_text	文字列	Rejected
Override SMTP Banner Hostname	use_override_hostname	on   off   default	default
	override_hostname	文字列	newhostname
TLS の使用	tls	on   off   required	on
anti-spam スキャンの使用	spam_check	on   off	off
Sophos ウイルス スキャンの使用	virus_check	on   off	off
1 時間あたりの最大受信者数	max_rcpts_per_hour	番号	5k
1 時間あたりのエラーコードの最大受信者数	max_rcpts_per_hour_code	番号	452
1 時間あたりのテキストの最大受信者数	max_rcpts_per_hour_text	文字列	Too many recipients
SenderBase の使用	use_sb	on   off	on
SenderBase 評価スコアの定義	sbrs[value1:value2]	-10.0- 10.0	sbrs[-10:-7.5]
Directory Harvest Attack Prevention : 1 時間あたりの無効な受信者の最大数	dhap_limit	番号	150

## 例：SPF および SIDF の設定

リスナーのホスト アクセス テーブルのデフォルトの設定をする場合、リスナーの SPF/SIDF 準拠レベルと、アプライアンスが SPF/SIDF 検証結果に基づいて実行する SMTP アクション (ACCEPT または REJECT) を選択できます。アプライアンスがメッセージを拒否する場合に送信する SMTP 応答を定義することもできます。

準拠レベルに応じて、アプライアンスは HELO ID、MAIL FROM ID、または PRA ID に対してチェックを実行します。アプライアンスが、次の各 ID チェックの各 SPF/SIDF 検証結果に対し、セッションを続行する (ACCEPT) か、セッションを終了する (REJECT) かを指定できます。

- [None]。情報の不足のため、検証を実行できません。
- [Neutral]。ドメイン所有者は、クライアントに指定された ID を使用する権限があるかどうかをアサートしません。
- [SoftFail]。ドメイン所有者は、ホストが指定された ID を使用する権限がないと思うが、断言を避けたいと考えています。
- [Fail]。クライアントは、指定された ID でメールを送信する権限がありません。
- [TempError]。検証中に一時的なエラーが発生しました。
- [PermError]。検証中に永続的なエラーが発生しました。

アプライアンスは、メッセージに Resent-Sender: または Resent-From: ヘッダーが存在する場合に、PRA ID の Pass 結果を None にダウングレードするように SIDF 互換準拠レベルを設定していない限り、Pass 結果のメッセージを受け入れます。アプライアンスは PRA チェックで None が返された場合に指定された SMTP アクションを実行します。

ID チェックに対して SMTP アクションを定義していない場合、アプライアンスは Fail を含むすべての検証結果を自動的に受け入れます。

イネーブルにされたいずれかの ID チェックの ID 検証結果が REJECT アクションに一致する場合、アプライアンスはセッションを終了します。たとえば、管理者は、すべての HELO ID チェック結果に基づいてメッセージを受け入れるようにリスナーを設定しますが、MAIL FROM ID チェックからの Fail 結果に対してはメッセージを拒否するようにリスナーを設定するとします。メッセージが HELO ID チェックに失敗しても、アプライアンスはその結果を受け入れるため、セッションが続行します。次に、メッセージが MAIL FROM ID チェックで失敗した場合、リスナーはセッションを終了し、REJECT アクションの SMTP 応答を返します。

SMTP 応答は、アプライアンスが SPF/SIDF 検証結果に基づいてメッセージを拒否する場合に返すコード番号とメッセージです。TempError 結果は、他の検証結果と異なる SMTP 応答を返します。TempError の場合、デフォルトの応答コードは 451 で、デフォルトのメッセージ テキストは「#4.4.3 Temporary error occurred during SPF verification」です。他のすべての検証結果では、デフォルトの応答コードは 550 で、デフォルトのメッセージ テキストは「#5.7.1 SPF unauthorized mail is prohibited」です。TempError や他の検証結果に独自の応答コードとメッセージ テキストを指定できます。

任意で、Neutral、SoftFail、または Fail 検証結果に対して REJECT アクションが実行された場合に、SPF パブリッシャ ドメインから、サードパーティの応答を返すように、アプライアンスを設定することができます。デフォルトで、アプライアンスは次の応答を返します。

```
550-#5.7.1 SPF unauthorized mail is prohibited.
```

```
550-The domain example.com explains:
```

```
550 <Response text from SPF domain publisher>
```

これらの SPF/SIDF 設定をイネーブルにするには、listenerconfig -> edit サブコマンドを使用し、リスナーを選択します。次に、hostaccess -> default サブコマンドを使用して、ホスト アクセス テーブルのデフォルトの設定を編集します。次のプロンプトに yes と答えて、SPF 制御を設定します。

```
Would you like to change SPF/SIDF settings? [N]> yes
```

```
Would you like to perform SPF/SIDF Verification? [Y]> yes
```

ホスト アクセス テーブルでは、次の SPF 制御設定を使用できます。

**表 3-176**      **SPF 制御設定**

準拠レベル	使用可能な SPF 制御設定
SPF Only	<ul style="list-style-type: none"><li>• HELO ID チェックを実行するかどうか</li><li>• 次の ID チェックの結果に基づいて実行される SMTP アクション</li><li>• HELO ID (イネーブルの場合)</li><li>• MAIL FROM ID</li><li>• REJECT アクションに対して返される SMTP 応答コードとテキスト</li><li>• 秒単位の検証タイムアウト</li></ul>
SIDF Compatible	<ul style="list-style-type: none"><li>• HELO ID チェックを実行するかどうか</li><li>• メッセージに Resent-Sender: または Resent-From: ヘッダーが存在する場合に、検証で PRA ID の Pass 結果を None にダウングレードするかどうか</li><li>• 次の ID チェックの結果に基づいて実行される SMTP アクション</li><li>• HELO ID (イネーブルの場合)</li><li>• MAIL FROM ID</li><li>• PRA Identity</li><li>• REJECT アクションに対して返される SMTP 応答コードとテキスト</li><li>• 秒単位の検証タイムアウト</li></ul>
SIDF Strict	<ul style="list-style-type: none"><li>• 次の ID チェックの結果に基づいて実行される SMTP アクション</li><li>• MAIL FROM ID</li><li>• PRA Identity</li><li>• SPF REJECT アクションの場合に返される SMTP 応答コードとテキスト</li><li>• 秒単位の検証タイムアウト</li></ul>

次に、ユーザが **SPF Only** 準拠レベルを使用して、**SPF/SIDF** 検証を設定する例を示します。アプライアンスは **HELO ID** チェックを実行し、**None** および **Neutral** 検証結果を受け入れ、その他の結果を拒否します。SMTP アクションの CLI プロンプトはすべての ID タイプで同じです。ユーザは **MAIL FROM ID** の SMTP アクションを定義しません。アプライアンスは、その ID のすべての検証結果を自動的に受け入れます。アプライアンスはすべての **REJECT** 結果に対して、デフォルトの拒否コードとテキストを使用します。

### 表 3-177 SPF/SIDF 設定

```
Would you like to change SPF/SIDF settings? [N]> yes
```

```
Would you like to perform SPF/SIDF Verification? [N]> yes
```

```
What Conformance Level would you like to use?
```

1. SPF only
2. SIDF compatible
3. SIDF strict

```
[2]> 1
```

```
Would you like to have the HELO check performed? [Y]> y
```

```
Would you like to change SMTP actions taken as result of the SPF verification? [N]> y
```

```
Would you like to change SMTP actions taken for the HELO identity? [N]> y
```

**表 3-177          SPF/SIDF 設定**

What SMTP action should be taken if HELO check returns None?

1. Accept

2. Reject

[1]> **1**

What SMTP action should be taken if HELO check returns Neutral?

1. Accept

2. Reject

[1]> **1**

What SMTP action should be taken if HELO check returns SoftFail?

1. Accept

2. Reject

[1]> **2**

What SMTP action should be taken if HELO check returns Fail?

1. Accept

2. Reject

[1]> **2**

What SMTP action should be taken if HELO check returns TempError?

**表 3-177      SPF/SIDF 設定**

1. Accept

2. Reject

[1]> **2**

What SMTP action should be taken if HELO check returns PermError?

1. Accept

2. Reject

[1]> **2**

Would you like to change SMTP actions taken for the MAIL FROM identity?

[N]> **n**

Would you like to change SMTP response settings for the REJECT action?

[N]> **n**

Verification timeout (seconds)

[40]>

次に、リスナーのデフォルトのポリシー パラメータに SPF/SIDF 設定がどのように表示されるかを示します。

**表 3-178      デフォルト ポリシー パラメータの SPF/SIDF**

SPF/SIDF Verification Enabled: Yes

Conformance Level: SPF only

**表 3-178**      **デフォルト ポリシー パラメータの SPF/SIDF**

```
Do HELO test: Yes

SMTP actions:

  For HELO Identity:

    None, Neutral: Accept

    SoftFail, Fail, TempError, PermError: Reject

  For MAIL FROM Identity: Accept

SMTP Response Settings:

  Reject code: 550

  Reject text: #5.7.1 SPF unauthorized mail is prohibited.

  Get reject response text from publisher: Yes

  Defer code: 451

  Defer text: #4.4.3 Temporary error occurred during SPF
verification.

  Verification timeout: 40
```

## localeconfig

### 説明

多言語対応の設定値を設定します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシンモード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-179 localeconfig**

```
mail3.example.com> localeconfig
```

```
Behavior when modifying headers: Use encoding of message body
```

```
Behavior for untagged non-ASCII headers: Impose encoding of message body
```

```
Behavior for mismatched encodings bodies and footers: Use encoding of message footer
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Configure multi-lingual settings.
```

```
[> setup
```

```
If a header is modified, encode the new header in the same encoding as the message body? (Some MUAs incorrectly handle headers encoded in a different encoding than the body. However, encoding a modified header in the same encoding as the message body may cause certain characters in the modified header to be lost.) [Y]>
```

```
If a non-ASCII header is not properly tagged with a character set, impose the encoding of the body on the header during processing and final representation of the message? (Many MUAs create non-RFC-compliant headers that are then handled in an undefined way. Imposing the encoding of the body on the header may encode the header more precisely.) [Y]>
```

**表 3-179 localeconfig (続き)**

When there is an encoding mismatch between the message body and a footer, the system initially attempts to encode the entire message in the same encoding as the message body. If the system cannot combine the message body and the footer in the same encoding, do you want the system to failover and attempt to encode the entire message using the encoding of the message footer? (When this feature is enabled, the system will attempt to display the footer "in-line" rather than defaulting to adding it as an attachment.) [N]> **y**

Behavior when modifying headers: Use encoding of message body

Behavior for untagged non-ASCII headers: Impose encoding of message body

**Behavior for mismatched encodings bodies and footers: Use encoding of message body**

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Configure multi-lingual settings.

[ ]>mail3.example.com>

## smtpauthconfig

### 説明

SMTP 認証発信および転送プロファイルを設定します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次の例では、`smtppauthconfig` コマンドを使用して、サーバ「`smtp2.example.com`」の新しい転送ベースのプロファイルを作成します。

**表 3-180** `smtppauthconfig`

```
mail3.example.com> smtppauthconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new SMTP Auth profile
```

```
[> new
```

```
Choose the type of profile you wish to create:
```

```
- FORWARD - Create an SMTP Auth forwarding server group profile
```

```
- OUTGOING - Create an outgoing SMTP Auth profile
```

```
[> forward
```

```
Enter a name for this profile:
```

```
[> forwarding-based
```

```
Please begin entering forwarding servers for this group profile.
```

**表 3-180 smtpauthconfig (続き)**

Enter a hostname or an IP address for the forwarding server:

```
[ ]> smtp2.example.com
```

Enter a port:

```
[25]>
```

Choose the interface to use for forwarding requests:

1. Auto
2. Data 1 (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
3. Data 2 (192.168.2.1/24: mail3.example.com)
4. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)

```
[1]>
```

Require TLS? (issue STARTTLS) [Y]> **y**

Enter the maximum number of simultaneous connections allowed:

```
[10]>
```

Use SASL PLAIN mechanism when contacting forwarding server? [Y]>

Use SASL LOGIN mechanism when contacting forwarding server? [Y]>

### 表 3-180 smtpauthconfig (続き)

```
Would you like to enter another forwarding server to this group? [N]>
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new SMTP Auth profile
- EDIT - Edit an existing SMTP Auth profile
- PRINT - List all profiles
- DELETE - Delete a profile
- CLEAR - Delete all profiles

```
[ ]>
```

```
mail3.example.com> commit
```

```
Please enter some comments describing your changes:
```

```
[ ]> created SMTP auth profile
```

```
Changes committed: Tue Dec 21 12:51:56 2004 PST
```



---

**(注)** 認証済みのユーザには、RELAY HAT ポリシーが許可されます。

---



---

**(注)** 1つのプロファイル内で複数の転送サーバを指定することもできます。SASL メカニズム CRAM-MD5 と DIGEST-MD5 は、IronPort C-Series アプライアンスと転送サーバの間ではサポートされません。

---

# システムのセットアップ

## systemsetup

### 説明

初回のシステム セットアップおよびシステムの再インストール。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-181**      **systemsetup**

```
mail3.example.com> systemsetup
```

```
WARNING: The system setup wizard will completely delete any existing  
'listeners' and all associated settings including the 'Host Access Table'  
-  
mail operations may be interrupted.
```

```
Are you sure you wish to continue? [Y]> y
```

```
Before you begin, please reset the administrator password to a new value.
```

```
Old password:
```

```
New password:
```

```
Retype new password:
```

```
*****
```

```
You will now configure the network settings for the IronPort C100.
```

```
Please create a fully qualified hostname for the IronPort C100 appliance
```

```
(Ex: "ironport-C100.example.com"):
```

```
[ ]> ironport-C100.example.com
```

**表 3-181      systemsetup (続き)**

\*\*\*\*\*

You will now assign an IP address for the "Data 1" interface.

Please create a nickname for the "Data 1" interface (Ex: "Data 1"):

[ ]> **Data 1**

Enter the static IP address for "Data 1" on the "Data 1" interface? (Ex:

"192.168.1.1"):

[ ]> **192.168.1.1**

What is the netmask for this IP address? (Ex: "255.255.255.0" or  
"0xffffffff"):

[255.255.255.0]>

You have successfully configured IP Interface "Data 1".

\*\*\*\*\*

Would you like to assign a second IP address for the "Data 1" interface?

[Y]> **n**

**表 3-181      systemsetup (続き)**

What is the IP address of the default router (gateway) on your network?:

[192.168.1.1]> **192.168.2.1**

\*\*\*\*\*

Do you want to enable the web interface on the Data 1 interface? [Y]> **y**

Do you want to use secure HTTPS? [Y]> **y**

Note: The system will use a demo certificate for HTTPS.

Use the "certconfig" command to upload your own certificate.

\*\*\*\*\*

Do you want the IronPort C100 to use the Internet's root DNS servers or would

you like it to use your own DNS servers?

1. Use Internet root DNS servers
2. Use my own DNS servers

**表 3-181      systemsetup (続き)**

```
[1]> 2
```

Please enter the IP address of your DNS server.

```
[ ]> 192.168.0.3
```

Do you want to enter another DNS server? [N]>

You have successfully configured the DNS settings.

```
*****
```

You are now going to configure how the IronPort C100 accepts mail by creating a

"Listener".

Please create a name for this listener (Ex: "MailInterface"):

```
[ ]> InboundMail
```

Please choose an IP interface for this Listener.

1. Data 1 (192.168.1.1/24: ironport-C100.example.com)

```
[1]> 1
```

### 表 3-181 systemsetup (続き)

Enter the domain names or specific email addresses you want to accept mail for.

Hostnames such as "example.com" are allowed.

Partial hostnames such as ".example.com" are allowed.

Username such as "postmaster@" are allowed.

Full email addresses such as "joe@example.com" or "joe@[1.2.3.4]" are allowed.

Separate multiple addresses with commas.

```
[> example.com, .example.com
```

Would you like to configure SMTP routes for example.com, .example.com?

```
[Y]> n
```

Please specify the systems allowed to relay email through the IronPort C100.

Hostnames such as "example.com" are allowed.

Partial hostnames such as ".example.com" are allowed.

IP addresses, IP address ranges, and partial IP addresses are allowed.

Separate multiple entries with commas.

```
[> example.com, .example.com
```

Do you want to enable filtering based on SenderBase Reputation Service (SBRs)?

**表 3-181      systemsetup (続き)**

Scores for this listener? (Your selection will be used to filter all incoming

mail based on its SBRS Score.) [Y]> **y**

Do you want to enable rate limiting for this listener? (Rate limiting defines

the maximum number of recipients per hour you are willing to receive from a

remote domain.) [Y]> **y**

Enter the maximum number of recipients per hour to accept from a remote domain.

[ ]> **1000**

Default Policy Parameters

=====

Maximum Message Size: 10M

Maximum Number Of Concurrent Connections From A Single IP: 10

Maximum Number Of Messages Per Connection: 10

Maximum Number Of Recipients Per Message: 50

Directory Harvest Attack Prevention: Enabled

Maximum Number Of Invalid Recipients Per Hour: 25

Maximum Number Of Recipients Per Hour: 1,000

**表 3-181      systemsetup (続き)**

```
Maximum Recipients Per Hour SMTP Response:
    452 Too many recipients received this hour

Use SenderBase for Flow Control:  Yes

Spam Detection Enabled:  Yes

Virus Detection Enabled:  Yes

Allow TLS Connections:  No

Allow SMTP Authentication:  No

Require TLS To Offer SMTP authentication:  No

DKIM/DomainKeys Signing Enabled:  No

DKIM Verification Enabled:  No

SPF/SIDF Verification Enabled:  No

Envelope Sender DNS Verification Enabled:  No

Domain Exception Table Enabled:  No

Accept untagged bounces:  No

Would you like to change the default host access policy? [N]> n

Listener InboundMail created.

Defaults have been set for a Public listener.

Use the listenerconfig->EDIT command to customize the listener.

*****
```

**表 3-181      systemsetup (続き)**

Do you want to use Anti-Spam scanning in the default Incoming Mail policy? [Y]> **y**

Would you like to enable IronPort Spam Quarantine? [Y]> **y**

IronPort Anti-Spam configured globally for the IronPort C100 appliance. Use the

policyconfig command (CLI) or Mail Policies (GUI) to customize the IronPort

settings for each listener.

IronPort selected for DEFAULT policy

\*\*\*\*\*

Do you want to use Anti-Virus scanning in the default Incoming and Outgoing

Mail policies? [Y]> **y**

1. McAfee Anti-Virus

2. Sophos Anti-Virus

Enter the number of the Anti-Virus engine you would like to use on the default

**表 3-181      systemsetup (続き)**

Incoming and Outgoing Mail policies.

[ ]> 2

Sophos selected for DEFAULT policy

\*\*\*\*\*

Do you want to enable Virus Outbreak Filters? [Y]> y

Virus Outbreak Filters enabled. The current threshold is 3.

Virus Outbreak Filter alerts are sent when outbreak rules cross the threshold

(go above or back down below), meaning that new messages of certain types could

be quarantined or will no longer be quarantined, respectively.

Allow the sharing of limited data with SenderBase? [Y]> y

You have successfully configured Virus Outbreak Filters and SenderBase.

\*\*\*\*\*

**表 3-181      systemsetup (続き)**

You will now configure system alerts.

Please enter the email address(es) to send alerts.

(Ex: "administrator@example.com")

Separate multiple addresses with commas.

```
[> administrator@example.com
```

Would you like to enable IronPort AutoSupport, which automatically emails system alerts and weekly status reports directly to IronPort Customer Support?

You will receive a complete copy of each message sent to IronPort.

(Recommended) [Y]> **y**

\*\*\*\*\*

You will now configure scheduled reporting.

Please enter the email address(es) to deliver scheduled reports to.

(Leave blank to only archive reports on-box.)

Separate multiple addresses with commas.

```
[> administrator@example.com
```

**表 3-181      systemsetup (続き)**

\*\*\*\*\*

You will now configure system time settings.

Please choose your continent:

1. Africa

2. America

...

11. GMT Offset

[11]> **2**

Please choose your country:

1. Anguilla

...

47. United States

48. Uruguay

49. Venezuela

50. Virgin Islands (British)

51. Virgin Islands (U.S.)

**表 3-181      systemsetup (続き)**

```
[ ]> 47
```

```
Please choose your timezone:
```

```
1. Alaska Time (Anchorage)
```

```
...
```

```
26. Pacific Time (Los_Angeles)
```

```
[ ]> 26
```

```
Do you wish to use NTP to set system time? [Y]> y
```

```
Please enter the fully qualified hostname or IP address of your NTP  
server, or
```

```
press Enter to use time.ironport.com:
```

```
[time.ironport.com]>
```

```
*****
```

```
Would you like to commit these changes at this time? [Y]> y
```

## 表 3-181 systemsetup (続き)

Congratulations! System setup is complete.

For advanced configuration, please refer to the User Guide.

# ユーザの管理

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [userconfig](#)
- [password](#) または [passwd](#)
- [last](#)
- [who](#)
- [whoami](#)

## userconfig

### 説明

ユーザ アカウントと外部の認証ソースへの接続を管理します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはクラスタ モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例：新しいユーザ アカウントの作成

次に、Help Desk User ロールを持つ新しいユーザ アカウントの作成例を示します。

**表 3-182 userconfig : 新しいユーザ アカウントの作成**

```
mail3.example.com> userconfig

Users:

1. admin - "Administrator" (admin)

External authentication: Disabled

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new account.
- EDIT - Modify an account.
- DELETE - Remove an account.
- PASSWORD - Change the password for a user.
- EXTERNAL - Configure external authentication.

[> new

Enter the new username.

[> helpdesk1
```

**表 3-182 userconfig : 新しいユーザ アカウントの作成 (続き)**

Enter the full name for helpdesk1.

```
[ ]> Help Desk
```

Assign a role to "helpdesk1":

1. Administrators - Administrators have full access to all settings of the system.
2. Operators - Operators are restricted from creating new user accounts.
3. Read-Only Operators - Read-Only operators may only view settings and status information.
4. Guests - Guest users may only view status information.
5. Help Desk Users - Help Desk users have access only to ISQ and Message Tracking.

```
[1]> 5
```

Enter the password for helpdesk1.

```
>
```

Please enter the new password again.

```
>
```

Users:

1. admin - "Administrator" (admin)
2. helpdesk1 - "Help Desk" (helpdesk)

**表 3-182 userconfig : 新しいユーザ アカウントの作成 (続き)**

```
External authentication: Disabled

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new account.

- EDIT - Modify an account.

- DELETE - Remove an account.

- PASSWORD - Change the password for a user.

- EXTERNAL - Configure external authentication.

[]>
```

## 例 : RADIUS サーバを外部認証用にセットアップ

次に、RADIUS サーバを外部認証用にセットアップする例を示します。RADIUS サーバをセットアップするには、ホスト名、ポート、および共有パスワードを入力し、認証プロトコルとして CHAP と PAP のどちらを使用するかを指定します。

**表 3-183 userconfig : RADIUS サーバのセットアップ**

```
mail3.example.com> userconfig

Users:

1. admin - "Administrator" (admin)

External authentication: Disabled
```

**表 3-183 userconfig : RADIUS サーバのセットアップ (続き)**

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new account.
- EDIT - Modify an account.
- DELETE - Remove an account.
- PASSWORD - Change the password for a user.
- EXTERNAL - Configure external authentication.

[ ]> **external**

Choose the operation you want to perform:

- SETUP - Set up global settings.

[ ]> **setup**

Do you want to enable external authentication? [N]> y

Please enter the timeout in seconds for how long the external authentication credentials will be cached. (Enter '0' to disable expiration of authentication credentials altogether when using one time passwords.)

[0]> **30**

Choose a mechanism to use:

**表 3-183 userconfig : RADIUS サーバのセットアップ (続き)**

LDAP is unavailable because no LDAP queries of type EXTERNALAUTH are configured

1. RADIUS

[1]>

Configured RADIUS servers:

- No RADIUS servers configured

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a RADIUS server configuration.

[ ]> **new**

Please enter host name or IP address of the RADIUS server:

[ ]> **radius.example.com**

Please enter port number of the RADIUS server:

[1812]>

Please enter the shared password:

>

Please enter the new password again.

**表 3-183 userconfig : RADIUS サーバのセットアップ (続き)**

>

Please enter timeout in seconds for receiving a valid reply from the server:

[5]>

1. CHAP

2. PAP

Select authentication type:

[2]> 2

Configured RADIUS servers:

Host	Port	Timeout (s)	Auth type
-----	-----	-----	-----
radius.example.com	1812	5	pap

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Add a RADIUS server configuration.
- EDIT - Modify a RADIUS server configuration.
- DELETE - Remove a RADIUS server configuration.

表 3-183 userconfig : RADIUS サーバのセットアップ (続き)

```
- CLEAR - Remove all RADIUS server configurations.
```

```
[ ]>
```

## password または passwd

### 説明

自分のパスワードを変更します。

### 使用方法

**コミット** : このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理** : このコマンドはクラスタ モードでのみ使用できます。



(注)

---

passwd コマンドは、マシン モードしか使用できないゲスト ユーザが使用できるようにするための特例です。ゲスト ユーザがクラスタ内のマシン上で passwd コマンドを実行すると、警告メッセージは表示されず、ユーザのモードを変更せずにクラスタ レベルのデータに対して操作が行われます。他のすべてのユーザに対しては、上記の (他の制限されるコンフィギュレーション コマンドと同じ) 動作が行われます。

---

**バッチ コマンド** : このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-184**      **password**

```
mail3.example.com> password

Old password: your_old_password

New password: your_new_password

Retype new password: your_new_password

Password changed.
```

## last

### 説明

`last` コマンドは、システムに最近ログインしたユーザを表示します。デフォルトでは、システムにログインしているすべてのユーザを表示します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-185**      **last**

```
elroy.run> last
```

Username	Remote Host	Login Time	Logout Time	Total Time
=====	=====	=====	=====	=====
admin	10.251.23.186	Thu Sep 01 09:14	still logged in	1h 5m
admin	10.251.23.186	Wed Aug 31 14:00	Wed Aug 31 14:01	1m
admin	10.251.16.231	Wed Aug 31 13:36	Wed Aug 31 13:37	0m
admin	10.251.23.186	Wed Aug 31 13:34	Wed Aug 31 13:35	0m
admin	10.251.23.142	Wed Aug 31 11:26	Wed Aug 31 11:38	11m
admin	10.251.23.142	Wed Aug 31 11:05	Wed Aug 31 11:09	4m
admin	10.251.23.142	Wed Aug 31 10:52	Wed Aug 31 10:53	1m
admin	10.251.60.37	Tue Aug 30 01:45	Tue Aug 30 02:17	32m
admin	10.251.16.231	Mon Aug 29 10:29	Mon Aug 29 10:41	11m
shutdown			Thu Aug 25 22:20	

## who

### 説明

who コマンドは、CLI からシステムにログインしたすべてのユーザ、ログイン時間、アイドル時間、およびユーザがログインしたリモート ホストを一覧表示します。

## 使用方法

**コミット**：このコマンドにコミット操作は不要です。

**クラスタ管理**：このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト（ユーザがログインしたマシン）でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-186**      **who**

```
mail3.example.com> who
```

```
Username  Login Time  Idle Time  Remote Host  What
=====  =====  =====  =====  =====
admin     03:27PM    0s         10.1.3.201   cli
```

## whoami

### 説明

whoami コマンドは、現在ログインしているユーザのユーザ名および氏名と、ユーザが属しているグループを表示します。

### 使用方法

**コミット**：このコマンドはコミット操作が必要です。

**クラスタ管理**：このコマンドは、すべてのマシン モード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチ コマンド**：このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

**表 3-187**      **whoami**

```
mail3.example.com> whoami
```

```
Username: admin
```

```
Full Name: Administrator
```

```
Groups: admin, operators, config, log, guest
```

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は 2008 年 10 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



## シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>